

聖母女学院短期大学の特色及び概要

《1》 学校法人聖母女学院の沿革および聖母女学院短期大学の沿革

聖母女学院短期大学は、カトリック、ヌヴェール愛徳およびキリスト教的教育修道会（通称ヌヴェール愛徳修道会、本部フランス）を母体として設立された学校法人聖母女学院の設置する短期大学である。

設立母体であるヌヴェール愛徳修道会は、1680年にフランス中部のヌヴェール市近郊において、「神は愛である」という標語のもとに深い祈りの内にこの神秘を観想するとともに「愛は奉仕」、特に子女の教育とあらゆる種類の貧困に苦しむ人々に仕えるために創立された。この精神は世紀を通じて忠実に受け継がれ、今日、会員はヨーロッパ諸国、アフリカ、南米、中米およびアジアの発展途上国において、神と人々への奉仕に貢献し続けている。日本においても教育事業の他、種々の福祉活動、教会活動など、多方面にわたる仕事に従事している。

ヌヴェール愛徳修道会による日本における教育事業の沿革は以下のとおりである。1921年、神の摂理により、キリストの福音を告げ知らせるために生涯を捧げるべくフランス本部より派遣された7名の修道女が来日し、大阪教区において宣教活動を始めた。その修道女たちは、当時の日本の社会情勢に鑑み、キリスト教的人間観および世界観に基づいて日本の将来を担う子女の全人格的教育が行われるべき必要性を感じ、1923年、大阪市内玉造に聖母女学院を創立した。1925年には聖母女学院高等女学校を発足させた。仮校舎での10年近い草分け時代を経て、1933年、寝屋川市美井の現校舎に移転し、小学校が併設された。1947年、学制改革に伴い高等女学校は中学校と高等学校に改められた。他方、1949年、京都における最初のカトリック学校として、京都市伏見区藤森に京都聖母女学院小学校および同中学校が創設された。続いて1951年、京都聖母幼稚園、1952年、京都聖母女学院高等学校が開設され、伏見区には幼稚園から高等学校までが揃った。1960年、京都聖母女学院各校は聖母女学院から聖母学院に名称変更を行った。大阪においては1960年、枚方市に聖母女学院幼稚園を創設したが1998年に閉園した。

聖母女学院短期大学の設立は1962年である。保護者からの強い要望に応じて大阪府寝屋川市に家政学科が創設された。1968年には京都市伏見区に児童教育学科が開設され、1973年には専攻科児童教育専攻が設置された。1979年、聖母女学院短期大学新学舎が伏見区に完成し、1981年に家政学科を新学舎に移転統合して、現在の聖母女学院短期大学の姿になった。

1986年、家政学科では家政専攻と食物栄養専攻との2専攻制にした。1988年、国際文化学科を開設し、併せて別館学舎が完成した。1993年、家政学科を生活科学科に科名変更、家政専攻を生活科学専攻に名称変更を行った。また、同年より国際文化学科に専攻科を設置し、それにより聖母女学院短期大学は、専攻科児童教育専攻と専攻科国際文化専攻との2専攻になった。さらに同年、専攻科児童教育専攻は学位授与機構の認定を受けた。1997年、専攻科児童教育専攻の修業年限を1年から2年へ改定し、改めて学位授与機構の認定を受けた。2002年4月、国際文化学科では国際福祉専攻と英語コミュニケーション専攻との2専攻制にし、併せて福祉棟（マザーホール）を新設した。2005年度から本学第三次将来構想委員会を設置して学科改革を検討し、2006年12月の臨時教授会において、2008年度から国際文化学科を募集停止し生活科学科と児童教育学科との2学科にすること、国際文化学科の国際福祉専攻については生活科学科に、英語コミュニケーション専攻については児童教育学科へそれぞれ統合すること、また専攻科国際文化専攻についても募集停止にすることを決定した。これに基づき2008年度から生活科学科においては生活福祉専攻を新設し、福祉・介護を生活科学科における「生活の質を高める」一環と捉え直して生活環境、人間関係等により幅広い視野をもつ専門家養成を目指している。また児童教育学科においては、専攻科児童教育専攻も含めて、学生が従来にも増して国際感覚、異文化理解等の教養を身につけること、またそのような幅広い教養を身につけた教諭・保育者の養成を目指している。

学校法人聖母女学院の沿革は次のとおりである。1923年、最初の教育事業に着手し

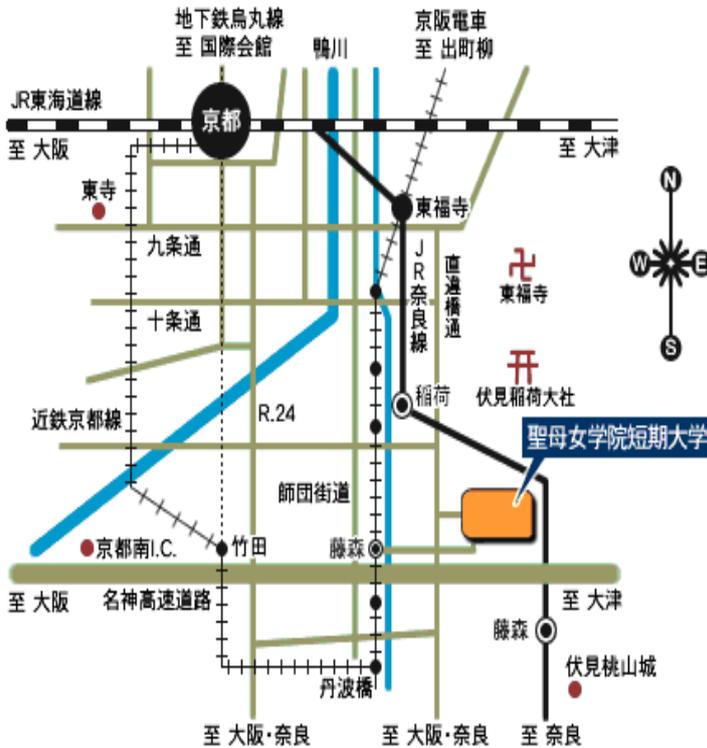
たヌヴェール愛徳およびキリスト教的教育修道会は、1930年、学校の設立母体として財団法人聖母女学院を設けた。1951年、財団法人聖母女学院は学校法人聖母女学院に組織変更を行った。2005年、ヌヴェール愛徳およびキリスト教的教育修道会フランス本部は教育事業を地元教会（教区）に委譲した。それによって学校法人聖母女学院は、その精神的指導を同修道会フランス本部からではなく、日本のカトリック大阪司教区大司教および京都司教区司教から受ける新たな体制になった。

西暦	月	概 要
1921	5	フランスよりヌヴェール愛徳およびキリスト教的教育修道会会員来日
1923	3	大阪市東区玉造に聖母女学院設立
1925	3	聖母女学院高等女学校認可
1932	2	大阪府寝屋川市香里園に学舎新設、移転
1932	2	聖母女学院小学校開校
1947	4	学制改革により聖母女学院中学校発足
1948	4	聖母女学院高等学校開校
1949	4	京都市伏見区藤森に聖母女学院小学校・同中学校開校（1960年聖母学院に改称）
1951	3	財団法人から学校法人へ組織変更
1951	3	京都市伏見区に聖母女学院幼稚園開園（1960年聖母学院に改称）
1952	4	京都市伏見区に聖母女学院高等学校開校（1960年聖母学院に改称）
1960	4	大阪府枚方市に聖母女学院幼稚園開園
1962	4	大阪府寝屋川市に聖母女学院短期大学開学。家政学科開設
1968	4	京都市伏見区に聖母女学院短期大学児童教育学科開設
1973	4	聖母女学院短期大学に専攻科（児童教育専攻、1年制）開設
1979	9	京都市伏見区に短期大学学舎新築
1981	4	短期大学家政学科が京都市伏見区学舎に移転
1983	12	米国ヴァーモント州セント・マイケルズ・カレッジと聖母女学院が姉妹校提携。同大学における語学研修のための短期留学（夏季）始まる
1988	4	聖母女学院短期大学国際文化学科開設
1991	4	聖母女学院小学校を大阪聖母学院小学校に校名変更
1993	4	短期大学家政学科を生活科学科に名称変更、生活科学専攻と食物栄養専攻との2専攻制に。短期大学専攻科に国際文化専攻を増設
1994	4	枚方市の聖母女学院幼稚園休園（1998.3.閉園）
1997	4	短期大学専攻科児童教育専攻を2年制にする。学位授与機構認定
2002	4	短期大学国際文化学科を国際福祉専攻と英語コミュニケーション専攻との2専攻制にする
2005	4	ヌヴェール愛徳修道会フランス本部は教育事業を地元教会（教区）に委譲し、学校法人聖母女学院は日本のカトリック大阪司教区大司教および京都司教区司教の指導による新たな体制に入る
2006	12	短期大学は2008年度から国際文化学科の国際福祉専攻を生活科学科へ、英語コミュニケーション専攻を児童教育学科へ各々統合し2学科制にすることを決定。また2008年度から専攻科国際文化専攻の募集停止を決定
2008	4	短期大学国際文化学科国際福祉専攻を生活福祉専攻へ名称変更し、生活科学科に設置
2009	3	短期大学は2011年度から、京都聖母女学院短期大学に校名を変更、同時に生活科学科生活科学専攻をキャリアデザイン専攻に変更することを決定。

《2》短期大学の所在地、位置、周囲の状況

1) 所在地：京都市伏見区深草田谷町1番地 075-643-6781

2) 位置：次のとおり



京都方面より

- ・京阪電車「祇園四条」から12分、「藤森」下車、徒歩2分
- ・JR奈良線「京都」から5分、「稲荷」下車、徒歩12分

奈良方面より

- ・近鉄電車「西大寺」から29分、「丹波橋」で京阪電車に乗換え3分、「藤森」下車

滋賀方面より

- ・JR琵琶湖線「草津」から19分、「京都」で乗換え

大阪方面より

- ・京阪電車「京橋」から33分、「丹波橋」乗換え

3) 伏見区の状況：面積 61.62 k²、人口 283,293 人（2009年5月、区広報）

京都市南東部に位置し、桂川と宇治川との合流地に近い伏見港は、京都、大阪間の水運の拠点であった。京都市伏見区は良質な地下水が豊富な地であり、酒造業が発達し、全国第2位の生産量を誇る。また、耕地面積京都市第一位の農業も、区画整理が進む中で米、野菜、花等が栽培され、市民への新鮮な農産物提供に大きな役割を担っている。そして、新しい都市機能集積の拠点となる高度集積地区における先端的な創造都市づくりや地下鉄東西線の延伸工事が完了するなど、伏見区は、21世紀の京都の新しい活力を創造していく地域として更なる発展が期待されている。

I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1-1 建学の精神、教育理念について

2005年4月、新たに成文化された建学の精神をここに掲げる。

「カトリックの人間観、世界観にもとづく教育を通して、真理を探究し、愛と奉仕と正義に生き、真に平和な世界を築くことに積極的に貢献する人間を育成する」

本学の起源はフランスのヌヴェール愛徳修道会から来日したフランス人修道女が、1923年に設立した聖母女学院高等女学校にある。創設者が望んだのは、「学校を単なる知識の伝達の場にとどめるのではなく人類共同体の中で人々との関わりの中に生きる、特に弱い立場にある人々との連帯に生きる『奉仕の精神』についても学ぶ場にする事」であった。従って、弱い人、貧しい人がより人間らしく生活できるように、キリスト教精神に基づいて手助けできることのできる人間教育を行ってきた。教育理念については、学章の三つの百合（トロワ・リス）を象徴として、キリスト教精神における「従順、純潔、誠実」を掲げた。この「従順、純潔、誠実」という語は時代とともに変貌し、現在にあって、従順は自分の決定、意志を貫くことへのひたすらな歩みを、純潔は信じた道を一筋に進みたいとの熱い思いを、誠実は何れに対しても偽らない自分として関係を築き上げていくだけの他者への信頼と読み直せるのではないか。特に誠実は何ものをも恐れることなく貫徹できる人間として明確な価値観を打ち出している。今後、社会的、世界的に弱い立場におかれている人々を「見捨てない」「忘れない」真の愛と優しさを建学の精神として深めていくことが大切である。

学び巣立った人々を暖かく、そして生涯にわたり受け入れる同窓会もまた様々な時代を加味した建学の精神を共有できる心のよりどころでありたいと考えている。「聖母ファミリー」という大きな家族の場に、全ての人が安心し、頼れる場となるように、より一層の充実を計り、ファミリーとしての強い絆を形成したい。

1-2 教育目的・教育目標

1-2-1 生活科学科

生活科学科の前身である家政学科は、1962年、女性の高等教育への志向が高まり始めた時期に、豊かな知性・母性の育成とカトリック教会が基本とする「家庭」の充実を教育目的として設置された。

その教育目的は時代の変遷とともに変化し、女性の社会進出が進むなかで、本学科は、設立母体のヌヴェール愛徳修道会創立者ジャン・パティスト・ドゥラヴェンヌのメッセージ「C'est toi qui m'intéresses. C'est toi!»（私が関心を寄せるのはあなた、あなたです）を守り続けながら、専門性を生かして社会に貢献し、次世代を担う有能な人間性溢れる女性の養成を目指している。

本学科は、従来の生活科学専攻と食物栄養専攻に、2008年度より生活福祉専攻が加わり、2009年度は、3専攻体制の完成年度に当たる。衣・食・住・情報・福祉の各専門分野での幅広い人材育成を目標にしている。

1-2-2 児童教育学科

(1)本科

児童教育学科は、1968年、小学校教員、幼稚園教員の不足という当時の状況下における社会的要請に鑑み、確固たる人間教育の精神的基盤を有する教員の養成を目的として、創設された。

以来、「カトリックの人間観、世界観に基づく教育を通じて、真理を探究し、愛と奉仕と正義に生き、真に平和な世界を築くことに積極的に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神に則り、幼い子どもたちを含む他者に寄り添い、その想いに眼を注ぐことのできる温かい人間性と、児童教育について、高度な専門性を有する人材の育成を、学科の教育目的としている。

また、子どもをとりまく環境や子どもの発達に深い理解をもち、確かな実践力をもつ

て、一人ひとりの子どもを大切にし、真の人間力のある子どもの育成をめざす教育者・保育者の養成を、学科の目標としている。

(2)専攻科児童教育専攻

本科の上に積み重ねられた2年制の専攻科児童教育専攻においては、本科で培った一般教養、教育・保育に関する基礎的な知識・技能、教育者・保育者としての確固たる視点の習得等の上に、一般教養については、さらに国際理解等の現代的教育課題に視野を広げ、教育・保育に関しては、より専門的な知識・技能等を学ぶことにより、教育者・保育者としての資質をさらに高め、より実践力のある教育者・保育者の育成を目標としている。また、具体的な目標としては、学士号（教育学士）の取得と、それに伴い小学校教諭1種免許および幼稚園教諭1種免許の取得を掲げている。

1-3 教育目的・教育目標の定期的な点検

本学院の「建学の精神」は、設立母体であるヌヴェール愛徳修道会の会員によって、いわば生身の人間の言行を通して継承されてきたが、ヌヴェール愛徳修道会の学校教育活動の終了に伴い、理事会は、2005年度において「建学の精神」の成文化を行い、以後、その周知徹底に努めている。「建学の精神」の成文化以降、期間を定めて「建学の精神」の解釈の見直し・点検を定期的に行うということはしていない。

教育目的、教育目標の定期的な点検について、各学科で主に自己点検・評価報告書作成時、次年度の教育課程、『大学案内』、「学科パンフレット」等の検討の際に点検された上で教授会において検討、承認している。

1-4 建学の精神などの特記事項

—クリスチャンセンターの活動—

1-4-1 クリスチャンセンターの活動目標

本学クリスチャンセンターの活動目標は、建学の精神を学内に浸透させ、本学の特色であるキリスト教教育の実践に具体的に取り組むことである。その目的を遂行するための活動内容としては、様々な宗教行事等の企画運営だけではなく、社会的活動などを通して学生たちに現代社会をキリスト教的な視点を通して考える機会を積極的に提供、学生一人ひとりがアクセスできるホームページの充実、また、全教職員に日々の教育活動を通して学生たちに建学の精神を伝える使命を帯びていることを啓発する機会を設ける事等が挙げられる。また、学内へ向けられた活動のみならず、地域にも開かれたミッションという意味において、公開講演会、クリスマスの集いなどもある。さらには、カトリック大学として、有機的に連携がもてるように、他大学との交流についても積極的に取り組み、京都宗教系大学懇話会をはじめ、近隣のカトリック大学とのつながりも大切にしている。

2009年度のスタッフは各学科より推挙された教員と学長任命の教員との計6名によって構成されている。特にカトリック信者のみではなく、スタッフの宗派、信教を超えて幅広い視野のもとで構成されている。

1-4-2 2009年度活動報告

(1) 宗教的全学行事の企画運営

全学の学生及び教職員の参加が促され、時には地域一般社会人にも公開される、季節ごとの伝統的に本学内で踏襲されてきた宗教的行事を意味する。これには、創立記念ミサ、追悼ミサ、クリスマスの集い、成人祝福式などがある。

()内は参加人数を示す。

4月4日 新入生研修会 (318名)

入学時に、本学の建学の精神であるキリスト教および本学の歴史について知る機会として、学長の講話とキャンドルサービスが行われた。

6月4日 創立記念ミサ (111名)

創立記念日(6月3日)に最も近い木曜日にあたり、建学の精神を思い起こし、感

謝を捧げた。

11月26日 追悼ミサ (27名)

11月を死者の安息を祈る月として、この世を去った本学の恩人、教職員、学友、また、全世界すべての人々のためにミサを捧げた。例年の出席者数を参考にして、本年からオラトリウムで行う。

12月17日 クリスマスの集い (346名)

キリストの降誕を全学あげてお祝いするために、第1部に御言葉の祭儀とキャンドルサービスを行い、第2部に学生によるブラックライトシアターでのページェントを行った。

1月10日 成人祝福ミサ (70名)

社会人として第一歩を踏み出す学生の前途に、神の祝福が豊かであることを願って共に祈った。

3月16日 卒業に際して感謝と祝福のミサ (346名)

本学で学び、卒業の時を迎えた学生が、感謝のうちに未来に向かって希望をもって羽ばたくよう、共に祈った。

(2) 有志参加による宗教行事 (誕生日ミサ、チャリティー・バザー)

①誕生日ミサ

5月21日「春生まれの誕生日ミサ」	参加者	(102名)
7月9日「夏生まれの誕生日ミサ」	参加者	(45名)
10月8日「秋生まれの誕生日ミサ」	参加者	(20名)
2月5日「冬生まれの誕生日ミサ」	参加者	(27名)

②チャリティー・バザー (10月20日と21日 本学マリアンホール1階)

スマトラ島大地震の災害に際し、学内に呼びかけて不用品を回収し、昼休みにミニ・バザーを行った。収益はカリタスジャパンに贈った。教職員、学生のほかに子育て支援のために来校されていたお母様方が参加し、募金を募ることにより短時間で効果的に収益を上げると同時に、災害支援に対する意識を深めることができた。

(3) ホームページ <http://www.seibo.ac.jp/facilities/kokoro/>

ホームページ「こころのひろば」は、建学の精神を伝えるもう一つのメディアである。特に「わたしの好きなことば」においては、センターのスタッフを中心に、輪番制で教職員個人の「好きな言葉」とその出典、それにちなんだ短いひとことを、また、「こころによぎること」においては、同じメンバーがそれぞれ自由形式のエッセイを発信した。本年度は定期的に更新することができ、内容としても深いエッセイが掲載された。

(4) キリスト教研究会

今年度も、昨年に引き続き、誕生日ミサの日の午後から、学長による教職員対象研究会を企画した。ここでは、建学の精神を学内の教職員に浸透させ、日々の教育活動にそれを生かしていくことが目的とされる。

(5) 公開講演会 (6月25日、本学講堂)

テーマ：「知識と知恵」

講師：アンセルモ・マタイス名誉教授 (聖母女学院短期大学前学長)

今年度も時間割の関係上、45分のアッセンブリーアワーの時間内での講演会となった。280名が参加し、現代の学生が持っているコンピューターに関する知識などとは異なる経験による知恵について具体的に語られた。アンケートの結果、学生にはとても分かりやすく、面白い内容であった事が確かめられた。

(6) 他大学宗教的組織との交流

昨年度より引き続き、京都ノートルダム女子大学 (京都市左京区下鴨野々神町) のカトリック教育センターと、本学クリスチャンセンターとの懇話会が、6月10日 (水) に京都ノートルダム女子大学、11月26日 (木) に本学で開催された。これまでに10回実施している。

(7) エトワール学生委員の育成

クリスチャンセンターと学生を結ぶ役割として、また、具体的な宗教行事に、聖書朗読、共同祈願、受付、誘導などの仕事を学生として行う委員をエトワール委員と

呼ぶが、彼女らを、「建学の精神を伝える星」として、大切に育成していくのもセンターの仕事である。彼女たちにできるだけ豊かに、カトリック・ミッションにふれる機会を提供し、それらを通して彼女たちが周りの学生達をリードし、教員、あるいは大学からの押し付けではなく、「仲間と共に参加してみたい宗教行事」という意識を学内に広めていってほしいという目標がある。4月に募集した時点では新生がひとり参加を申し出たが、この学生は聖歌隊に入ったため、本年はエトワールのみミーティングを開くには至らなかった。今、聖歌隊との連携も含めてエトワール委員のあり方を考え直す過渡期にあると言える。

(8) 発刊物「わかちあい」

センター刊行物「わかちあい」は、隔年発刊とされており、第三回発刊として、2010年3月に発行された。これは、センターが聖母女学院短期大学の中にあって、いかに建学の精神が学生、教職員と共に生きているかについて、社会に発信する重要な役割を帯びている。本年度の「わかちあい」は、センタースタッフとクリスチャンの学生による、キリスト教関係の論文、エッセイ、及びセンターの活動報告等が中心となり、現在のセンターの様子がわかるように構成されているのみならず、読み物としても内容の充実したものとなった。

(9) 聖歌隊活動

本学の聖歌隊は、クリスチャンセンターに関わる様々な活動や大学の諸行事において、聖歌を歌い、本学の建学の精神を音楽で伝えるための大きな役割を担っている。本年度は新しい聖歌の導入にも積極的であった。

しかし、年々過密になる授業時間数、学外実習のため、練習時間の確保、および隊員数の確保が困難となっており、今後の活動の充実を図るためにも、練習方法、及び学生がより意欲的に参加できる活動内容を検討していく必要があると考えられる。

(10) 木曜祈祷会

学期中には、毎週木曜日午前8時40分から8時57分までオラトリウムで教職員と学生のための祈祷会を行い、その間学舎に音楽を流した。参加者は多くないが、センター長が中心となって今後も続けていく。

1-4-3 評価と問題点

(1) 2009年度のセンター教員スタッフはセンター長である学長を含め6名配属されており、人的実働力とニーズの均衡はうまく行ったと思われる。しかしながら、行事の際にはセンター委員のみでは十分ではなく、学生の受付などにはその場で委員以外の教員の援助を必要とした。

(2) 2005年から、ミサ中に司祭の介添えを行なう侍者の役割を、カトリック信者ではない教員にお願いしている。本学に奉職する教職員は、センターのスタッフであるなしに関わらず、また一人ひとり信教の自由に基づくも、建学の精神を理解し、それを学生に伝える使命を帯びている。そのことを踏まえ、次年度もより一層、固定メンバーではなく、より多くの教職員に侍者の経験を提供できればと考える。

(3) 京都の宗教系大学との交流は例年の通りであったが、カトリック大学との交流はあまり活発ではなかった。具体的には京都ノートルダム女子大学カトリック教育センターの懇話会は昨年通り2回行われたものの、メンバー全員の参加には至らなかった。更に、すでに3回行われた両学共催の「沖縄に平和を学ぶ旅」の実施も、催行人員に満たず、実施できなかった。今後もできるかぎり両大学の両センターの特色を生かしつつ、連携を図る事ができればと希望している。

(4) 昨年度に引き続き、センタースタッフ6名の分掌を明確化(聖堂、物品確認発注、HP、発刊物 etc)し、定例委員会時に必要に応じて確認してきたことにより、連携が取りやすかった。

(5) エトワール部員は主として宗教的行事を学生の立場からサポートする役割を担う存在として長らく存在していたが、数年来、学生たち自身が積極的に活動に取り組むところまでに育てることができていない。聖歌隊も、固定メンバーを確保するのが困難で、

実習と重なった卒業感謝と祝福のミサにおいては、専攻科1回生の学生に応援を求めるしかなかった。年ごとに学生たちが時間的にゆとりを失い、学校行事を重荷に感じていることは認めざるをえない。

(6) 講師との契約終了により、キリスト教学に組み込まれていた聖歌の歌唱指導がなくなった為、全学行事での聖歌の合唱は難しくなった。卒業感謝と祝福のミサの前日には音楽の先生方に依頼して練習をしたが、今後は学生全員の歌唱指導の場を何回か持つように計画する事が課題となろう。

II 教育の内容

2-1 教育課程について

2-1-1 教育課程の体系的編成

(1)生活科学科

生活科学科では、受験者数の減少という昨今の厳しい状況に対して、2009年度は、全学レベルで設置された将来構想委員会を中心に、2011年度より実施予定の新たな学科のあり方が検討された。その結果、より専門を活かした就職に強い人材育成を目指すことを目的に、学科名を「キャリアデザイン学科」と変更し、生活科学専攻を、「キャリアデザイン専攻」とする案を文部科学省に提出したが、食物栄養専攻との2専攻で構成される学科名として相応しくないとの指導があり、専攻名称のみを変更することとなった。

①生活科学専攻

本専攻では、2008年度からスタートした「情報ビジネスコース」が2年目を迎え、2009年度は新たなコース体制の完成年度に当たる。この情報ビジネスコースの希望者数は、4コース中、最も多く人気コースとなっている。その理由としては、一般事務系就職希望の学生が、情報関連の資格取得を目指し、当コースを選択することが挙げられる。また一方では、就職活動に有利に働く期待からか他の3コースからも情報関連の資格取得を目指す学生が増えている。

教育課程の編成としては、各コースに専門科目を設置する他、専攻共通としての科目も設け、また講義科目と実習系科目を並行して学べるよう、開期ごとにバランスを考慮し、教育目標に沿って体系化されたカリキュラムを構成し提供している。

1回生前期に、各コースにおける基礎部分の導入科目として、生活福祉専攻と共通の必修科目である「生活科学概論」を設けている。学生は、教養教育科目としての全学共通科目、および学科科目を履修しながら専門性を深め、2回生になると自ら希望した各コースの教員のもとで、必修科目である「生活科学演習」「卒業研究」に取り組んでいる。そして、その成果は、卒業研究発表会において発表され、また「生活科学演習抄録」として発刊公表されている。この、少人数制によるゼミナール形式教育は、建学の精神であるところの、学生一人ひとりを大切にするものであり、本専攻の教育課程の特徴である。

また、本専攻はカリキュラムの自由度が高いので、毎年、多様化する社会の状況と学生の動向とを見ながら、カリキュラムの検討、見直しをおこなっているが、とくに、2009年度は、2011年度より実施予定の新たな専攻名称とコース体制が検討された。その結果、専攻名称を、キャリアデザイン専攻とし、「情報ビジネス、京都食文化、ファッションアパレル、建築インテリア、ケアマネージメント、心理医療ビジネス」の6コース体制が決定された。なお、各コースにおいては新専攻の目的に適したコースカリキュラム、取得資格、進路先の見直し、さらにキャリアデザイン専攻の共通科目についても検討を行った。このように2009年度は、本専攻の新たなスタートを迎えるにあたり、構成員が一丸となって様々な可能性を模索しながら検討を重ねた1年間であった。

次に、2009年度における各コースの教育目標と教育課程は以下の通りである。

(a)情報ビジネスコース

本コースは、情報とビジネスの分野を統合し、社会で活かせるビジネススキルをしっかりと学ぶために、2008年4月に開設されたコースである。2009年度一期生が卒業年度を迎え、2年間の集大成として「情報処理士」「ビジネス実務士」「秘書士」の3資格を取得、さらにそれらの資格を活かして各自就職・進学と希望のキャリアの道を歩み始めた。就職難といわれる昨今において、一期生の学生の中には、希望している業種で複数の内定を得る学生も出てきており、各自2年間学んだことを就職活動に活かすことができたようである。

2月には、情報ビジネスコースの一期生が卒業研究発表をおこなった。テーマは、ビジネスマナーに関連した研究や、聖母女学院短期大学の活性化に繋がる内容を提案したグループ、アニメーション作成や携帯電話に関する調査・研究など、情報・ビジネスに関連した分野で、各自が1年間をかけて十分に準備をした内容で、卒業研究発表日を迎えることができた。なお、学生が卒業研究でテーマとして提案・作製したバッグは、オ

オープンキャンパスで高校生に提供するグッズとして現在実際に使用されており、大変好評を得ている。

また、2009年度は情報ビジネスコースを希望して入学してきた学生が、開設年度の1.5倍の数となり、情報活用能力やビジネスマナーなど、社会人として必要な幅広い知識の習得を望む学生が増加している状況である。

2009年度は、情報ビジネスコースも2年目を迎え、1回生と2回生の交流ができる状況となったため、2回生に就職活動の様子や在学中に取得しておくべき資格についてのアドバイスを1回生に向けて話してもらおう機会を何度か作ったが、大変刺激になったようである。

一期生の2年目の状況であるが、2回生になると、就職活動が最優先となり、検定試験の受験を積極的にする学生が少なくなる傾向であった。このことから、就職活動のことも考慮して、1回生のうちに自信を持ってアピールできる資格を取得する機会を作り、それを就職活動に活かすことができるよう指導する体制を作ることが鍵となる。今後も情報ビジネスコースは、1回生の1年間の過ごし方をしっかりフォローすることで、学生の希望する進路に向けて、自信を持たせることができるのではないかと考えている。

学生が授業で使用する機会が多い秘書実務演習室であるが、2009年度2年目を迎え、授業で使用する電話機も増設され、徐々に設備が整ってきている。今後も引き続き充実した環境で学生が学べる体制作りをすることで、就職活動により影響があると予想される。

(b)服飾アパレルコース

本コースは、科学・造形・社会的なアプローチからアパレルを総合的に学び、また常に生活者の視点からファッション業界を観察できる人材の育成、並びに2年間の学びから自らの感性を磨くことを目的とする。授業では、講義と実験・実習を組み合わせた実践的な授業形態と少人数制による充実した学生指導が行われ、毎年、専門科目に対する学生満足度は高い評価を得ている。具体的な専門科目としては、科学領域科目のテキスタイル論・実験Ⅰ・Ⅱ、被服整理学・実験、染色学、繊維製品品質管理論、造形領域科目のパターンメイキングⅠ・Ⅱ・Ⅲ、染色論・実習Ⅰ・Ⅱそして社会領域科目の服飾文化論、アパレル消費科学から構成される。また、ファッションに欠かせないデザインや色彩に関しては学生一人ひとりのクリエイティブな能力向上を目指し、実践的な授業方法を行っている。その結果、就職では毎年、有名アパレル企業への内定者も多く、また本年度は新たな業種として大手繊維商社への就職先も開拓できた。ここ数年、本コースでは2年間の学びからさらなる学問探求をと四年制への編入学を希望する学生が現われ、本年度は芸術学部（1名）、人間学部（1名）へ進学した。

本年度の反省事項は、前年度からの課題である本コース奨励の検定試験受験者の減少が挙げられる。その理由は、①本専攻の在籍者数の減少にともなう服飾アパレルコース希望者の減少、②アパレル業界の早期採用試験による学生の早期就活のため各種検定試験の受験意欲の低下等が挙げられる。これら問題点の改善策として、2011年度より各種検定試験に関わる科目は専任講師が担当し、また講義では各種検定試験テキストを使用し、受験対策に臨みたい。

(c)住居インテリアコース

本コースでは、住関連業界でスペシャリストとして活躍できる専門性の高いインテリアや建築の知識、技術を習得すると同時に、生活者としての洗練されたセンスとこだわりの視点も身につけることを目的としている。そのために、講義と実習を組み合わせ、基礎から応用へと無理なく専門知識・技術が身につくカリキュラムを編成している。本年度、法改正により、「二級建築士及び木造建築士試験の受験資格」に係わる個別認定課程の申請をおこなった結果、2009年度生から、受験に必要な実務経験年数が2年から1年に短縮された。所定科目の単位取得により得られる受験資格であるにもかかわらず、必要な単位を揃えることが出来ない学生が増加しているのは残念である。その他に、任意に受験可能な、建築CAD検定やインテリア設計士、リビングスタイリストなどの取得も推奨している。商業施設士補は単位取得の上、講習を受けて資格を申請する必要があるが、本年度は単位を習得したにもかかわらず、講習を受けたものはいなかった。

本コースでは、「生活科学演習」「卒業研究」として、卒業設計または卒業論文のいずれかを選択するが、2009年度は、前年度に続き、卒業論文の選択者が多かった。

(d)食デザインコース

本コースは、社会の変化に伴い多様化する食環境を、科学的にあるいは文化的な視点で捉え、より豊かな食生活を提案する人材の育成を目指している。1回生時には「食の基礎演習」、「食文化と科学」等で日本や京都の食文化についての概要を学び、同時に「食の機能」「食と健康」等で食の科学的理解を深め、2年次の卒業研究へと繋げている。2009年度は新規開講された「京都ブランド」の履修によって、産業としての京都の食文化に着目し、そこからテーマを発見して卒業研究へと発展させた学生がいたことは新たな成果であった。また、なにわ野菜、ダイエット、中国菓子、音楽と食など多彩なテーマの卒業研究が見られ、多角的な視点から食を学ぶ本コースの特徴が現れた。しかし、フードスペシャリストの資格取得に対しての意欲に乏しく、本年度は2名のみでの取得であった事は残念だった。今後は、食品化学など学生の不得意な科目のより丁寧な指導が必要と考えられる。

②生活福祉専攻

本専攻は、生活科学の視点から、社会の変化や複雑な人間環境に向き合える自立した生活者、賢い生活者を育成することを基本方針とし、生活を科学と感性の両面から捉える力を養い、個性と感性を大切にしたらしく福祉の創造に寄与できる人材育成を目標にしている。そのために本専攻では、入学後に、介護福祉コースと生活福祉コースのいずれかを選択し、介護福祉士国家資格取得または社会福祉士国家試験受験資格を取得することで社会貢献できる専門職を目指せるカリキュラムにしている。

特に介護福祉コースは、社会の要請に応える介護福祉人材育成の観点から、講義、演習、実習を組み合わせ、地域住民の協力を得て体験型授業を多彩に取り入れることに主力を置いた。今年度から「コミュニティサポートⅠ、Ⅱ」を開講し、地域住民を対象にした「介護予防講座」や「ふれあいサロン」を展開する参画型授業を実施し、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、応対能力を養うことに効果がみられている。

しかし、生活福祉コースを選択する学生は、資格を取得したいというニーズが介護福祉コースの学生ほど高くはなく、生活福祉コースの希望者自体が少ない状況である。そこで、カリキュラムを新たに見直し、生活福祉専攻は、生活科学専攻心理福祉コースにかわるかたちで発展的解消することになった。

③食物栄養専攻

食物栄養専攻は、社会に貢献できる専門性、実践力を備えた栄養士の育成、併せて教諭としての見識と教育力を持つ栄養教諭の育成を目指している。

現在は、栄養士に求められる専門性がより高度になっている一方で、学生は、「ゆとり教育」を享受してきた世代で、以前のような4年制養成校のような濃密な授業には適応し難い学生が大半を占めるようになってきた。そこで、学生に早期から能動的な学習態度の形成を促すために、2008年度より2年間の配当科目を見直し、入学当初から教養科目のみならず専門教育にも力点を置いた。その結果、2008年度生では入学年次一ヵ年で、学習態度に積極性や規律がみられるようになり、栄養士資格や栄養教諭免許状取得の目的意識も高まったものの、2年次のより専門性の高い科目では単位修得に至るまでに相当の指導を必要とする学生が増加した。2009年度生も同様の傾向が見られ、より分かり易い教授方法を検討している。

「給食実務実習」では聖母学院小学校への給食提供を開学時より行っていると同時に、国際コース五年生対象の食育講座「和食を楽しみましょう」も2009年度で3年目となり、定着にいたっている。このような有機的な小大連携は学生の学習意欲の向上など学習効果が表れている。

2006年度から始めている「ボランティア活動」では、年度ごとの連携も進み、活動が定着化した。保育園や地域イベントでの食育活動など学内では得られない貴重な体験を経て、社会貢献する喜びから、栄養士、栄養教諭を目指す学生としての自覚や学問的探究心に結びついている。また、社会人との関りのなかで社会性が育まれ、地域からも一定の評価を得ている。

今年度の「校外実習」では真摯な態度が評価された学生がいる一方で、栄養士としての自覚不足を指摘された学生も存在した。さらに栄養士免許取得を断念する学生も見られることから、学生のキャリア教育の見直しが当面の課題である。

2009年度は、入学当初に反復しながら基礎を学び、1回生後期から徐々に専門性を深め、二回生前期には集中的に専門教育を実施し、後期の「校外実習」でそれまでの学びが十分に活かせるように、そして、卒業時には栄養士としての実力が確実に育成されることを期待して教育課程を変更している。次年度にその成果が現れることを期待している。

就職状況は、本年度も栄養士として就職を希望した学生はほぼ全員が希望を達成している。

(2)児童教育学科

本学科は、幼い子どもたちや社会的弱者への支援や教育を通じて、本学の建学の精神及び教育目標の達成を図るべく、カリキュラムを編成している。

その根底にある考え方は、VIP=Very Important Personとしての学生への対応である。本学科は、小規模であるということもあって、一人ひとりの学生が“VIP”であるということ“意識”させるようにしている。それは、自分がかげがえのない者として大切にされているという“意識”は、延いては“一人ひとりの子どもを大切にする”ということにかえっていくからである。この基本姿勢に立って、子ども一人ひとりの心身の成長を理解し、社会性の育ちをサポートするなかで、真に人間力のある子どもの育成をめざす優れた指導者、教育者の養成を目標にしている。

そのための基本的な考え方として、本学の創設当初からの重要な方針の1つである「確固たる理論の理解に基づく“実践重視”」の姿勢がある。

たとえば、学科科目の多くを占める実践・実技・演習などの科目は、少人数のクラス編成とし、きめ細やかな“個人指導”を中心に、カリキュラムを編成している。それらの成果は、実践の場としての「教育実習」「保育実習」では言うまでもなく、対外的行事である「卒業作品展」「子どもフェスタ」あるいは、ゼミ単位の活動などを通じて、評価を得ている。

また、教育実習、保育実習は、学生一人ひとりの意識、意欲を重視し、学生が自主的、主体的に実習に参加できるように、長期間をかけて個別面談をしながら指導している。また、実習後の事後指導においても、一人ひとりの学生の感動が将来につながるように、きめ細かく面談を中心に展開している。

また、本学は、同じキャンパス内に幼稚園、小学校が併設されており、「教育実習」「保育実習」の授業等を活用して、見学・参観等、連携した活動の場が設定できるような、時間割上の配慮をしている。

本学科においては、複数の免許、資格を取得するための必修科目を履修するだけでなく、社会的要請を受けて、英語などの高いコミュニケーション能力や、幅広い教養と技能をもった、望ましい指導者、教育者の育成のため、授業科目の充実をおこない、教養科目・選択科目等を、可能なかぎり履修するように指導している。したがって、1・2回生を通じて、本学科のカリキュラムは、相当過密なものとなっている。

具体的には、本科は下記の2つのコースを設置して、クラス編成をしている。コースの区分は、取得免許および資格によるものであり、「小・幼・保コース」は、主に小学校教諭2種免許、幼稚園教諭2種免許、保育士資格の3種類を、「幼・保コース」は、主に幼稚園教諭2種免許と保育士資格の2種類を取得するコースである。

(a)小・幼・保コース

乳幼児期から学童期まで、長い期間に亘って、また広い視野に立って、子どもの成長を支えていくために、多種多様なカリキュラムを編成している。つまり、保育園、幼稚園から小学校へ、子どもが人として成長していくための、最も重要と思われる時期において、子どもの発達と学びの連続性を重視して、指導できるような人材の育成をめざしている。したがって、相当数の設置科目があるが、その多くを必修科目として、可能なかぎり履修するよう指導している。

(b)幼・保コース

人格形成の基礎にある乳幼児との関わりを、よりすばらしいものにするためには、保育者が、ただ子どもの眼の高さに立って、共に考える優しさと感性を持っているだけでなく、地域の子育てやそれらの支援、あるいは障害児保育にも対応できるような専門性が必要である。そのために、福祉や実技関係の選択科目のみならず、施設や保育所での実習を、より充実したものにするべく関連科目を、充分に選択履修させている。

(3)専攻科児童教育専攻

本学の専攻科・児童教育専攻は、大学評価・学位授与機構より、学士（教育学）取得のための教育機関として認定されている「認定専攻科」である。つまり、教育職員養成の課程認定を受けており、学士号の取得によって、小学校教諭1種免許、幼稚園教諭1種免許が取得できる。

2006年より定員増をしたが、入学生のバックグラウンドも、より多様化してきている。なかには、“教育”に関連しない分野からの入学生もあり、本学・本科からの入学生とは、学習履歴にかなりの差異がある。したがって、ますます個に応じたカリキュラムや履修指導体制を工夫する必要がある。

2007年度には、学位授与機構からの監査もあって、上記のような現状も踏まえ、カリキュラム等の抜本的見直しを行ない、2009年度より、可能な限りのカリキュラム改善をおこなった。

2-1-2 授業形態及び必修・選択のバランス

(1)生活科学科

生活科学専攻における専門教育は、講義：演習：実習は2.3：1.3：1.0の割合であり、演習と実習を合わせると講義と同数となり、バランスは取れていると考える。必修：選択は1.0：16.0と圧倒的に選択科目が多い。これは入学後、4コースの科目が自由に選択でき、それを踏まえた上でコースの決定が可能なよう、選択科目を多く開講しているためと言える。開講科目の専任と非常勤は1：1で、バランスは良いと考えるが、各コースの教育内容に最も精通した専任教員を配置して教育目標達成に向けて努力している。

生活福祉専攻は、講義：演習：実習が2.6：1.0：1.0の割合で、バランスは良いと考える。専任：非常勤は3：1で、専任が主要科目を担当している。介護福祉士資格を取得しなくても卒業可能であるため、選択科目にゆとりがあり、必修：選択の割合は1.0：14.0となっている。

食物栄養専攻は、講義：演習：実習は4.0：1.0：1.5で、専任：非常勤は1.0：1.0と、栄養士専門科目の主要科目は専任が担当する一方、教育内容が多岐に渡るため各分野の非常勤講師を多彩に配置している。

(2)児童教育学科

児童教育学科においては、文部科学省令における「教育職員免許状」並びに、厚生労働省令の定める「保育士資格」等の取得のために、カリキュラム編成においては、当然ながら必修、選択のバランスについて、その取り扱いには、十分に配慮をしている。

また更に、本学においては、カリキュラム編成上の理念として、演習を中心とするクラス単位の授業を基本にして、“理論が実践を支える”ことができるように、それらの科目の充実や、時間割上の工夫をしている。

2-1-3 免許・資格等の取得について

本学では、2学科及び専攻科において、さまざまな資格取得が可能なように、教育課程が編成されている。

(1)生活科学科

生活科学専攻では、各コースおよび全コース共通で各種資格取得を奨励している。所定の科目を履修することによって取得可能な資格は、ホームヘルパー2級（全コース）、情報処理士、ビジネス実務士、秘書士（以上は情報ビジネスコース）、フードスペシャ

リスト（食デザインコース）、二級建築士・木造建築士受験資格、インテリアプランナー登録資格、商業施設士補（以上は住居インテリアコース）である。また、検定試験に合格して取得できる資格は、日商PC検定試験（データ活用・文書作成）、初級システムアドミニストレータ、色彩検定、ファッションビジネス能力検定、インテリアコーディネーター、インテリア設計士などである。受験対策として、授業とは別に、教員による資格取待支援のためのライセンスアワーを設けている。大学全体で設けている資格支援のエクステンション講座との相乗効果により、一定の成果をあげている。

2009 年度生活科学科資格取得状況

表Ⅱ－１－１ 生活科学専攻共通

年度	ホームヘルパー 2 級		
	取得をめざした学生数	取得者	取得率 (%)
2009	3	3	100.0

表Ⅱ－１－２ 情報ビジネスコース

年度	日商PC検定試験 (文書作成) 3 級		日商PC検定試験 (文書作成) ベーシック		日商PC検定試験 (データ活用) 3 級		日商PC検定試験 (データ活用) ベーシック	
	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)
2009	58	35 (60.3%)	51	51 (100.0%)	31	17 (54.8%)	56	39 (69.6%)

年度	文書デザイン 検定試験 3 級		文書デザイン 検定試験 2 級		文書デザイン 検定試験 1 級		Excel 表計算処理 技能検定試験 3 級	
	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)
2009	14	13 (92.9%)	24	23 (95.8%)	13	12 (92.3%)	0	0 (0%)

年度	プレゼンテーション作成 検定試験 3 級		プレゼンテーション作成 検定試験 2 級		プレゼンテーション作成 検定試験 1 級		サービス接遇 検定試験 3 級		サービス接遇 検定試験 2 級	
	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)
2009	4	4 (100.0%)	4	4 (100.0%)	0	0 (0%)	21	20 (95.2%)	15	12 (80.0%)

年度	ビジネス実務 マナー検定 3 級		ビジネス実務 マナー検定 2 級		秘書検定 3 級		秘書検定 2 級		秘書検定 準 1 級	
	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)
2009	5	4 (80.0%)	1	0 (0%)	1	1 (100.0%)	9	5 (55.6%)	1	0 (0%)

表Ⅱ－１－３ 服飾アパレルコース

年度	色彩検定 3 級		色彩検定 2 級	
	受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)
2009	6	6 (100.0%)	0	0 (0%)

表Ⅱ－１－４ 住居インテリアコース

年度	コース 人数	インテリア プランナー 受験資格 (コース中の割 合)	二級建築士受 験 資格 (コース中の割 合)	商業施 設士補 ()内は有資 格者	インテリア 設計士 2 級		リビングスタイリスト 2 級	
					受験者	合格者 (合格率)	受験者	合格者 (合格率)
2009	8	8 (100.0%)	2 (25.0%)	0(7) (0.0%)	4	2 (50.0%)	4	4 (80.0%)

表Ⅱ－１－５ 食デザインコース

年度	コース 人数	フードスペシャリスト	
		受験者	合格者 (合格率)
2009	17	6	2 (33.3%)

生活福祉専攻において、所定の科目を履修することによって取得可能な資格は、社会福祉主事任用資格、介護福祉士国家資格（介護福祉コース）、社会福祉士国家試験受験資格（要実務経験 2 年、生活福祉コース）である。また、認定試験に合格して取得できる資格は、健康管理士一般指導員、生きがい情報士、音楽運動療法士補認定資格（聖母女学院短期大学）である。

表Ⅱ－１－６ 生活福祉専攻

介護福祉士と社会福祉士国家試験受験資格取得は以下の通りである。

年度	専攻人数	介護福祉士		社会福祉士国家試験受験資格	
		取得者	取得率	取得者	取得率
2009	17 名	14 名	100%	3 名	100%

表Ⅱ－１－７ 食物栄養専攻

栄養士免許と栄養教諭 2 種免許の資格取得は以下の通りである。

年度	専攻人数	栄養士免許		栄養教諭 2 種免許		
		取得者	割合	履修者	取得者	割合
2009	35 名	26 名	74.3%	9 名	7 名	77.8%

(2) 児童教育学科

本学科は、小学校教諭 2 種免許、幼稚園教諭 2 種免許及び保育士資格、さらには児童厚生 2 級指導員資格の取得ができるとともに、なおかつ保育士資格取得のための必修科目等を履修することによって、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、母子指導員任用資格が取得できる。

これらの免許、資格取得のために必要な科目は、すべて学科の教育課程の中に反映されている。最大 4 種類の免許、資格取得を希望する学生にとっては、かなりの過密なカリキュラムではあるが、2 年間の課程で取得が可能ないように、教育課程の編成をしている。

また、これらの免許等を取得するために、必要な授業時間数（半期—15 週）と、教育実習（4 週間）、保育実習（6 週間）とが両立するように、保育士資格に関わる「実習」を長期休業期間（春季、夏季休業期間）に集中させて実施し、さらに 2007 年度から、児童厚生 2 級指導員の資格取得も可能となったため、希望する学生の児童館実習も、春季休業期間に実施している。

(3)専攻科児童教育専攻

専攻科児童教育専攻では、修了時に大学評価・学位授与機構の審査に合格すれば、4年制大学卒業と同等の学士（教育学）の資格を取得できるほか、小学校教諭1種、幼稚園教諭1種の免許を取得できる。また、放送大学の科目履修などによって、学校図書館司書教諭資格も取得可能になっている。

2-1-4 選択科目の履修について

学生指導では、各期当初の教務ガイダンスで、全学共通科目、選択科目の履修の重要性や、履修選択について指導している。2006年度からは、平日、5コマ（1～10時限）開講に延長し、時間割上の余裕を設けたことで、選択の余地が幾分広がった。また、時間割設定の段階で、必修科目と選択科目の開講時間が重複しないように、あるいはクラス指定、複数開講、前期・後期開講等の工夫を行っている。

(1)生活科学科

2008年度からは、全学共通科目で前期・後期開講する科目は、期で異なる内容、例えば基礎・発展などと科目を分化し、よりバラエティー豊かな選択科目を開講している。しかし、食物栄養専攻では、栄養士免許必修科目数や、加えて栄養教諭免許科目数が多く、その履修が優先されることから、全学共通科目や学科、専攻選択科目の履修の選択幅が狭くなっていることが今後の課題である。

(2)児童教育学科

4月の入学時ガイダンスにおいて、『学生便覧』での記載内容とともに、別刷りのプリントによって、望ましい履修の方法等を個別指導している。また、多くの授業を「クラス授業」としているため、選択科目についても時間割上、間違いなく履修できるようにしている。

しかしながら、本科の2年間、専攻科の2年間の短期間において、複数の免許・資格を取得させるためには、その必修科目、選択必修科目を履修するだけで、時間割上はほとんど空白のない状況である。特に3免許資格を取得するクラスにおいては、月曜日から金曜日まで、ほとんどが9時から18時くらいまでの授業となっている。したがって、学生の学生生活、特に受講上の精神的、身体的なこと、あるいは集中力、疲労度のこと等を加味して、理論的な科目は午前中に、実技・実習を中心とする科目はなるべく午後にする等の時間割上の配慮や工夫をしている。

2-1-5 卒業要件と学生への指導について

卒業要件については、前期・後期開始前に実施される教務ガイダンスにおいて徹底して指導しているので、学生は十分理解していると考えている。学生には、卒業要件と資格要件確認は自己責任であると強調しているが、履修登録終了後、開講が落ち着いた時点で、教務担当が優先的にチェックしている。

2-1-6 教育課程の見直し、改善、学科等の現状

(1)生活科学科

生活科学科では、教育課程の見直しおよび改善は、教育を推進する上で最重要事項と考えている。情報ビジネスコースでの、所定の科目履修により取得できる情報関係の資格は、生活科学専攻の他コースの学生も取得が可能であり、それぞれの専門を生かし、企業で即戦力として活躍できる人材育成を目指している。また、将来、在宅での起業などの可能性を育むために企業家を講義に招くなど、カリキュラムに工夫を凝らしている。2008年度に、生活科学科に組み入れられた生活福祉専攻では、介護福祉士養成の教育課程を見直し、衣食住を基盤に、ユニバーサルデザインを中心とした介護産業への人材養成に努めている。大きな教育課程の見直しは数年ごとに検討しているが、小さな教育課程の見直しは毎年行っている。

(2)児童教育学科

児童教育学科においては、2008年度から教育課程の改善を図っている。40名1クラ

スのクラス授業を推進すること。演習授業を中心に、授業における学生の能動的活動を促すこと等。また、それらをより効果的に実施するために、理論系科目は午前中に、実技・実習科目は午後に配置する。或いは、空き時間を効果的に活用するために、選択科目の充実や配置を考慮するなど、時間割作成上の工夫を図った。さらに、本学科のカリキュラムにおいて、最も重要な位置を占める「教育実習」「保育実習」についても、実習先の園・校などの選定、事前・事後指導、実習巡回のありかた等、より充実した実習が実施できるよう、全専任教員がその指導にあたる形で、指導体制の改善を行った。

(3)専攻科児童教育専攻

専攻科・児童教育専攻には、本学の児童教育学科を卒業した者、本学の他学科から進学してきた者、あるいは、他大学から進学してきた者などが入学してくる。また入学時における、取得済み免許・資格の有無など、既に履修している科目、資格等に、かなりの差異がある。したがって、本学・専攻科の1つの目標である学士号(教育学)取得、教員免許の取得についても、きめ細かく、個別の履修指導を行わなければ、その目標を達成することができない現状である。

2007年度には、学位授与機構による審査を受けて、専攻科の開講科目等の抜本的見直しを図り、より充実した免許取得になるように検討し、既述のような個別の状況に対応できるように、カリキュラムの再編成に取り組み、2009年度より、大幅に改善した新カリキュラムを全面的に実施している。

2-2 授業内容・教育方法

2-2-1 授業内容・教育方法及び評価方法の学生への提示方法について

講義概要や授業計画、教科書、参考書籍、成績評価基準・方法、履修上の注意点などを明記し、学生の予習や復習に役立たせるように配慮している。また、選択科目にあっては、選択時に判断基準がつかみやすいように、分かりやすい表現を心がけた。

2-2-2 学生の履修態度、学業への意欲等について

生活科学科長

学生の履修態度・学業への意欲については、入学年次必修科目である「生活科学基礎演習Ⅰ、Ⅱ」担当教員により毎週行われているFD会議で情報を共有している。また、2年次生については、生活科学専攻では卒業研究ゼミ担当教員、食物栄養専攻および生活福祉専攻では、専攻主任を中心として学生指導をおこなっている。それらの結果が学科会議で報告されることによって、全教員が学生の状況を把握できるシステムをつくっている。最近、欠席過多の学生が多く、学習意欲の低下がみられるが、その原因を個別に検討し、学生指導に生かしていかなければならないと考えている。

児童教育学科長

児童教育学科では、複数の多様な免許・資格を取得させるために、相当数の必修科目の履修や長期間の実習等を課しており、学生には心身共に、かなりの過酷な要求になっていると思われる。したがって、入学時に持っていた“子どもに関わる仕事”へのモチベーションをいかに継続、育成させていくかが、ひとつの大きなポイントになっている。

その意味で、本学科では、「総合演習」と「保育課題研究」のゼミ指導担当、実習巡回指導担当などを通じて、教員と学生のコミュニケーションを十分に図る等の工夫をしている。

ただ、年々学生の基礎学力や学習意欲が低下していることは否めない。また一部の学生の授業態度の不適切さについては、誠に遺憾なことではあるが、ゼミ担当教員等を通じて個別指導を重ねていく必要があると考えている。さらに、近年は経済状況の悪化により、就学に困難さを抱えている学生が少なくなく、アルバイトとの関係などが、学生の生活、履修態度、学習意欲などに大きな影響をおよぼしている例が急増している。

2-3 教育改善への努力について

2-3-1 学生による授業評価と授業改善への努力

授業内容、教育方法を改善するための学生による授業評価アンケートは、2000年度より行われている。それ以降、対象や時期、公開方法等について教務委員会で検討が重ねられ、2006年度から、非常勤講師を含めた全教員を対象に、全科目について前・後期それぞれに行われ、結果を公表している。アンケートの質問内容は、授業内容、授業方法、受講態度についての選択式9項目と自由記述式3項目からなるが、年度により若干の変更が加えられている。公表結果に対して各教員は、改善計画等を記述した「授業アンケート結果及び考察」を教務委員会に提出し、以降の授業実施に資すると共に学生の学習意欲向上の一助としている。

2-3-2 短期大学全体の授業改善への取組みについて

(1)生活科学科

生活科学科の入学年次必修科目である「生活科学基礎演習」の担当者によって、毎週1回FD会議を開催している。この会議は、授業が終わった当日に開かれ、クラスごとに授業の様子が報告され、教材の妥当性の検討をおこなっている。また、次週、次々週の教材と授業の進め方について話し合い、小人数クラスでありながら、全ての学生に均一な授業内容を提供している。これには、学科のほとんどの専任教員が参加しており、ま

た、毎年の春期・夏期休業中などに、手作り教材を含めての検討・見直しをおこなっている。その他の専門科目については、毎年、コースごとに取得できる資格を見直すとともに、それに伴って設置科目および科目内容、授業方法に至るまでの検討・改善をおこなっている。

(2)児童教育学科

従前は「FD活動」とは名づけていなかったが、実質的、内容的には学科会議、実習委員会、専攻科委員会等で、組織的、継続的に授業改善等の取り組みを実施してきた。特に2008年度からの全学的な改組・改編に伴い、2007年度からカリキュラムを全面的に再検討し、改善を行った。教育実習等の実習に関する体制のあり方については、さらに学習効果を向上させるために、実習校（園）については「協力校（園）体制」を採用する。学生全員が履修しなければならない「保育実習」や「教育実習」等の科目については、専任教員全員が参加し、学生の“学び”とともに歩み、さらなる学生の理解を深めることにより、巡回指導に反映させるようにした。

また、社会的ニーズに伴い、英語や国際関係科目の充実を図った。時間割作成上においては、基本的に理論系科目を午前中に、実技系科目を午後に配置するなど、学生が履修しやすく、学習効果の向上を促せるような配慮も行った。

(3)専攻科児童教育専攻

小学校、幼稚園ともに1種免許を取得できる課程認定を受けている本専攻科では、教員養成の質の向上が求められていることもあり、2年間をかけて、カリキュラムの再編充実に取り組み、2009年度入学生からは、新カリキュラムで履修をしている。主な改編のポイントは、「教科に関する科目」の充実により、より専門的な知識や技能を持った教員を養成しようとするものである。

2-3-3 非常勤講師を含む授業担当者間の意志の疎通、協力・調整について

(1)非常勤講師との懇談会

全学的な非常勤講師との連絡会議は、年に1回設定されている。

(2)生活科学科

教員間の意志疎通は毎週開くFD委員会、および学科会議で図られ、協力体制が構築され、学生に関する問題に対しては敏速に対応出来ている。また、学科で委嘱する非常勤講師は、その専門の専任教員と、毎回の授業について情報交換を行い意志の疎通を図っている。また、必要な事項については学科会議に報告され、学科全教員が全ての情報を把握しており、臨機応変に協力体制をとることができると考えている。また、全学科年1回の非常勤講師との話し合いとは別に、春期休業期間に生活科学専攻の一部の専任教員と非常勤講師との話し合いをおこない、授業の改善に努めている。

(3)児童教育学科

例年と同様に、本学科における同一科目の専任教員と非常勤講師との共担は、「図画工作1」「図画工作2」「造形美術1」「造形美術2」等であるが、いずれも専任教員が、シラバスから評価に至るまで、非常勤講師と十分に連絡をとり、スムーズに実施している。

2-4 教育内容の特記事項

(1)他の教育機関との単位互換制度

本学では、「大学コンソーシアム京都」「京都ノートルダム女子大学」「放送大学」の3種類の単位互換制度を実施している。

「大学コンソーシアム京都」では、本学からは「伏見・深草学」を開講提供している。短期大学本科生は、カリキュラムが過密で受講の余裕があまりなく、夏休みなどの集中授業の履修者が少数いるに留まっている。専攻科生は積極的に出かけている（IV-1-1参照）。

京都ノートルダム女子大学との単位互換制度は1999年に設けられたが、発足以来ほ

とんど履修者がいない。再検討が必要である。

放送大学との単位互換については、通常の授業が過密なことに加えて有料でもあり、この3年間で1名のみの履修者である。科目履修が必要な場合もあるので継続している。

なお、京都橘大学と学生交流および単位互換協定を結び、2010年度から新たな交流をおこなう予定である。

(2)国際理解教育と海外研修制度について

①生活科学科生活福祉専攻

2009年度は、スウェーデン海外福祉研修を企画したが、参加希望者が希少のため実施を見送った。

(3)インターンシップ

生活科学科では2006年度から大学コンソーシアム京都主催のインターンシップ・プログラムをカリキュラムに組み込んで、同コンソーシアムのトライアル・ビジネスの2コースをそれぞれ「インターンシップⅠ」（1回生後期）、「インターンシップⅡ」（2回生通年）に読み替える形式で実施してきた。加えて、2009年度からは本学独自の取組として新たに春期休暇中のインターンシップ・プログラムを開始した。初年度は信用金庫1社・ホテル2社を受入先として、計4名の学生を実習に送り出した。参加した学生はいずれも人間的成長が著しく、生活科学科では今後もこの取組をさらに拡大していきたいと考えている。

その他に生活科学専攻では、コースの専門性を生かせる企業に対して、個別に春期、夏期の長期休暇中にインターンシップを行っている。食物栄養専攻では、休暇中に自主研修として現場栄養士の体験学習を実施している。

(4)教育現場での体験学習

「教育実習」「保育実習」に含まれる、保育所、幼稚園、小学校、児童館、特別支援学校、社会福祉施設等での、長期間にわたる実習は別にして、2009年度も、同一キャンパス内にある聖母学院幼稚園、聖母学院小学校と提携して、学生の任意による保育参加、授業参観を実施した。

保育参加については、“子どもと遊ぶこと”を中心に、保育期開始の翌週から、1日6人を限度に週5日、午前中の任意の時間での参加を実施した。小学校授業参観は、授業開始の約1ヶ月後から、小学校の授業時間割にしたがって、事前に届を提出して、自由に参観できるようにしている。

これ以外にも、関係諸機関の募集による、教育や特別支援の現場での体験学習の機会も多く、継続して参加している学生も少なくない。

Ⅲ 教育の実施体制

3-1 教員組織

3-1-1 現在の専任教員数

表Ⅲ-1 2009年度専任教員数

● 本科

学科・専攻名	入学定員	専任教員数					設置基準で定める教員数		教職課程認定に要する教員数	助手	備考
		教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
生活科学科 生活科学専攻	80	2	1	1	0	4	4				
生活福祉専攻	50	2(1)	1(1)	1(1)	0	4(3)	4				
食物栄養専攻	40	3(1)		2	0	5(1)	4		3	3	
児童教育学科	170	5	2	6(1)	1	14(1)	11		14		
(小計)	340	12(2)	4(1)	10(2)	1	27(5)	23			3	
〔ロ〕		3	2	3(1)		8(1)		5			
(合計)	340	15(2)	6(1)	13(3)	1	35(6)	28			3	

〔注意〕

1. 上表の〔イ〕は短期大学設置基準（以下「設置基準」という）第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める専任教員数をいう。
2. 上表の〔ロ〕とは設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数をいう。
3. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
4. 教育嘱託の教員数を（ ）に内数表示。

● 専攻科

学科・専攻名	入学定員	専任教員数					設置基準で定める教員数		教職課程認定に要する教員数	助手	備考
		教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
専攻科 児童教育専攻	30	2		2		4			4		

〔注意〕

1. 専攻科には短期大学設置基準で定める教員数の設定はない。教職課程認定に定める教員数のみ記載。

2008年12月12日現在の専任教員数は、表Ⅲ-1に示す通りであり、短期大学設置基準で定める最低教員数を満たしている。ただし、2008年5月1日の時点では、生活科学科生活福祉専攻の教授が1名不足していた。これは、2007年度末に福祉関係担当の教授を含む2名の教員が退職したのと、国際文化学科が1回生の学生募集を停止し、従来からの国際文化学科国際福祉専攻が生活科学科生活福祉専攻に改組されたため、抜本的に生活福祉専攻の人事を見直すこととなり、内部昇格や公募も含め、その調整に手間取ったためである。

3-1-3 教員の年齢構成表

表Ⅲ－２

(年齢は2009年4月1日現在)

区分	年齢ごとの専任教員数(助教以上)						平均年齢	助手等の平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下			
合計人数	0	8	9	8	3	0	51.1	24.3	
割合	0.0	28.6	32.1	28.6	10.7	0.0			

3-2 教育環境

3-2-1 校舎・校地一覧表

表Ⅲ－３

	収容人員(人)	校舎			校地		
		基準面積(m ²)	現有面積(m ²)	差異(m ²)	基準面積(m ²)	現有面積(m ²)	差異(m ²)
聖母女学院短期大学	840	9,450	16,052		8,400	30,458	
その他共用			45			6,115	
計	840	9,450	16,097	6,647	8,400	36,573	28,173

校地面積

本学の校地は、36,573 m²であり、設置基準面積の7,800 m²(収容定員780×10 m²)を大幅に上まわっており、また、校地は教育環境として適切に整備されている。

3-2-2 校舎面積

「短期大学設置基準」第31条によれば、2つ以上の分野に複数の学科を置く場合は、別表イの、それぞれの学科の「百人までの場合の面積」の内、最大の面積の学科の該当収容定員に該当する面積に、他学科の必要面積を別表ロにより算出して加えるとのことであるから、以下のようなになる。

1. 基礎面積……児童教育学科3,100平方メートル

明細

児童教育学科……2009年度収容定員 320名

→別表イでは教育学・保育学関係、100人まで2,000 m²、収容定員350人まで3,100 m²

2. 別表ロ ……計6,300 m²

明細

①生活科学科(生活科学専攻+食物栄養専攻)	収容定員300人まで	2,050 m ²
②生活科学科(生活福祉専攻)	収容定員100人まで	1,000 m ²
③国際文化学科(国際福祉専攻)	同上	1,000 m ²
⑤国際文化学科(英語コミュニケーション専攻)	同上	1,000 m ²
⑥専攻科児童教育専攻	同上	1,250 m ²

計 6,300 m²

以上から、3,100 m²+6,300 m²=9,400 m²が本学において求められる校舎面積であるが、本学校舎面積は16,097 m²であるので、基準面積は十分に充たしている。

3-2-3 情報機器を設置する教室および自習室の整備状況

表Ⅲ－4

コンピュータ室

建物	教室名	機種	OS	台数	講義使用状況		
別館	24 第1コンピュータ室	Compaq EVO D320	Windows XP Pro	50	36%		
		EVO D150	Windows XP Pro	1			
本館	21 第2コンピュータ室	Hp dc5100	Windows XP Pro	51	22%		
		215 心理・情報演習室	Apple iMac	Mac OS X 10.4		2	34%
			Apple PowerMac G4	Mac OS X 10.4		1	
			EPSON PLEXCOMBO	Windows XP Pro		3	
			hp dx5150	Windows XP Pro		1	
			hp nx6120	Windows XP Pro		1	

LL演習室

建物	教室名	機種	OS	台数	講義使用状況
別館	23 LL教室	Apple iMac G4	Mac OS X 10.4.4	40	24%
		Apple PowerMac G4	Mac OS X 10.4.4	1	

* 講義使用状況は、時間割およびエクステンション講座の利用状況による

サーバ室

建物	教室名	機種	OS	台数	備考
別館	22 情報システム室 (サーバ室)	Hp DL360	Windows Server 2003	7	
		Hp DL360	Solaris10	1	
		Hp DL360	Debian GNU/Linux	1	
		Hp DL380	Windows 2000 Server	1	
		Hp DL380	Solaris10	1	
		Apple X serve G5	Mac OS X	2	
		Apple X Serve Raid	-	1	
		Hp DL360	Windows 2000 Server	1	図書
		Hp DL380	Redhat Linux	1	図書
		Hp DL380	Windows 2000 Server	3	教務・就職

学内のコンピュータ室（含む、心理・情報演習室）、LL 教室には、表Ⅲ－4 に記載のパソコンが設置されており、使用状況も表の通りである。用紙補充やメンテナンスも定期的かつ必要に応じて行われており、利用に不都合の無いよう管理がなされている。

自習のみを対象とした教室は設置されていないが、コンピュータ室、LL 教室共に授業時間以外は常時学生のために開放されており、授業の予習・復習、レポート作成等に積極的に利用されている。

3-2-4 授業用機器・備品の整備状況

2006 年度に、教室における授業用機器・備品の抜本的改善整備が行われたが、利用頻度も多く、年月の経過とともに老朽化は否めない状態にあり、苦しい財務状況ではあるが、更新整備が必要だと思われる機器も散見されるようになった。

その都度の整備については、非常勤講師が使われる教室については、毎年の依頼時に使用される機器の問合せを行い、専任教員の使用する教室については申請により、教務委員会が中心となって整備充実計画を策定し、必要な機器・備品の整備を行っている。日常的な機器・備品関係の点検・整備等については、教務事務がこれを行っており、授業等に支障がないよう努めている。

表Ⅲ－５ 授業用機器・備品の整備状況

2009年5月1日現在

本館	教室 教室番号	機	マイク				スクリーン	暗幕 (カーテン)	テレビ		ビデオ(VHS)		DVD		教材提示器		
			チャンネル	卓上マイク	ワイヤレスマイク	ピンマイク			本体	リモコン	本体	リモコン	本体	リモコン	プロジェクター		
															本体	リモコン	
1階	500	体育館	※		○	○											
2階	201	理化学実験室	26				○		○	○	○	○	○	○	○	○	
	207	食品加工実習室	13		○												
	209	調理実習室	16														
	211	第13講義室	長 27 (3×9列)	45.46	○	○ (ch46)	○ (ch45)	○	○×2台 (左接続不良)		○		○	○	○	○	○
	213	多目的室	長 72 (8×12列)	33.34	○	○ (ch33)	○ (ch34)	○			○		○	○	○	○	○
	214	工芸工作実習室															
	215	生活科学演習室															
	217	住居・インテリア製図室		12	○	○	○										
	218	第2講義室	長 15 (3×5列)					○	○	○ (単4)	○	○×2個 (単3)	○	○		○	○
	219	第3講義室	長 24 (3×8列)	11	○	○	○	○	○×2台		○		○	○	○	○	○
	220	第11講義室	長 15 (3×5列)			○		○	○×2台		○	機材不一致	○	○	○	○	○
221	第12講義室	長 15 (3×5列)					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3階	320	被服整理衣料鑑別実験室															
	321	第4講義室	長 15 (3×5列)				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	323	工芸染色実習室															
	325	秘書実務演習室					○			○	○	○	○		○	○	
	328	被服構成実習室								○	○	○	○				
	332	第3造形実習室															
	333	第2造形実習室								○	○	○	○				
335	第1造形実習室																
4階	401	教育心理演習室1	長 40 (4×10列)	35・36・13		○(ch35) (事務室で充電)	○ (ch36)	○			○	○	○	○	○	○	
	403	教育心理演習室2	個 57	25		○ (事務室で充電)		○			○	○	○	○	○	○	
	404	第1専攻科室															
	405	第2専攻科室															
	406	第5講義室	長 27 (3×9列)	41	○	○		○	○×2台	○	○	○	○	○	○	○	
	407	第6講義室	長 15 (3×5列)					○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	408	演習室	長 6					○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	409	第9講義室	長 16 (3×10列)			○ (事務室で充電)		○			○	○	○	○	○	○	
	418	第7講義室	個 27 個 10	51・52	○	○ (ch51)	○ (ch52)	○			○	○	○	○	○	○	
	419	第9講義室	個 27 個 10	15	○	○	○	○	○×2台	○	○	機材不一致	○	○	○	○	
	420	音楽教室								○	○	○	○	○	○	○	
431	M・L教室Ⅰ																
432	M・L教室Ⅱ																
別館	地階	12	リズム室														
	2階	21	第2コンピュータ室	23.24		○(ch23)	○(ch24)				○	○	○	○	○	○	
		23	LL教室	42			○				○	○	○	○	○	○	
		24	第1コンピュータ室	21.22		○(ch21)	○(ch22)					○	○	○	○	○	
3階	31	アセンブリ1	個 58	43.44	○(有線)	○(ch43)	○(ch44)	○(電動も音)			○	○	○	○	○		
	32	アセンブリ2	個 73	31.32	○(有線)	○(ch31)	○(ch32)				○	○	○	○	○		
マザーホール	1021	マザーホール21								○	○	○	○	○	○		
	1022	マザーホール22								○	○	○	○	○	○		
	1023	マザーホール23								○	○	○	○	○	○		
	1024	マザーホール24								○	○	○	○	○	○		
	1031	入浴実習室															
	1032	介護実習室		25・26		○(ch26)	○(ch25)			○	○	○	○	○	○	○	

3-2-5 校地、校舎の安全性および障害者の対応

本学は、幼稚園から短期大学までが、同じキャンパスに位置しているため、短期大学だけの安全性というよりも、法人全体の管轄の下で安全確保に努めている。5つある門は、安全確保のため2箇所だけが出入り可能となっているが、それぞれに守衛が配備され、防犯カメラを設置している。

また、教職員全員が胸章を常に携帯するなどの管理体制を引いている。短期大学北門は、業者および非常時のための通用門になっているが、モニターを使って、開閉が遠隔操作できる仕組みとなっており、防犯カメラでの確認によって出入りの許可をしている。

障害者のための環境整備は、本館、マリアンホール（別館と共有）、マザーホールとも、玄関スロープ、エレベーター各1基（車椅子用押し釘有）、階段手すり、専用トイレ（各1階）を設けている。この他、マザーホールには点字ブロックを設置している。

3-2-5 運動場、体育館、学生の休息場所

運動場は、中・高との共用のグラウンド(5,900㎡)があり、短期大学専用の体育館兼講堂(1,352㎡)とリズム室(266㎡)を含めて、運動条件を確保するための十分な広さであり、授業や課外活動に使用されている。

学生の休息場所については、マリアンホール食堂（2階305席、3階179席）が最大であり食事以外にもよく利用されている。その他、本館西側ホール（20席）、マザーホール1階（12席）、南庭ベンチ（4人掛け×31脚）もそれぞれに活用されている。

3-3 図書館について

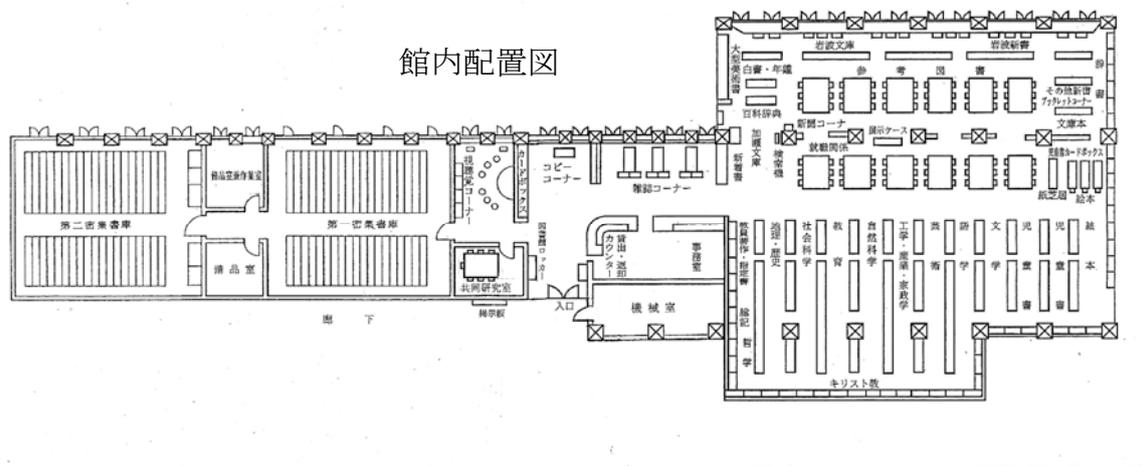
3-3-1 図書館の概要

(1)施設・設備

1) 図書館の概要

2009年度、図書館は図書館長、図書委員4名、職員2名によって運営され、さまざまな図書館活動を行った。図書委員会組織についてはⅧ 8-2-3参照。

2) 全体の配置図・座席数



項目	内容	備考
総面積	806.2㎡	機械室、事務室、備品室を除く場合は721.4㎡
総座席数	112席	軽読書コーナー6席、視聴覚コーナー8席、共同研究室7席、閲覧室91席
資料検索用端末	1台	(館内OPAC)
視聴覚コーナー設置機器	ビデオ・DVD2台、テレビ2台、LD1台、CD・テープレコーダー2台、ポータブルCD・テープレコーダー1台	

書架配置は閲覧室と書庫に分かれ、閲覧室には軽読書コーナーを設けている。書庫は閉架式である。視聴覚資料の視聴場所や共同研究室を設けて利用者の便宜を図っている。入館者数把握のためカウントアイを館内入口と閲覧室の2カ所に設置している。

(2)年間予算

2009年度は総額4,767,000円、内資料費は4,439,000円であった。資料費とは資産図書、消耗図書、新聞・雑誌、消耗的機器備品等諸費の合算であり、図書システムリース保守費は含まない。

(3)選定システム

年間購入計画を立てて運営している。年7回、専任・兼任教員に図書選定を依頼、その希望書を図書委員会で審議し購入を決定する。また、学生にはリクエスト制度を設けており、所定用紙で提出すると館長判断または図書委員会の検討を経て購入される。

収書方針として、本学の基盤であり学外者からの閲覧希望も出るキリスト教関係資料、学生たちの学習・研究のために必要な専門資料、また学生の幅広い教養に資する資料等の収集、を基本にしている。

(4)廃棄システム

「聖母女学院短期大学図書館管理細則」を補う「図書館資料の申し合わせ事項」によって処分対象および方法を決めている。

(5)スタッフ

通常業務2名。内1名専任、1名は派遣職員である。司書有資格者は2名。

(6)情報化の現状

現国立情報学研究所(NII)が構築する学術情報システムに参加し、ローカルシステムとして「Carin」(カリン)を採用、資料の管理・登録・貸出管理の業務を行っている。

蔵書データのローカルシステムにおける電算化は、蔵書図書数の約80%まで完了している。現在は利用頻度の高い分野を選択肢、遡及入力を進めている。

3-3-2 蔵書について

図書館蔵書数一覧

(2010年3月31日現在)

区分	和書	洋書	学術雑誌	AV資料
冊(種)	106,994冊	9,759冊	68種	1,959点

※ AV資料は、LD、DVD、VHS資料の合計数

※ 和書・洋書は紙形態の資料数

3-3-3 図書の準備状況と学生の利用状況

(1)参考図書・一般図書の準備状況

白書、年鑑、事典などの参考図書は、2010年3月31日現在4,128冊備えている。本学の学科・専攻・コースの構成を考え、シラバス等を参考にしながら学生の利用頻度が高い分野に重点を置いて、参考図書と関連図書の充実に努めている。

(2)利用状況

平均入館者数および館外貸し出し冊数は、2007年度1日203名、年間学生1人当たり87冊、2008年度は、同186名、10.7冊、2009年度は、同229名、11.6冊といずれも前年度より増加した。入館者数の増加理由は、土曜日を休館としたこと、インフルエンザによる休校に伴う臨時休館を実施したこと、利用者が比較的少ない夏休みの休館日数を前年度より増やしたことなどが上げられる。

My Carin（個人貸出状況や履歴の確認・予約などが可能なパーソナル機能）の利用数は2008年度224回、2009年度158回と2009年度も減少した。My Carin 利用減少の理由は、予約や貸出状況の確認はカウンターでも受け付けているため、My Carin 機能への注目度が低いためと分析している。

2006年度から、年2回の来館者アンケート結果を行い、学生の希望把握、収書時の参考、施設およびサービス面での改善等に役立てている。2009年度は、一部設問内容を変更し、7月に1回実施した。

（アンケート設問及び結果は巻末資料◆図書館利用者（学生）アンケート参照。）

● 2009年度利用者統計

	2007年度	2008年度	2009年度
入館者数 (人)	47,553	46,982	45,926
一日平均入館者数 (人)	203	186	229
学生貸出数 (冊)	6,223	6,685	6,674
学生一人当貸出冊数 (冊)	8.7	10.7	11.6
貸出数 (冊)	7,717	8,341	8,358

3-3-4 学内外への情報発信

(1) 広報活動

学内外への情報発信としては、館報『読書のために』（年1回）があげられる。図書館のHP上で公開し、学生の読書機会の拡大だけではなく、本学図書館および教員からの図書に関するメッセージを発信する機会にしている。2005年度から開始した別冊「読書のために」は、図書館スタッフ数が半減したことに伴い2009年度は休刊した。

また、女子高校生の自習支援として夏休みの5日間（8月24日～8月28日）図書館の利用を可能とした。本学のキャンパスライフ上、利用期間を短期間しか設定できなかったため利用者は少なく次年度も継続するかは検討事項となった。

学内向け情報発信では、新入生へのパンフレット「Library Guide」を配布し、利用促進を図っている。2009年度は、前期と後期に1度テーマを決めた展示、その他は、通年を通して図書館入り口付近に期間を設定せずコーナー展示を行った。5月中旬に、教育実習や福祉関係の実習関連書、11月上旬に、校外実習関連書など実習を意識したもの、夏休み前には文庫や小説などを行った。最も利用者に反響のあった展示は、「お菓子の本」で、4月頃と1月から2月にかけて行ったチョコレートに関する本の展示であった。またスペースの関係上、『読書のために』に掲載された図書を通路の動線上に配架したところ利用者の目にとまり利用につながった。

新入生対象には、4月の開講諸行事期間中にパワーポイントを用い図書館利用案内を行った。前年度実施した新入生対象の館内ツアー（約15分）は、授業の一環としてゼミ単位で依頼したいとの意見が出され、レファレンスを通して利用拡大を図ることとした。

他の図書館等との連携については、他図書館閲覧希望学生等には希望に応じて紹介状を発行や、図書の取り寄せを行う等の事務手続きを行っている。2009年度計14件。また、学外閲覧希望者の閲覧について、2009年度も卒業生、学院内関係者等、計33回の利用があった。

● 2009年度 展示日程

展示名	開催期間	備考
展示 “マザー・テレサ”	2009年6月15日～2009年9月15日	
展示 “クリスマス絵本”	2009年11月30日～2009年12月24日	

(2) スタッフの研修

種々の研修会に参加し、スタッフのスキルアップに役立てている。2009年度は、学

外研修は下記の2件に参加するに留まった。次年度は、できる限り種々の研修会に参加し専門知識を広げ、他大学図書館スタッフとの交流を図りたい。

● 2009年度 参加研修会日程

研修会名	開催期間	主催
平成21年度 私立短期大学図書館 情報担当者研修会	2009年7月2日～ 2009年7月3日	財団法人私学研修福祉会
大学改革セミナー	2009年7月21日	京都ノートルダム女子大学

※学内の事務研修会は除く

(3)現在の図書活動についての図書館長の受け止め方

図書館スタッフが半減した2009年度は、館報の刊行回数など減らさざるを得なかったが、展示の開催方法の工夫などを行うことで、学内外への情報発信の機会を維持することに留意した。スタッフの一人当たりの業務量が増えている中で、良質なものが一定量確保できたと考えている。

活字離れ、読書離れが問題視されている折、2009年度は学生一人当たりの館外貸出冊数も2008年度を上回る結果となったことは喜ばしいことである。上半期の貸出状況報告を受け、教員が授業時間中に図書館で資料検索演習を行い、図書館スタッフは検索サポートにあたるなどしたことが図書館へ足を運ぶきっかけになったと思料している。

保管書庫の狭隘化対策は、2009年度に種々の学院内の諸規定改定があり、図書取扱基準も2010年3月に改定された。これを踏まえて、2010年度以降に本格的な除却計画を行い、残余スペース確保を図りたいと考えている。

また、2008年度に引き続き、図書システムリース満了に伴う新システムへの切り替えも検討した。候補としたシステムの開発状況、費用の面などから検討した結果、切り替え時期を2010年度以降に延期することとした。

2009年の夏の5日間、女子高校生を対象に閲覧開放することとしたが、期間が限られていたため利用者は少なかった。本学のキャンパスライフを考慮するとこれ以上の長期間の実施は難しく、次年度も継続するかは課題となった。

2010年度は、2009年度と同様に学生一人あたりの館外貸出数に留意しながら、入館者数を増やし、読書に親しむ機会を利用者に提供し、学生に興味ある書籍の展示や催物も取り入れ、多角的な図書館利用の拡大を図りたいと考えている。

IV 教育目標の達成度と教育の効果

4-1 単位認定について

4-1-1 単位認定の状況表

2009 年度開講科目における単位認定状況表は、巻末資料 6 を参照。

4-1-2 単位認定の方法について

単位認定の方法は、学則第 14 条、履修規程第 13 条に定めるように、各科目とも 60 点以上を合格とし、59 点以下を「不可」、60 点以上を「可」、70 点以上を「良」、80 点以上を「優」として教務課へ報告している。60 点未満の場合、再試験を受け合格点を得なければ科目履修の認定はされない。また、履修規程で、成績評価を得るためには、標準授業時数の 3 分の 2 以上出席しなければならないと定められており、15 回の授業を 6 回以上欠席した場合には受験資格を失うこととなる。

本年度に開講された全学共通科目は昨年度同様 40 科目であり、この内、成績評価方法が期末の筆記試験・その他は 14 科目、期末の筆記試験のみは 5 科目、レポート試験・その他は 11 科目、実技試験・その他は 1 科目、その他は 9 科目であった。主要な評価方法に「・その他」と加えられているのは、主要な評価方法のみで単位認定を行うのではなく、出席状況や受講態度、提出物、何回かの小テスト、課題レポートなどを併せて単位認定を行うことを示している。重複を防ぐため以下には記述しないが、ここに記したように複数で多様な評価方法が導入されたのが 2009 年度の特徴であり、学生のためにも喜ばしいことである。

全学生が建学精神を学ぶ必修科目である「キリスト教学Ⅰ」の最終評価「優」「良」「可」「不可」の分布割合は、各々 33%、41%、23%、3%であり、同様に必須科目の「キリスト教学Ⅱ」の同割合は 29%、49%、20%、2%であった。「キリスト教学Ⅱ」の「良」が増え「可」が減った以外は昨年とほぼ同じ割合である。両科目は複数クラス開講（「キリスト教学Ⅰ」は 4 教員により 7 クラス、「キリスト教学Ⅱ」は 4 教員により 8 クラス）されているが、クラスによる評価割合について過去の自己点検・評価報告書に指摘された大きな差は、今年度も見られない。

生活科学科生活科学専攻では、学科科目 84 科目のうち、期末の筆記試験・その他は 35 科目、期末の筆記試験は 1 科目、レポート試験・その他は 5 科目、実技試験は 4 科目、作品提出・その他は 13 科目、筆記試験・実技試験・その他は 2 科目、筆記試験・作品提出・その他は 1 科目、その他は 23 科目であった。教育分野が 4 コースに分かれ、内容も多岐に渡っているため評価方法も分かれるが、全体として「・その他」が付く科目が増えた。

昨年は、国際文化学科国際福祉専攻のⅡ回生が在籍したため生活科学科生活福祉専攻の学科科目はⅠ回生に提供の 48 科目のみであったが、完成年度となり、学科科目は 84 科目に増え、そのうち、期末の筆記試験・その他が 11 科目、レポート試験・その他が 7 科目、その他が 53 科目、実技試験・レポート試験・その他が 5 科目、筆記試験・レポート試験・その他が 8 科目であった。昨年は、筆記試験の割合が高かったが、今年は期末の筆記試験のみというのは 0 科目であった。その他が 84 科目中 53 科目もあるが、それこそ多様な評価がなされているものと思われる。

生活科学科食物栄養専攻では、学科科目 50 科目のうち、期末の筆記試験は 24 科目、期末の筆記試験・その他は 2 科目、レポート試験は 8 科目、実技試験は 2 科目、その他は 12 科目、実技試験・その他と筆記試験・実技試験は共に 1 科目で、昨年に比べ期末の筆記試験のみや実技試験のみが減少しその他が増加した。これも多様な評価方法を導入した結果だと思われる。筆記試験の割合が他学科や他専攻に比べ高く、加えて再試験による単位取得者が 50%を超す科目が「生理学」「食品学Ⅰ」「基礎栄養学」「臨床栄養学概論Ⅰ」「臨床栄養学概論Ⅱ」「臨床栄養学実習」「給食計画論」と 7 科目もあり、これは、栄養士免許取得に向けた厳しい教育が実施されているためとも考えられる。

児童教育学科では、教科に関する科目 12 科目のうち、期末の筆記試験・その他は 3 科目、レポート試験・その他は 3 科目、実技試験・その他が 2 科目、作品提出・その他が 2 科目、その他が 2 科目で、昨年に比べ期末の筆記試験のみやレポート試験、実技試験のみの評価方法がなくなった。教職に関する科目 48 科目のうち、期末の筆記試験・その他は 18 科目、

レポート試験・その他が4科目、作品提出・その他が2科目、その他が24科目で、昨年と比べレポート試験が大幅に減ったが、これは評価方法が多様になり他の方法と併せてその他に含まれているものと思われる。保育に関する科目39科目のうち、期末の筆記試験・その他は19科目、レポート試験・その他が1科目、作品提出・その他が2科目、その他が17科目であり、前の教科に関する科目、教職に関する科目、保育に関する科目同様の傾向が見られる。教養に関する科目4科目では、期末の筆記試験・その他が3科目、レポート試験・その他が1科目であった。

複数クラスで開講されている科目、例えば「図画工作1」「総合演習」「保育課題研究」その他に見られる成績評価の差については、能力別クラス編成に起因するとされている。

専攻科児童教育専攻では、教科に関する科目6科目のうち、レポート試験・その他が3科目、筆記試験・その他が2科目、実技試験・その他が1科目。教職に関する科目25科目のうち、期末の筆記試験・その他が6科目、レポート試験・その他が8科目、筆記試験・その他が1科目、その他が10科目。教養に関する科目6科目のうち、期末の筆記試験・その他が5科目、その他が1科目で、ここでも昨年と比べ評価方法の多様さが指摘できる。

単位認定状況を大学全体や学科・専攻レベルで見ると、全学共通科目の全学平均は「優」46%、「良」20%、「可」16%、「不可」20%で、昨年とほぼ同じ値である。学科・専攻別に全科目平均の「優」「良」「可」「不可」の割合を見ると、生活科学科生活科学専攻では、50%、19%、13%、18%であり、生活科学科生活福祉専攻では、47%、22%、16%、6%、生活科学科食物栄養専攻では、34%、24%、30%、11%、児童教育学科では、48%、26%、17%、10%、専攻科児童教育専攻では、65%、23%、8%、4%であった。

児童教育学科、専攻科児童教育専攻のそれぞれの数値は昨年とほぼ同じであるが、生活科学科生活科学専攻、生活科学科生活福祉専攻では「優」の数値が大幅に増加した。その他には大きな変化は見られない。専攻科児童教育専攻では例年同様他に比べ「優」の比率が高く、生活科学科食物栄養専攻で「優」「可」が30%と厳しい数値を示す他はほぼ同じ比率を示している。

表中「不可」は、再試でも不可の者と試験を受けずに途中で単位取得を諦めた学生数が含まれており、全学共通科目では20%、生活科学科生活科学専攻では18%、平均では11%の値を示すが、この数値についての議論も必要だと思われる。

4-2 授業に対する学生の満足度について

今年度も各学期末に行った「学生による授業評価アンケート」中に、授業内容や授業方法について、満足度を5段階で評価する設問を設けている。また、自由記述式項目の中にも、授業を受けて良かった点の記述を求めており、各教員は上記アンケートの公表結果から、担当科目の満足度を把握していると思われる。それに加え、昨年度の後期からは、アンケート結果を直近以降の授業に活かすべく自由記述式で、学期半ばに中間アンケートを行い、学生からの要望を汲み上げるべく努めている。

短期大学全体で行っている授業評価アンケートとは別に、生活科学科では、学科共通科目（必修）である「生活科学基礎演習Ⅰ」「生活科学基礎演習Ⅱ」の最終回に、それぞれの授業結果について学生による授業評価アンケートを実施しており、満足度を調査し結果を担当教員に示している。

4-3 退学、休学、留年等の状況

2007年度から2009年度に至る、各年度別、各学科別および専攻科児童教育専攻別の退学者数、休学者数、留年者数等は表Ⅳ-1の通りである。

退学者数を見ると、本科全体の場合、3年平均で入学者数の7.5%（2008年度の場合は9.1%。以下括弧内の数字は2008年度を示す）であり、専攻科の場合は0（6.7%）となっている。専攻科の場合、比率に変動があるが、入学者数に影響を受けており、退学者は2007年2008年共に1人で、2009年は0人である。これを学科・専攻別で見ると、生活科学科生活福祉専攻が特に高く16.7%（9.1%）、次いで生活科学科生活科学専攻9.7%（14.5%）、生活科学科食物栄養専攻8.3%（13.2%）の順となるが、生活科学科生活福祉専攻増加が目につく。これは、入学者数が減ったことも要因のひとつであるが、2人から4人へと2倍になっていることから、学生へのケアの見直しが必要だと思われる。

全般的に、退学理由としては進路変更が大半を占め、これに健康問題が加わるが、これ

は、ここ数年同じ傾向である。2008年9月に始まる経済不況により、経済問題を原因とした退学者が増えると予想されるが、奨学資金の充実その他、法人や短期大学としての支援も必要だと思われる。

休学者に関しては、2009年度は本科全体で5名と増加した。休学の理由としては、従来同様長期の体調不良が原因となっている者が多い。

留年者については、2008年度、2009年度と3名であり、過去の留年者数から激減した状況が維持されている。

退学者、休学者および留年者に関して、授業の欠席の重なりが無意識のうちにそれらに結びつく可能性が高いため、本学では非常勤講師を含む全教員が、欠席回数が3回を超えると毎回欠席報告書を教務課に提出し、学生の出欠状況を各学科教務委員が把握することとなっている。各学科教務委員は、欠席が度重なる学生の状況を、受験不許可等に至る前に学科会議や専攻会議で報告し、その情報を基に、ゼミ担当教員等が学生と接することで、休学や留年に結びつき易い状況を未然に防ぐべく努めているが、今後とも継続していきたい。いずれにしても、何らかの問題が生じたり、または発生しそうな段階で、ゼミ担当者を中心に適宜面談を行っており、学業一般については各学科教務委員が、学生生活全般については各学科学生委員が、学科長や保護者とも緊密な連絡を取り合いながら指導を行っており、学生が最良の状態で大学生活を送れるような体制を取っている。

表IV-1 退学者等一覧

	学科・専攻科	2007年度	2008年度	2009年度
入学者数：a	生活科学専攻	70	62	62
	生活福祉専攻	—	22	24
	食物栄養専攻	47	38	48
	児童教育学科	158	154	146
	国際福祉専攻	22	—	—
	英語コミュニケーション専攻	26	—	—
	本科合計	323	276	280
	専攻科児童教育専攻	22	15	18
	総合計	345	291	298
退学者数：b 退学者率： (b/a×100)%	生活科学専攻	8 (11.4)	9 (14.5)	6 (9.7)
	生活福祉専攻	—	2 (9.1)	4 (16.7)
	食物栄養専攻	3 (6.4)	5 (13.2)	4 (8.3)
	児童教育学科	4 (2.5)	9 (5.8)	7 (4.8)
	国際福祉専攻	2 (9.1)	—	—
	英語コミュニケーション専攻	2 (7.7)	—	—
	本科合計	19 (5.9)	25 (9.1)	21 (7.5)
	専攻科児童教育専攻	1 (4.5)	1 (6.7)	0 (0)
	総合計	20 (5.8)	26 (8.9)	21 (7)
休学者数	生活科学専攻	3	0	1
	生活福祉専攻	—	1	1
	食物栄養専攻	2	1	0
	児童教育学科	3	0	3
	国際福祉専攻	1	—	—
	英語コミュニケーション専攻	1	—	—
	本科合計	10	2	5
	専攻科児童教育専攻	1	0	0
	総合計	11	2	5
休学者数の内の 復学者数	生活科学専攻	1	0	0
	生活福祉専攻	—	0	0
	食物栄養専攻	1	0	0
	児童教育学科	4	0	2
	国際福祉専攻	0	—	—
	英語コミュニケーション専攻	0	—	—
	本科合計	6	0	2
	専攻科児童教育専攻	0	0	0
	総合計	6	0	2
留年者数	生活科学専攻	4	1	1
	生活福祉専攻	—	—	0
	食物栄養専攻	1	1	1
	児童教育学科	6	1	1
	国際福祉専攻	1	0	—
	英語コミュニケーション専攻	1	0	—
	本科合計	13	3	3
	専攻科児童教育専攻	0	0	0
	総合計	13	3	3
卒業生数	生活科学専攻	87	67	56
	生活福祉専攻	—	—	17
	食物栄養専攻	42	40	35
	児童教育学科	148	157	147
	国際福祉専攻	31	24	—
	英語コミュニケーション専攻	26	25	—
	本科合計	334	313	255
	専攻科児童教育専攻	27	21	15
	総合計	361	334	270

4-4 資格取得の取組みについて

4-4-1 教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況

表IV-2 2009年度エクステンション講座

講座名	受講者 (人)	合格者 (人)
秘書検定2級 (前・後期)	17	11 (64%)
WORD (前期)	13	11 (85%)
EXCEL (後期)	13	11 (85%)
TOEIC	1	合否ではなく点数

4-4-2 今後導入を検討している免許・資格

生活科学科では、2009年度には情報処理士、ビジネス実務士、秘書士の認定資格を取得した。さらに2010年度には、医療管理秘書士、医療秘書士および保健医療ソーシャルワーカー他の養成施設認定を予定している。

4-5 学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価

2006年3月から、その年の卒業生全員を対象としたアンケート調査（学生満足度アンケート）を実施している。事務室をはじめ職員の評価等については、Ⅷ. 管理運営（8-3事務組織について）に記述している。ここでは卒業生の「教育部門」（教員、授業、カリキュラムの3点）・「学生生活を振り返って」について満足度・調査結果をまとめた。

表IV-3-1 【教育部門】 (%)

年度	評価項目	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
		2007年度	47	26	24	3
2007年度	教員について	47	26	24	3	0
	授業 (ゼミ含)	45	23	29	3	0
	カリキュラム	26	20	43	7	4
2008年度	教員について	38	30	29	2	1
	授業 (ゼミ含)	42	25	30	2	1
	カリキュラム	25	19	46	9	1
2009年度	教員について	39	25	32	3	1
	授業 (ゼミ含)	38	24	34	3	1
	カリキュラム	22	20	45	10	3

教員、授業部門については、「満足」「やや満足」で50%、「普通」を加えると90%の高い評価を得ている。またカリキュラムについては、「普通」と答えた学生が多かった。

【学生生活を振り返って】

表IV-3-2

在学中の満足度

(%)

年度	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
2007年度	54	21	21	3	1
2008年度	47	32	19	2	0
2009年度	46	24	24	5	1

(%)

年度	評価項目	事務部門	教育部門	施設・設備	その他
		2007年度	4	24	4
2007年度	最も満足したこと	4	24	4	友人 68
	不満であったこと	21	17	38	課外活動 24
2008年度	最も満足したこと	3	21	7	友人 69
	不満であったこと	16	15	47	課外活動 22
2009年度	最も満足したこと	2	22	6	友人 70
	不満であったこと	10	13	37	課外活動 15

学生生活を振り返って学生の満足感は、「満足」「やや満足」で70%の評価を得ている。

また、学生生活で満足した点は、良き友人を得たことが圧倒的に多く、逆に不満足な点は、施設・設備面、課外活動等を挙げた学生が多かった。

同窓会等との連携について、本学では次のとおり取り組んでいる。

- 1) 年1回、役員会を本学で行う。
- 2) 大学祭時に、「Seibo Family Home Coming Day」を実施している。
- 3) さまざまなイベント、講演会等を企画し、それらを卒業後の研修という形で案内している。
- 4) 本学ホームページに同窓会のページを設け、イベント情報として本学主催の講演会等の案内をしている

V 学生支援

5-1 入学に関する支援

5-1-1 建学の精神・教育目標の明示

入学志願者に対して、本学への理解をはかる努力は、「大学案内」「学科パンフレット」「ホームページ」「募集要項」などを通して、行っている。また、オープンキャンパスやさまざまな進路説明会などにおいても、本学の建学の精神とそれに基づく教育理念をはじめ、各学科の教育目標や求める学生像などを具体的に説明し周知を図っている。

特に、オープンキャンパスにおいては、入学志願者が直接教員と教育内容や受験準備について具体的に相談できる学科説明コーナーや、ミニ講義、受験対策講座、参加体験型コーナーなどを幅広く設けることによって、教育目標の理解や、学生生活のイメージがしやすくするための努力を行っている。

5-1-2 入学者選抜方法の明示

学生募集要項に、選抜方法別に、出願から入学手続きに至る入試日程をはじめとした入学試験に関わるあらゆる事項を記載している。とくに、AO入試に関しては、アドミッションポリシーや求める学生像を明示し、エントリーから入学手続きまでの流れをわかりやすく表にして掲載している。

5-1-3 広報および入試事務体制

本学の広報および入試事務の役割は、2007年度から、入試広報センターと学務課が連携を取りながら担っている。当センターでは、入試広報データのデータベース化によって効率的な受験生対応が可能となり、また入試に関する問い合わせ窓口としても機能している。

広報活動についての企画・運営は、「本学運営組織要項第7条広報委員会規程」に基づき設置された広報委員会（各学科教員2名と入試広報センター職員2名 計6名）が主として行っている。主な活動内容は、①大学案内の編集と配布 ②オープンキャンパスの実施、③高校訪問と進学説明会の企画・運営 ④ホームページの更新及び充実などである。

受験生数が減少する厳しい昨今の状況のなか、短期大学単独ではなく、法人全体として、ロゴや名刺の統一化など、学院全体的な広報活動への取り組みが始まっている。

5-1-4 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れ

本学における入学試験は、AO入試、指定校推薦入試、公募推薦入試、自己推薦入試、同窓生入試、一般入試、大学入試センター試験利用入試、特別入試がある。

- ① AO入試：I期、II期の2回実施。オープンキャンパス時のミニ講義を受講し、エントリーシートに基づく第一回面談を受ける。合格した場合、ミニ講義に関する課題レポートを提出して第二回面談を受ける。面談結果を総合的に判定し内定を通知後、専願として出願し、合格判定を行う。
- ② 指定校推薦入試：全国に615校ある指定高校から校長の推薦によって出願した女子を対象に実施。面接と調査書で選考し、原則的に入学を許可する。（専願）
- ③ 公募推薦入試：全国にあるすべての高校から、校長の推薦によって出願した女子を対象に実施。小論文、面接、調査書により選考する。A、B、Cの3回実施。（専願、併願）
- ④ 自己推薦入試：高校長の推薦を要しない。自己推薦書を提出した女子を対象に実施。面接と自己推薦書により総合的に判定。（専願）
- ⑤ 同窓生推薦入試：同窓生の四親等以内から推薦された女子が対象。志願理由書と調査書及び面接により総合的に判定。（専願）
- ⑥ 一般入試：高等学校卒業見込みまたは卒業した女子が対象。学力試験（国語または英語Iのいずれかを選択）および調査書により総合して判定。A、Bの2回実施（併

願)

- ⑦ 大学入試センター試験利用入試：当該年度実施の大学入試センター試験の成績を基に出願した女子を対象に実施。受験科目の内、高得点の1科目の成績により判定。前期、後期の2回実施。(併願)
- ⑧ 特別入試：社会人、外国人留学生、帰国子女を対象にそれぞれ実施、各要件を満たし出願した女子に実施。小論文と面接により総合的に判定。(併願)
- 以上の手順に基づき、入学試験はいずれも公正かつ正確に実施されている。しかし、大学全入時代を迎え、入学試験の時期、回数、面接試験の方法、受験資格および科目など、受験生数とレベルを保つために検討すべき課題は多い。

表V-1

2010年度入試日程

	出願期日	試験日時	合格発表 (郵送にて通知)	入学手続締切日 (消印有効)
指定校推薦入試 同窓生推薦入試	9月23日(水) ～10月7日(水)	10月10日(土)	10月14日(水)	10月23日(金)
推薦入試A 外国人留学生特別入試 帰国子女特別入試 社会人特別入試	10月1日(木) ～10月14日(水)	10月17日(土) 9:30～12:00. 13:00～	10月22日(木)	10月30日(金)
AO入試	別紙	別紙	別紙	別紙
推薦入試B 外国人留学生特別入試 帰国子女特別入試 社会人特別入試	10月9日(金) ～10月29日(木)	10月31日(土) 9:30～12:00 13:00～	11月4日(水)	11月11日(水)
推薦入試C 外国人留学生特別入試 帰国子女特別入試 社会人特別入試	11月24日(火) ～12月3日(木)	12月5日(土) 9:30～12:00 13:00～	12月9日(水)	12月16日(水)
一般入試A	1月18日(月) ～2月4日(木)	2月6日(土) 10:00～11:00	2月10日(水)	2月18日(木)
大学入試センター試験利用入試	前期	1月8日(金) ～2月11日(木)	1月16日(土) ～1月17日(日)	2月17日(水) 2月23日(火)
	後期	2月17日(水) ～3月16日(火)	1月16日(土) ～1月17日(日)	3月23日(火) 3月26日(金)
一般入試B	2月11日(木) ～3月1日(月)	3月3日(水) 10:00～11:00	3月6日(土)	3月12日(金)
社会人特別入試	2月4日(木) ～2月11日(木)	2月13日(土) 9:30～	2月17日(水)	2月23日(火)
自己推薦入試 社会人特別入試	3月5日(金) ～3月22日(月)	3月24日(水) 10:00～12:00 9:30～	3月25日(木)	3月29日(月)
専攻科 児童教育専攻入試A 指定校入試I期	10月9日(金) ～10月29日(木)	10月31日(土)	11月4日(水)	11月11日(水)
専攻科 児童教育専攻入試B 指定校入試II期	2月4日(木) ～2月11日(木)	2月13日(土)	2月17日(水)	2月23日(火)
専攻科 児童教育専攻入試C	3月5日(金) ～3月22日(月)	3月24日(水)	3月25日(木)	3月29日(月)

表V-2 2010年度AO入試スケジュール

区分	エントリー	事前面談日	内定通知日
生活科学科 Ⅰ期	6月1日(月)～ 7月18日(土)	7月18日(土)	8月21日(金)
児童教育学科 Ⅰ期	6月1日(月)～ 7月18日(土)	7月18日(土)	8月4日(火)
生活科学科 Ⅱ期	7月21日(火)～ 8月2日(日)	8月1日(土)2日(日)	8月29日(土)
児童教育学科 Ⅱ期	7月21日(火)～ 8月22日(土)	8月1日(土)2日(日) 8月22日(土)	9月5日(土)
生活科学科 Ⅲ期	8月3日(月)～ 9月13日(日)	8月22日(土) 9月13日(日)	10月1日(水)

区分	出願期間	合格発表日	入学手続締切日
生活科学科 Ⅰ期	8月31日(月)～ 9月19日(土)	10月6日(火)	10月16日(金)
児童教育学科 Ⅰ期			
生活科学科 Ⅱ期			
児童教育学科 Ⅱ期	9月14日(月)～ 10月3日(土)	10月14日(水)	10月23日(金)
生活科学科 Ⅲ期	10月1日(木)～ 10月7日(水)		

5-1-5 入学手続き者に対する入学までの情報提供

入学手続き者に対して、入学直前のガイダンスでは、入学後の学生生活がスムーズに始められるように、「学生便覧」や時間割等、予め履修計画が立てられるような資料の配布を行っている。また遠方出身者の内の希望者に対して、不動産業者を通じた単身者用マンション等の情報を送付している。

5-1-6 入学者に対する学業、学生生活のためのオリエンテーション

入学式前後の開講諸行事の一環として、オリエンテーションを3日～4日実施している。

2009年度においては、入学式を除き2日間の日程(主として教務ガイダンス、健康診断、新入生研修会等)で実施した。

教務ガイダンスにおいては、新入生に『学生便覧』に基づき学則、履修規程、学科の方針や履修に当たっての心構え、卒業要件、免許、資格の要件の説明、時間割の見方、パソコン端末での履修登録の方法などを説明、新入生が学習目標をもち、履修を開始するまでのガイダンスを行っている。

また、新入生研修会では、午前中にクリスチャンセンターから本学の沿革および建学の精神の説明、学生部から①学生生活について(高校との相違点、進路選択、友人づくり、アルバイトなど)②学則について(禁煙、上履きの使用、バイクの通学禁止の遵守など)③学校行事、学友会活動などへの参加について(宗教行事、アッセンブリー・アワー、大学祭など)④クラブ活動についてなどを説明している。その他、図書館、キャリアセンターなどから各部署の取り組み等を説明、午後から新入生歓迎会を実施している。

5-2 学習支援について

学習相談に対する指導体制

教務ガイダンスの個別相談の際に、授業や取得資格について学生の相談に応じ、動機づけに焦点をあわせた学習や科目選択のためのガイダンスを丁寧に行っている。『学生便覧』や「講義概要」を整備して、ガイダンスに活用しているため、理解は図られている。

ると考えている。

5-3 学生生活支援体制について

5-3-1 学生生活を支援するための組織・体制について

学生委員会は常置委員会の1つとして、2009年度は教員7名、事務職員1名の8名で構成して学生生活を支援している。

具体的には、学生課が中心になって担当しているが、学生の多様化、複雑化、専門化が一段と進む中、きめ細かな対応・指導のために月1回の定例学生委員会を開催し、教職員が一丸となって取り組んでいる。

5-3-2 クラブ活動、学友会、大学祭の実施状況について

(1) クラブ活動

本学におけるクラブは、「社会人としてのルールや協調性を身につけ、人間形成の場として生かす」ことを目的として、学友会組織の一環として文化系、体育系の各分野の同好者により結成されている。このような目的にもとづいて、2009年度は、文化系9クラブ（ハンドベル部、表千家流茶道部、煎茶部、天文部、絵本クラブ、吹奏楽部、美術部、軽音楽同好会（2クラブ）、体育系2クラブ（バドミントン部、バスケットボール部）が活動している。すべてのクラブは所属人数5名以上で結成され、本学の専任教員が顧問となり、適切な指導、助言のもと、学生生活を充実させている。しかし、クラブ活動は、授業時間、実習期間等の問題から、学生にも余裕がなく、年々衰退化傾向にある。

(2) 学友会、アッセンブリー・アワーについて

学友会は、本学における学生相互の親睦ならびに福祉増進のため、自主的に学生生活の向上、発展をはかり、本学の建学の精神を発揚することを目的とした本学学生による自治組織である。学生生活の質的向上と支援を目標とする大学側の組織である学生委員会と連携をとり、学生が自主的に企画、運営を行っている。なお、2008年度から、学友会会長、副会長はそれまでの選挙制から互選によって決定することになった。

学友会の自治活動の公表と全学的な協働のために、毎週木曜日の午後に「アッセンブリー・アワー」という45分間の枠が設けられており、この時間の活用の際して、学生委員会は、学生生活をより豊かにするための種々の企画を提案・提供し、学友会を側面から援助している。2009年度の「アッセンブリー・アワー」の内容と出席者数は表V-3～5の通りである。

表V-3 アッセンブリー・アワー 実施表 2009年度（前期分）
毎週木曜日：13:00～13:45

月日	1回生・2回生	備考
4. 9	「学友会を知りたいな♪」 ①大学祭について ②アッセンブリーアワーとは？	学友会
4. 16	クラブ紹介	学友会
4. 23	学友会 学友会長と副会長の選出について	学友会
4. 30	学友会 学友会長と副会長の選挙・学友会長と副会長選挙結果報告	学友会
5. 7	学友会総会 2008年度学友会予算報告 大学祭について（テーマ募集アンケート）	学友会
5. 14	お菓子パーティー	学友会

5. 21	春生まれの“誕生日ミサ”	クリスチャンセンター
5. 28	「正しい防犯知識を身につけよう！！」(伏見警察署講演会) 大学祭アンケート結果報告	学友会
6. 4	創立記念ミサ	クリスチャンセンター
6. 11	大学祭(「模擬店について」、模擬店・イベント等申し込み用紙)	学友会
6. 18	公開講演会(マタイス前学長)	クリスチャンセンター
6. 25	大学祭(模擬店・イベント等申し込み用紙回収) 保健室の利用について	学友会
7. 2	防災の講演(消防署)	学友会
7. 9	夏生まれの“誕生日ミサ”	クリスチャンセンター

表V-4 アッセンブリー・アワー 実施表 2009年度(後期分)
毎週木曜日:13:00~13:45

月日	1回生・2回生	備考
9. 24	大学祭について	学友会
10. 1	大学祭について	学友会
10. 8	大学祭について	学友会
10. 15	大学祭について	学友会
10. 22	大学祭について	学友会
10. 29	大学祭について	学友会
11. 5	大学祭について	学友会
11. 12	大学祭について	学友会
11. 19	追悼ミサ	クリスチャンセンター
11. 25	大学祭の反省	学友会
12. 3	クリスマスツリーの飾りつけ	学友会
12. 17	クリスマスの集い	クリスチャンセンター 学友会
1. 14	成人祝福式	クリスチャンセンター

表V-5 アッセンブリー・アワー 出席数表 2009年度

		4/4	4/9	4/16	4/23	4/30	5/7	5/14	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	9/24	11/12	1/14
生活	生活1回生	57	55	55	44	47	43	37	29	11	31	48	55	23	15	5	0
	生活2回生	0	5	6	3	2	3	3	2	1	0	4	2	6	15	2	5
	福祉1回生	23	22	20	22	18	18	20	15	13	13	20	21	15	6	0	3
	福祉2回生	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	食栄1回生	48	47	44	43	36	28	30	16	6	8	40	45	12	21	0	2
	食栄2回生	0	1	9	0	0	0	0	0	4	0	2	2	0	0	0	4
児童	児童1回生	145	130	128	135	68	109	67	71	42	24	64	133	35	5	6	4
	児童2回生	0	5	9	0	2	14	5	6	0	0	4	1	0	21	2	29
専攻科	専攻科1回生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	専攻科2回生	0	0	3	0	0	0	5	0	0	0	2	0	0	4	0	0
計		273	267	274	247	173	216	167	139	77	76	185	260	91	88	15	48

(3)大学祭について

大学祭は、Saint Mary Festival と題し、学生生活における最大の学友会行事として毎年行い、本年度は第 29 回を迎えた。2008 年度からは、「アッセンブリー・アワー」(学友会の自主的活動の場) などを利用して、1・2 回生が協同して企画検討を重ね、大学祭の準備を進めた。教職員も企画から運営に対して積極的な支援を行い、大学祭の成功に向けての協力体制を図った。

2009 年度、大学祭のテーマを『破顔一笑～ この輝く瞬間を永遠に～』に設定し、模擬店、フリーマーケット、作品展示、演奏会、ダンス、若手芸人による『お笑いライブ』などのイベントを用意した。

オープンキャンパスも同日開催となり、学科専攻説明、入試説明、入試相談、キャンパスツアーなども実施され、参加していただいた受験生・保護者の関心を高めた。

本学学園行事の中核となっている大学祭については、今後とも学生が主体となって進めていくが、充実した学園づくりのために教職員がしっかりと支援していくことが大切だと考える。

(4)入学式・卒業式について

本学における学生生活は、入学式に始まり卒業式をもって終了する。入学式は、新入生にとっては、これからの学生生活の出発点であり、卒業式は、卒業生にとっても進学や就職などに向けての新たな出発点でもある。式に臨む態度、つまり、セレモニーとしてのあり方なども具体的な教育内容の 1 つとして指導しており、厳粛な中にも新しい環境での意欲を高め、ライフサイクルの 1 つの節目として捉えるように企画している。多数の保護者の出席もあり、建学の精神および教育方針など、特に学生部としては、“望ましい学生生活のあり方” などについて理解を得る“良い機会”として対応している。

(5)クリスマス・ミーティングについて

クリスマスの集いは、本学の建学の精神の具現化の 1 つとして行われる重要な学校行事であり、毎年 12 月のクリスマスの時期に、学友会とクリスチャンセンターの合同の企画で実施している。(2009 年度は 12 月 17 日(木)に実施、参加学生数約 346 名、2007 年度から 12 月授業終了週の木曜日午前中をあてることに決まっている。)

2009 年度において、クリスチャンセンター担当の前半は、“御言葉の祭儀”と題した、聖書を朗読し、聖歌を歌う催しに加え、キャンドルサービスを行い、主の降誕の意味をより深く、参加者全員が共有できるよう努めた。この後、学生による「ブラックライトシアター」でのページェントを行った。また後半は学友会を中心に、学長、教員扮するサンタクロースよりプレゼントが配られ、聖歌隊、ハンドベルによる演奏なども行われ、「降誕を祝う」催しを企画、実施した。

(6)京都学生祭典について

全国で初めて都市をあげての学生祭典が、2003 年に「京都学生祭典」として実施され、2009 年度は第 7 回を迎えた。本学は本年度で 5 回目の出店となった。1 回目は食物栄養専攻の学生による中華饅頭の出店、2 回目はファンシーロウソク、うちわ、ポストカード、和紙による照明器具、箸袋と箸置き、健康ニギニギなどのオリジナル手作りグッズの出店、2008 年の 4 回目は児童教育専攻の専攻科生による「縁日」への参加で、たこせんべい、ミルクせんべい、グリーンティーの販売に続き、2009 年度 5 回目は『たこせん』の販売のみを受け持った。接客販売は、スムーズに和気藹々として、流石専攻科生と思わせる対応であった。当日は、会場をうめつくした親子連れ、学生仲間とともに活気に満ちた一日を過ごした。

この京都学生祭典への参加も、学友会組織による行事として定着しかけており、ここ数年の学友会活動の発展性をうかがわせている。

5-3-3 食堂等の厚生施設、保健室の概要について

(1) 学生食堂等について

① 厚生施設

学生の休息のための施設・空間については、マリアンホール食堂が最大であり食事以外にもよく利用されている。その他、本館一階西側ホール（20席）、2階フロアー（15席）、マザーホール1階（12席）、南庭ベンチ（4人掛け×31脚）もそれぞれに活用されている。

② 学生食堂・売店

マリアンホール2階、3階に配され、約480席を有する学生の憩いの場として機能している。食堂の営業日・時間帯、購入価格等、学生のニーズは多種多様であり、アンケート調査によれば、改善を期待する声が多く、継続的な努力が必要である。

売店（購買部）について、本年は、手作りパンの販売を開始した。新鮮かつ豊富な品揃え、求めやすい価格など、概ね好評である。コンビニエンスストア機能の充実についての要望も強く、スペース、人的配置、運営形態などの課題を含めて、更に、検討を重ねていく。

(2) 健康診断と保健室の利用状況

① 健康診断

4月のオリエンテーション期間中に、学校保健法に基づき定期健康診断を全員に受診させ、就職など健康診断書を作成する際の基礎資料としているほか、健康管理上の留意が必要な学生を把握、保健指導も実施している。健康診断の受診率の推移は表V-6の通りである。

② 保健室の利用状況

学生の健康管理は学生部・保健室が担当、看護師資格を有する職員1名が常勤している。

学内で発生する病気や怪我には、臨機応変に対応し、重症の場合には近隣の病院に搬送する等の措置を講じている。

保健室利用の主な内容は、けがや病気の応急処置や健康相談（保健指導・悩み相談も含む）である。けがは、火傷や切り傷・擦過傷・捻挫・打撲の応急手当が大半を占める。病気としては、風邪・頭痛・腹痛・その他消化器症状・生理痛・体調不良などが多い。

2009年度、保健室から病院搬送したケースは4件であった。痙攣発作で1件、下肢のけがで2件、その他の疾患1件である。

利用状況は表V-7に示す通りである。相談内容については表V-8を参照。

学生健康調査票で不定愁訴の多い学生には、健康診断後の保健指導と組み合わせ個別に保健指導を行っている。

2007年度より、大学における『成人麻疹』に対する予防対策が課題となっており、2009年度入学予定者には入学前に“麻疹抗体検査・予防接種の勧奨”の案内文を送付した。入学後、校外実習を受ける学生には、“感染症調査票”を提出してもらった。

“感染症調査票”を基に京都府医師会発行のパンフレットを配付し、個別に2回のワクチン接種勧奨・抗体検査について保健指導を行った。実習指導室からの指導もあり、ほとんどの学生が予防処置を行った。

表V-6 年度別健康診断受診状況と受診率

学科名	学年別	2007年度			2008年度			2009年度		
		対象者数	受診数	未受診数	対象者数	受診数	未受診数	対象者数	受診数	未受診数
生活科学科	I回生	117	116	1	123	123	0	134	134	0
	II回生	136	128	8	116	108	8	118	108	10
児童教育学科	I回生	158	158	0	154	154	0	146	145	1
	II回生	153	151	2	160	158	2	150	148	2
	専攻科	50	50	0	36	36	0	33	33	0
国際文化学科	I回生	48	48	0						
	II回生	61	58	3	49	47	2			
合計		723	709	14	638	626	12	581	568	13
受診率		98%			98%			98%		

表V-7 年度別保健室利用状況

月	2007年度				2008年度				2009年度			
	外傷	病気	相談	合計	外傷	病気	相談	合計	外傷	病気	相談	合計
4	34	63	54	151	41	65	302	408	14	36	38	88
5	47	77	151	275	39	75	182	296	10	15	65	90
6	36	94	104	234	29	86	188	303	25	37	21	83
7	28	79	101	208	53	98	171	322	14	30	27	71
8	4	17	24	45	10	12	33	55	0	5	3	8
9	10	28	29	67	8	28	49	85	4	4	8	16
10	28	83	62	173	36	57	69	162	12	34	8	54
11	26	81	57	164	28	69	58	155	16	40	162	218
12	20	60	64	144	20	64	32	116	11	34	17	62
1	15	52	50	117	17	76	38	131	5	16	20	41
2	9	33	29	71	7	24	18	49	8	13	13	34
3	6	15	22	43	2	16	11	29	3	7	1	11
計	263	682	747	1692	290	670	1151	2111	122	271	383	776

2009年度データには、学生健康調査票および健康診断による保健指導を集計に含んでいない。

表V-8 相談内容

	2007年度	2008年度	2009年度
病気・身体のこと	508	947	307
話を聞いてほしい	100	72	52
友人・家族との人間関係	21	21	4
就職・進路について	31	35	8
異性との交際	32	9	1
学習・学校生活について	16	43	9
その他	39	24	2
合計	747	1151	383

2009年度データには、学生健康調査票および健康診断による保健指導を集計に含んでいない。

(3)学生相談室

本学では、学生が様々に抱えている悩みや問題について、自立的に解決できるよう支援し、人間形成の向上を図ることを目的として「学生相談室」を設置している。2007年度から開室日を2日増やし、月～金の午後にご利用できるようにし、常勤のカウンセラーが対人関係、家族の問題、心身の問題等について対応し、必要に応じて医療機関や専門機関も紹介している。個人のプライバシーに係わる事柄や相談内容は、外部に一切漏れないように秘密は厳守し、安心して相談できる体制をとっている。

今後、発達障がいやこころの悩みなどをもった学生が増えてくることが予想されるため、学生部長、学科長、担任、学生相談室、保健室及び事務室が連携してケアできるよう努めていく。

表V-9 2009年度 学生相談室 相談利用状況

学科・学年別の来談者数

	学年	生活科学科	児童教育学科	卒業生	教職員	合計
前期	1	10	7	2	15	71
	2	20	17			
	計	30	24			
後期	1	0	1	0	18	49
	2	4	26			
	計	4	27			
計		34	51	2	33	120

相談種別の来談者数（複数回答あり）

	心・体・生活	友人・家族・ 対人関係	学習・進路	その他	計
前期	26	33	12	12	83
後期	21	19	26	8	74
計	47	52	38	20	157

5-3-4 下宿・マンションなどの宿舎の斡旋について

学生寮はない。本学の周辺は、マンションなどの斡旋業者、不動産関連業者は多い地区ではあるが、本学においては信用のおける業者を紹介するにとどめ、具体的な斡旋はしていない。したがって特定業者との提携契約はしていない。2006年は40名、2007年度は50名前後、2008年度は50名前後、また2009年度は30名前後の学生が下宿生活をしている。本学では、毎年5月から6月にかけて昼休みに「下宿生の集い」を開催している。学生部教員と下宿生との情報交換の場である。教員の体験談なども含めて諸注意を促し、今後の下宿生活、学生生活におけるトラブルを未然に防止するよう努めている。また緊急事態に備えて本学との連絡体制がとれるように、一人ひとりが安全かつ健康に下宿生活ができるように励ましている。

通学については、本学は最寄の駅から学舎まで近距離であるため、通学バス等の運行はしていない。またバイク、自家用車等での通学も禁じている。

駐輪場は学舎の南に、約35台駐輪できるように設置しているが、現在手狭になっており増設を検討しなければならない状況になっている。

5-3-5 奨学金制度について

本学の奨学金制度としては、日本学生支援機構の奨学金と、本学独自の聖母女学院短期大学後援会奨学金の2種類がある。利用についての詳細は『学生便覧』および「後援会規程」などによって学生に明示し、募集に際しては、奨学金専用コーナーで掲示を行っている。

日本学生支援機構奨学金制度は、第一種（無利子）と、第二種（有利子）の2種類があり、2009年度は204名が受給している（在学採用76名、予約採用128名）。後援会奨学金制度は、本学後援会の支援によるもので、2008年度は前期、後期合わせて2名の学生が受給した。募集は4月と9月の年2回であり、採用基準は日本学生支援機構奨学金に準ずることになっている。貸与金額は月2万円と4万円の2種類であり、奨学金の返還金は、後輩の奨学金として循環運用されている。

5-4 進路支援

5-4-1 各学科の進路状況について

2009年度学科別進路状況は資料7の通りである。

5-4-2 就職支援のための組織体制について

進路（就職進学等）を支援する組織としてキャリアセンターを設置し、教員からキャリアセンター委員長および各学科より2名、職員側から2名でキャリアセンター委員会を構成し、学生への進路指導に当たっている。

個別相談に関しては、キャリアセンター職員が、随時対応するとともに、各学科のキャリアセンター委員のほかに、ゼミや実習担当教員、実習巡回担当教員などが、定期的に相談を受けている。

企業就職希望者、進学希望者については、1回生の後期からキャリアセンター職員が個別相談を行い、2回生からはゼミ担当教員も行っている。専門職就職希望者はキャリアセンター職員のほかに、学外実習の事後指導等の時期に、実習担当および実習巡回担当教員が行っている。このような定期相談をもとにして、職業観、勤労意欲を育むとともに、学生の将来の希望が達成できるよう、随時キャリアセンター職員が中心となって個別指導を行っている。

保護者に対しては、入学式および大学祭の保護者会において、保護者への全体説明および個別相談に応じている。なお、新入生の保護者向けに「進路のてびき」を発行し、入学式後に、各学科のキャリアセンター委員が配布、前年度の進路状況の説明を行った。

5-4-3 キャリアセンター等の現状と学生への情報提供について

就職、進学等の卒業後の進路支援のため、求人情報の開示や、企業や専門職関係の会社案内、幼稚園、保育所、施設案内をはじめ、編入学等の進学関係の資料も揃え、随時、個別相談及び進路指導に当たっている。

求人情報や進学情報は、キャリアセンター室の掲示のみでなく、就職支援システムにより、求人情報や先輩の採用試験報告等がネットワーク経由でコンピュータから検索可能であり、また、キャリアアワーおよび進路ガイダンスや求人情報等のメール配信も可能であるため、実習期間や長期休暇中にも、情報提供ができるような体制を整えている。

また、2006年度から、就職支援システムで学外アクセスを可能にしたため、学生はより便利に情報を得られるようになったが、このようなシステムのみには依存するだけでなく、キャリアセンターや教員への相談等も重視し、より豊かな就職活動が展開できるよう、個別指導等に当たっている。

5-4-4 就職状況について

(1)生活科学科

近年、厳しい就職状況下ではあるが、生活科学科の就職率は2007年度93.9%、2008年度95.1%、2009年度95.6%と比較的高い水準を保ち、年々増加傾向を示している。学科としては就職率100%を目指しており、そのために「キャリアアワー」を1回生前期から通年で、「キャリアフォーメーション」を1回生後期に設け、就職活動が早まるなかでの就職意識を高めるべく努めてきた。

就職先は、生活科学専攻では一般事務職、販売職などが多いが、なかにはコースの専門を生かした就職先もみられる。食物栄養専攻は、ほぼ半数が栄養士免許を生かした専門職に就いている。今後、さらに専門職への就職希望者が高まることを期待している。

(2)児童教育学科および専攻科児童教育専攻

従来から児童教育学科の本科および専攻科の学生は、入学時から強いモチベーションを持ち、「就職」における“社会貢献”の意識は高く、多大の努力をして複数の免許・資格を取得する。したがって本科、専攻科ともに、ほぼ100%に近い就職率で“子どもに関わる仕事”に従事している。

しかしながらこの数年、特に今年度あたりから免許・資格は取得したものの、社会情勢の変化に伴い、例えば出生率等の低迷から正職員への道が狭まれていることや、昨年

話題になる教職の困難さ等の理由から、一般企業を模索する者も微増している。

このような傾向は、本学科の教員養成校としての根幹に関わることであり、今後の、採用状況の改善を図るとともに、入学時の“子どもに関わる仕事”にたいする意欲が持続できるように、検討しなければならないと思われる。

5-4-5 進学等の支援について

本学で学んだことをもとに、さらに学問や専門性を探求しようと、本学専攻科、四年制大学への編入学、専門学校への進学する学生も定着してきている。

四年制大学への編入学につき、本学が指定校推薦枠を受けている四年制大学数は、2009年度は44大学である。学生の殆どはこの制度を活用して進学している。

本学本科生の過去3ヶ年の進学状況は以下の表のとおりである。

本科生 進学状況

区 分	2007年度	2008年度	2009年度
進 学 者 (人)	30	36	36
(うち、4大編入)	(11)	(11)	(10)
(うち、4大進学)	(0)	(0)	(0)
(うち、専攻科)	(10)	(18)	(20)
(うち、短大進学)	(3)	(0)	(0)
(うち、専門学校進学)	(6)	(7)	(5)
(うち、留学)	(0)	(0)	(1)

2009年度の進学希望者は、前年度と同数の36名であり、全員希望どおり進学することができた。進路実績は四年制大学では同志社女子大学、関西大学、京都ノートルダム女子大学、龍谷大学、佛教大学、京都文教大学、関西国際大学、神戸芸術工科大学など10名であり、本学専攻科への進学者は20名を数えた。

学生の向上心、学習意欲を尊重し支援することは大学の重要な使命であるので、可能なかぎりの支援、例えば志望理由書の添削、面接指導など、個別対応に注力している。

表V-10 2009年度進学ガイダンス

日時	内容	講師	対象
2009年 5月28日	本学専攻科第1回進学説明会	児童教育学科 教員	進学希望者
10月21日	本学専攻科第2回進学説明会	児童教育学科 教員	進学希望者
10月29日	4年制大学指定校編入学 希望者向けガイダンス	キャリアセンター・児童 教育学科教員	進学希望者
11月6日	4年制大学一般編入学 希望者向けガイダンス	外部講師	進学希望者

また、上記の進学ガイダンス以外に、本学学生の弱点と思われる一般編入学希望者向けの英語授業（総合英語BⅠ、総合英語BⅡ）なども開講している。

進学希望者に対しては、特に個別指導が主であるので、就職希望者と同様に、キャリアセンターおよび教員がより細やかな指導を、今後とも充分に実施していきたいと考えている。

5-4-6 その他

就職支援対策や資格修得の支援について

(1) キャリアアワーおよび就職ガイダンスについて

キャリアアワー及び就職ガイダンスは、学生の就職意識の高揚を図るために、その時期に適したガイダンスを行っている。

1 回生前期には、学科別にキャリアセンター委員の教員が中心となり、就職に対する動機付けなどのガイダンスを行い、後期からはキャリアセンター職員が、全学科を対象に事務的な内容も含めて、進路希望先に分けてガイダンスをした。

一昨年度までは、後期キャリアアワーは毎週火曜日 9～10 限目で学生の出席しづらい時間設定であったため、昨年度より毎週木曜 5～6 限目の設定となった。しかし学生の進路に対する意識の低下もあり出席率は上っていないため、教職員が一丸となって学生への進路に対する個別指導やキャリアアワーへの出席率の向上に取り組まなければならないと思われる。

(2) エクステンション講座について

本学では就職に際し有利に働く資格取得や教養のための講座を、エクステンション講座と称して課外授業として開設している。カリキュラムや学内外行事の関係で、土曜日に組まざるを得ない状況から、受講者が減少傾向にある。開講講座は、秘書検定 2 級、WORD 講座、EXCEL 講座、公務員教養講座で、主に生活科学科の学生が受講している。

秘書検定・・・検定合格と就職に役立つ社会人のマナーを身につけることを目的として実施している。個人指導に近い形で一人一人と向き合った密度の高い授業で、集中力・忍耐力・持続力を引き出すことが出来ている。また、基本動作（挨拶、返事、おじぎ、態度等）を実践することにより、就職活動に役立つ身ごなしが徐々に身につけてきている。検定試験の可否に関わらず一般常識・マナーを学べることは今後大いに役立つと考える。

WORD 講座・・・資格取得だけを目的とするのではなく、レポート作成などにおいて、学生にとって必要不可欠な文章作成ソフトである WORD の機能を基礎から学習してマスターすることにより、実際に使いこなせるようになることを目標に指導している。また、講師 2 名体制により、受講生個々のレベル差をフォローすることにより、受講生全員が最後まで学習意欲を継続するよう心掛けている。

EXCEL 講座・・・社会に出てからは WORD 以上に活用頻度の高い EXCEL だが、苦手な学生が多い。表計算ソフトの基本的な機能についての学習と練習問題演習を通して、まずは EXCEL に対する苦手意識を取り除き、表計算ソフトの便利さを理解してもらうことに重点をおいて指導している。その結果、講座終了時には講座開始時に比べ、自信を持って積極的にコンピュータを利活用できるようになっている。

簿記 3 級講座・・・会社の取引というものを身近なところから理解していくことを目的としている。お金の動きを具体的にとらえるが、この点に関して受講生は充分会得しているようだが、その動きの後に続く、管理、報告といったところは、実践経験が少なく、やや消化不良のレベルに終わってしまった。検定試験合格が最善の結果であるとは思いますが、新入社員として要求されるレベルの動機付けは出来た。

前述したように、受講者が減少しているため、大学側もカリキュラムや学内外行事の調整や開講講座など、側面的に見直し検討する必要がある。

(3) 卒業生に対する評価について

一般企業へ就職した卒業生の評価については、キャリアセンター職員が人事担当の方と面談等で聴取している。一般企業の場合は、一部の企業を除いては、意見聴取させていただいたほとんどの企業は本学の卒業生を把握させていただいており、上司や同僚とのコミュニケーション能力や、仕事を安心して任せられるといった評価など、おおむね高い評価を得ている。

専門職に就職した卒業生の評価については、キャリアセンター職員や、実習巡回時に担当教員が訪問して、卒業生に対する評価について聴取を実施している。専門職の場合は、本学の卒業生一人ひとりを把握されておられる施設や園が多く、一般企業同様、まじめで一生懸命仕事に取り組んでいるなど、おおむね高い評価を得ており、卒業生の活躍により次年度以降の求人につながっていると思われる。ただ、一部で早期離職など迷惑を掛けている場合もあるので、在学中に就職に対する姿勢等根本的なところから意識を高め、深めるよう指導していきたい。

編入学先からの卒業生に対する評価については、出席等を含めた学習意欲や成績等評価は高く、44 大学から指定校推薦枠を頂いていることから良い評価が得られていると判断できる。

5-5 多様な学生に対する支援

5-5-1 留学生の受け入れについて

留学生の受け入れは、従来「外国人留学生規程」に則り行われてきた。2002 年度より、国際交流の一環として積極的に現地募集（中国）を行ったが、その後、日本語能力等の問題から、現在は日本語学校などを卒業した学生を募集している。

学業面での相談やサポートは、学科の留学生委員が中心となり、生活面でのサポートは、学生課長が下宿の紹介、アルバイトの紹介、入管手続き等を担当している。

入学当初は、日本語のレベルにかなりの個人差があり、短期大学の学業に慣れるには厳しいものがあつたが、留学生自身の努力と指導教員の適切な指導をはじめ多くの人々のサポートにより、学業のレベルは急速に上がっている。

5-5-2 社会人学生の学習支援体制について

地域や社会に広く開かれた短期大学を目指して、年齢 23 歳以上の社会人に向けて、全学科において社会人特別入試を実施している。2006 年度は 4 名（児童教育学科 3 名、国際文化学科 1 名）、2007 年度は 1 名（国際文化学科 1 名）、2008 年度は 1 名（児童教育学科 1 名）であったが、2009 年度は 7 名（生活科学科 5 名、児童教育学科 2 名）の社会人が入学した。うち生活科学科生活福祉専攻 4 名は、京都府立京都高等技術専門学校による介護福祉職業訓練生の社会人特別入試受験者である。

社会人入試による入学者には、学納金の減額を実施しており、入学金のうち 100,000 円を入学奨励金、授業料年間 240,000 円を奨励金として、それぞれ減額している。

そのほか、社会人入試による学生は、既修得単位の扱いなど個別対応をして、さらに本学での必要単位を修得することによって、栄養士資格、保育士資格、小学校・幼稚園教諭免許、介護福祉士資格、その他各種資格を取得できることになっている。また、一度社会に出た経験と本学で習得した知識・技術を生かして、現場で即戦力的役割を果たせるように、またリーダー的役割を果たせるような人材の育成も目標にしている。

5-5-3 障害者の受け入れについて

障害者は、過去 3 ヶ年に 1 名（内科的疾患によるもの）受け入れたが、特に大学生活には支障がなかったと思われる。設備面は、2001 年に、「福祉棟（マザーホール）」建設時に、玄関スロープ、階段手すり、身障者専用トイレ、点字ブロックなどを設置、可能な限りのバリアフリー化をした。しかし、本館、別館などは、一部設置されているものの充分ではなく、今後さらに、多様な障害者に対応した設備面のみならず人間関係、ふれあいなど、種々の側面から充実した対応策を検討していく必要がある。

5-5-4 長期履修生の受け入れについて

検討の結果、長期履修生の制度を導入しないことに決定した。

5-6 学生支援の特記事項

5-6-1 就学上の指導について

《マナー向上パトロールについて》

本学では、2001年6月より学生部の教員および課員が連携して、昼食時間帯および夕刻に学内のパトロールを実施している。目的は禁煙、食堂の食器、ごみ、空き缶の放置をパトロールすることで、美化運動、マナー向上キャンペーンのひとつである。

禁煙および一般的マナーは少しずつながら改善され、効果が上がっているところであるが、これらは一部の学生委員会の活動のみにとどまらず、短期大学全体で取り組む姿勢が大切であり、教職員と学生が一体となつての雰囲気づくり、環境づくりをしていく必要があると考える。

《防犯対策・避難訓練》

毎年夏季休業前のアッセンブリー・アワーの時間を利用して、地元の警察署（生活安全課）、消防署にそれぞれ防犯、防火についての講演を依頼、学生に注意を喚起している。

2008年度に引き続き、2009年度も避難訓練を実施し、真剣で機敏な避難行動が出来たと署員から高い評価を得た。

《アルバイト》

アルバイトの斡旋は学生課が担当しており、求人票はアルバイト専用コーナーに掲示している。本学においては、種々の資格、免許の資格あるいは授業時間数などの増加から、学生にアルバイトをする時間的余裕はないと思われる。近年、情報誌やインターネットなどで簡単にアルバイトを探すことが可能であるが、危険を伴うもの、人体に有害なもの、法令に違反するもの、教育上好ましくないものなどは避けるよう、また学生としての本務である“学業”を中心に考えるよう保護者へのアピールも含めて指導している。

5-6-2 学生に対する窓口業務について

事務室において、学生課の窓口は学生との接点が一番多いところである。学生生活、奨学金、就職活動等の悩みや問題点を抱えた学生が来室するが、家庭状況など学生のプライバシーにある程度立ち入らねば、適切な相談に応じられない事例もあり、個人情報保護法との関わり方も含めて、どのように対処すべきか苦慮するところも多い。しかしながら本学の“建学の精神”にのっとり、一人ひとりの顔を見ながら、声掛けをし、学生指導を進めていくという姿勢は崩すことなく対応しているところである。

VI 研究

6-1 教員の研究活動全般について

6-1-1 専任教員の研究業績

本学専任教員（嘱託を含む）の本年度の研究業績は表VI-1の通りである。

表VI-1 2009年度 専任教員の研究実績表

	氏名	職名	研究業績				国際的活動の有無	社会的活動の有無
			著作数	論文数	学会等発表数	その他		
生活科学科	山田 幸子	教授		1				有
	久保 妙子	教授		1		1	有	有
	船越 暉由	教授				1		有
	秋山 栄一	教授	1					
	井上 深幸	教授				1		有
	三友 雅夫	教授				1		
	古田 薫	教授				1		有
	黒田 健二	准教授						
	于 克勤	准教授		1		2	有	有
	横山 早美	准教授				1		有
	浅海奈津美	准教授						有
	西 彰子	講師		1	1	8		有
	金岡 敬子	講師		1	1			有
	佐伯 孝子	講師						有
吉島 紀江	講師						有	
児童教育学科	多羅間拓也	教授		1	4	1		有
	児玉 衣子	教授	1					有
	中村 一郎	教授		2	1			
	松本 好隆	教授		2				有
	塚本 宏子	教授		1		3		有
	藤岡 道子	教授		2	3	6	有	有
	松井 玲子	教授	1	1		1		有
	小林 玲子	准教授		1	1			
	永松 昌樹	准教授		1	4			有
	平松紀代子	准教授				2		有
	松田 千都	講師	1			4		有
	石川 隆行	講師	1	1	2	1		有
	福井真裕子	講師		1		4		有
	渡邊 慶一	講師	1	1		2		有
	田中 真紀	講師		1				有
	稲垣 実果	講師		1	1	1		有
山成 昭世	講師		1	3	1		有	
西田 晴美	講師	1		3				
安川由貴子	講師		2	1				

6-1-2 研究活動の公開

2009年度の教員の主要業績（著書、論文、学会発表、演奏会や個展、国際的活動、社会的活動等）は表の通りである。

表VI-2 2009年度教員の主要実績

山田幸子	論文	酵母 <i>Candida tropicalis</i> pK233 培養液の抗酸化能 Nippon Shokuhin Kagaku Kaishi Vol.56 2009年5月
	社会的活動	健康フェア(京都市主催) 2009年9月
久保妙子	論文	「中国都市部における近隣コミュニティに関する研究」(再録) 中国関係論説資料 第50号第4分冊上巻 論説資料保存会 2010年3月
	その他	「サクセスエージングー心地よい住まいとインテリア」マリア祭・聖母講座講師 学校法人聖母女学院主催 2009年7月
	国際的活動	中国北京市菊兒胡同新四合院住宅および一般集合住宅における質問紙調査 2009年12月 中国北京市東城区文化委員会、清華大学他 懇談会 プレゼンテーション 2009年12月
	社会的活動	城陽市商工業活性化推進審議会副会長 奈良県開発審査会委員
船越暉由	その他	京都工芸繊維大学内ノートルダム館新設工事基本設計、実施設計・監理総括
	社会的活動	二級建築士・木造建築士試験委員
		京都府景観審議会専門委員
		京都府景観審議会関西文化学術研究都市景観部会委員
		南丹市都市計画審議会会長 南丹市本町土地区画整理審議会委員
秋山栄一	著書	専門医がすすめる糖尿病・メタボ対策の500キロカロリー献立集、パールバック、2009
井上深幸	その他	『福祉コミュニティの創造』『福祉社会学を考える会』報告書、2009年8月
	社会的活動	平成21年度 日本福祉図書文献学会全国大会実行委員長 2009年9月(聖母女学院短期大学) 第22回 介護福祉士国家試験実地試験委員
三友雅夫	その他	〈対談〉京料理への期待～京都文化の発信と地域福祉への貢献～〈その1〉 食生活研究 Vol.30 No.1 〈対談〉京料理への期待～京都文化の発信と地域福祉への貢献～〈その2〉 食生活研究 Vol.30 No.2
古田薫	その他	『平成21年度 第三者評価の実践結果を踏まえた評価手法等の効果検証に係る調査研究 最終報告書』 2010年3月
	社会的活動	杉並区立学校第三者診断 診断委員 学校法人聖母女学院 2009年度教員夏季研究会(管理職) 講師
于克勤	論文	「門」についての考察 聖母女学院短期大学「研究紀要」第39集 2010年4月
	その他	「日本中国学会第61回全国大会」2009年10月
		「日本中国語学会第59回大会」2009年10月
	国際的活動	中国改革開放時期における中国語新語・流行語及び方言表現に関する社会調査(2009年～2010年)
社会的活動	「日本関西地区中国語研究会」の研究活動(年6回)2009年～2010年	
横山早美	その他	講演 私の視点からのアパレル業界そして女性の仕事との関わりについて 主催 ノートルダム女学院中学校 2009年11月26日
	社会的活動	日本家政学会関西支部 2009年度役員

浅海奈津美	社会的活動	日本福祉図書文献学会 第12回全国大会実行委員 2009年9月 聖母女学院短期大学
		パネルディスカッションパネラー NPO法人聖公会生野センタークリームもだん教室 「シュタイナー教育と自立について」 2009年11月
		講演 NPO法人「和」「第二自立期 高齢者の暮らし方」 2009年11月
西彰子	論文	「乳酸菌、酵母の活性酸素消去能」 『食生活研究』Vol.30 No.1 2010年1月
	学会発表	「酵母 Candida tropicalis pK233 の抗酸化能に対する培養条件の効果」日本農芸化学会年次大会 一般演題発表 2010年3月
	その他	「京の食文化～京料理の食材の手法～」第8回生活科学講座 講演講師 2009年7月
		「第18回市民すこやかフェア」(みやこメッセ)京都市民向け食育指導運営 2009年9月
		「暮らしと健康展」(京都府医師会主催) 食生活相談担当 2009年9月
		「京の食文化～和食をいただきます」 聖母学院小学校国際コース食育講座企画指導 2009年10月
		「幼児向け食育」実施指導 京都やんちゃフェスタ2009(第2部)2009年12月
		演題「児童館で食育」西京区児童館研修会講演講師 2010年2月
		「幼児向け食育」実施指導 京都生活協同組合主催「第12回商品代交流会」2010年2月
	「幼児向け食育紙芝居」実施指導 稲荷保育園 2010年3月	
社会的活動	「第29回健康づくり提唱のつどい」(京都府栄養士会主催)企画・運営・司会 2009年11月 京都府栄養士会理事(研究教育部会長)	
	日本家政学会関西支部評議員	
金岡敬子	論文	「キャリア教育におけるビジネス実務教育の役割」 聖母女学院短期大学 紀要 39 2010年4月
	学会発表	「社会人基礎力の育成をめざして ～ITサポートの活用～」 日本ビジネス実務学会 第26回中国・四国ブロック研究会 2009年8月
	社会的活動	日本経営教育学会第60回全国研究大会実行委員 2009年10月
		修大再チャレンジプログラム第3回チャレンジ講演会 講師 2009年11月
		日本情報処理技能検定協会検定 専門委員
		日本商工会議所PC検定 試験委員
		サーティファイ認定試験 試験委員
NPO 小学校英語指導者認定協議会小学校英語指導者		
佐伯孝子	社会的活動	兵庫県立大学 公開講座 「未来につながる食力 ～食育普及への提言～」 第一回“教育現場からの出前食育”講演講師 2009年8月 兵庫県立大学 神戸学園都市キャンパス
吉島紀江	社会的活動	日本福祉図書文献学会 第12回 全国大会 実行委員 2009年9月 聖母女学院短期大学
		第22回 介護福祉士国家試験 実技試験 実地委員 2010年3月
		京都市介護認定調査員

(児童教育学科)

多羅間拓也	論文	『総合演習』におけるNIEの試行 聖母女学院短期大学 研究紀要 第39集 2010年
	作品発表	第44回 関西二科展 (京都市美術館) 2009年4月
		第94回 二科展 (国立新美術館、京都市美術館) 2009年9月、11月
		「4人のしごと part3」(ギャラリー・マロニエ) 2009年11月
	京滋二科作家展 (京都府立文化芸術会館) 2010年1月	
その他	京都彫刻家協会作品集 創立40周年記念出版 2010年3月	
社会的活動	京都教育大学附属桃山地区学校園教育振興会事務局 2009年度	
児玉衣子	著書	「フレール近代乳幼児・保育学の研究」フリードリッヒ・フレール著茅野肅々訳『母の歌と愛撫の歌』の教育方法的検討からー 現代図書 2009年11月
	社会的活動	聖母女学院短期大学主催 幼稚園教諭免許10年更新講習会講師 (社)キリスト教保育連盟保育研究委員会委員
中村一郎	論文	「微生物制御のための定量的ハードルテクノロジー理論の構築とその穀類加工製品への応用」財団法人飯島記念食品科学振興財団平成19年度年報 2009年8月
		「食品の化学的殺菌・保存に関する文献調査とそれに基づく抗菌データベースの構築」. 第15回日本食品化学研究振興財団研究報告書 2010年3月
学会発表	「加熱殺菌文献データベースの拡大増補版R8105とその利用」. 第10回日本食品工学会年次大会 2009年8月	

松本好隆	論文	『21世紀に生きる人々への贈り物』「外交フォーラム」(都市出版)2010年2月
		『環境政治 序説(3)』聖母女学院短期大学 研究紀要 第39集 2010年3月
	社会的活動	緊急アピール「対露領土交渉の基本的立場」への参画 ((財)日本国際フォーラム)2009年5月11日付け日本経済新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞 以下外務省(懇談会、報告会)他4回 2009年4月~12月 『国際金融危機をめぐる最近の動き』、『核軍縮不拡散の動き』、『最近のロシア情勢と日ロ関係』、『イタリアサミットと気候変動』、『最近のアジア情勢』
塚本宏子	論文	「芸術教育としての音楽教育(2)」 聖母女学院短期大学研究紀要 第39集 2009年4月
	演奏会	ピアノ・ジョイントリサイタル 2009年6月 KDSホール ピアノ・ジョイントリサイタル 2009年9月 KDSホール 第30回「ピアノ音楽研究発表会」2009年月サン・ホール
	社会的活動	老人介護施設での慰問音楽会(毎月1回程度)
藤岡道子	論文	「狂言の絵画資料の収集 その2」『東洋哲学研究所紀要24号』2009 「岡家本江戸初期能型付の成立考」『聖母女学院短期大学研究紀要第38集』2010.4刊
	学会発表	「洛中洛外図に描かれた能狂言」六麓会神戸市勤労会館 200.11.8 「四条河原遊楽図の中の能狂言」六麓会神戸市勤労会館 2009.12.23 「幕末期の公家と能楽」東洋哲学研究所研究会 2010.3.20
	その他	「伏見と能狂言」聖母短大伏見学講座 2009.12.12 絵画解説「忍びすびしゃもんー江戸初期古能狂言図より」『芸術文化雑誌紫明』2009.9.20 レポート「北京の5月15日」宝生能楽堂狂言会パンフ 2009.7.30/31 評論「3月の湖 5月の薔薇」名古屋能楽堂・京都金剛能楽堂狂言会パンフ 2009.10.31 作品解説:狂言会パンフ 2009.2.25/8.11 国立能楽堂・東京芸術劇場 作品解説:狂言会パンフ 2009.10.14/18 国立能楽堂
	国際的活動	中国芸術院招請野村万作名誉教授号授与式随員 2009.5.13~17(能楽タイムズに記事執筆)
	社会的活動	能楽学会・能楽フォーラムを聖母短大にて開催・実行委員 2009.12.19/2010.3.13 中世文学会、能楽学会、芸能史研究会、お茶の水女子大学国語国文学会、東海能楽研究会他
	著書	『学生のための教育学』(共著)ナカニシヤ書店2010年4月20日、pp.14~25。
	論文	「特別活動における『体験活動』『人間形成と文化(奈良女子大学文学部教育文化情報学講座年報)』第7号2009、2010年3月、pp.201~212。
	その他	「人と人をつなぐ道徳教育」(神戸学院大学免許更新講座テキスト)
松井玲子	社会的活動	高大連携 北かわち阜月が丘高校教育コース授業 2010年1月22日 『子どもらしさ』アリエスー図像に見る子ども観の変遷
	論文	「レヴィナスにおける無限の観念」 聖母女学院短期大学紀要 第39集 p.62~75 2010年4月
小林玲子	学会発表	「ポール・リクールにおける『赦し』」日本基督教学会第57回学術大会、2009年8月29日北海学園大学豊平キャンパス
	論文	「保育職志望学生のEQテストにみる日常的行動と意識の特性—新任幼稚園教諭との比較より—」 聖母女学院短期大学研究紀要 第40集 2010年3月
永松昌樹	学会発表	「スポーツインストラクターのキャリア形成と資格取得の関係性」 日本体育学会第60回大会 2009年9月 広島大学 「フィットネスクラブ業界における従業員のキャリアマネジメントに関する研究~資格取得と勤務継続意思の関係について~」日本スポーツマネジメント学会第2回大会 2009年10月 立命館大学くさつキャンパス 「子どもの遊びの変容にかかわる保護者の自由時間意識について」 日本生涯スポーツ学会第11回大会 2009年9月 川崎医療福祉大学 「フィットネスクラブ業界における従業員のキャリアマネジメントに関する研究~就業動機・資格取得・勤務継続の関係性について~」日本生涯スポーツ学会第11回大会 2009年9月 川崎医療福祉大学
	社会的活動	日本体育学会体育学分会理事 兵庫県尼崎市スポーツ振興審議会会長 大阪府広域スポーツセンター総合型市域スポーツクラブ育成アドバイザー大阪府八尾市スポーツ施設運営委員会副会長 日本体育協会指導者養成制度検討委員会委員
	その他	『子育てに必要なコミュニケーションスキル~子どもの思いに寄り添う子育てを考える~』さつき幼稚園保護者家庭教育セミナー(京都市) 2009年12月1日 「学童期児童の放課後の生活保障のために」こども環境学会編『こども環境学研究』第5号 2009年12月
	社会的活動	(下鴨児童委員主催)子育てサロンサポーター (地域団体)下鴨コミュニティクラブ事務局員 ノーバディーズ・パーフェクト(親支援)プログラム実施 (福)京都市民福祉センター評議員「現在に至る」 伏見区深草商店街等活性化事業推進委員
	平松紀代子	

松田千都	著書	「1歳半頃までの乳児期後半」 白石正久・白石恵理子編『教育と保育のための発達診断』全障研出版部 2009年8月
	その他	講演 京都保育運動連絡会 第41回京都保育のつどい 「子どもの自我の育ちと保育の課題」 2009年6月
		講演 2009年度マリア祭・聖母講座「子どもの心」 第2回「乳幼児期の“自分づくり”」 2009年7月
		講演 NPO法人ポップコーン 連続講座「発達をとらえるまなざしー自我の育ちー」 第1講座「乳児期」 2009年9月
		講演 全国障害者問題研究会京都支部 発達講座「発達理論を学ぶ」 第1回「乳児期から1歳半頃の発達について」 2009年12月
社会的活動	第48回全国保育問題研究会 保育計画分科会 運営委員 2009年6月	
	第41回全国保育団体合同研究集会 0歳児の保育b分散会 世話人 2009年7月	
石川隆行	著書	「発達心理学での動向」 有光興記・菊池章夫編著 「自己意識的感情の心理学」第15章 北大路書房 2009年10月 262-276.
	論文	「保育職志望学生のEQテストにみる日常的行動と意識の特性ー新任幼稚園教諭との比較よりー」聖母女学院短期大学研究紀要 第39週 2010年4月 53-61
	学会発表	「小学校6年生の傍観による罪悪感と共感性の関連」 日本心理学会第73回大会 2009年8月
		「小学校6年生の罪悪感と学校適応感の関連」 日本発達心理学会第21回大会 2010年3月
	その他	「大人と子どもの心の違い」 2009年度マリア祭・聖母講座講演 2009年6月
	社会的活動	日本心理学会 地域別評議委員(近畿)
日本道徳性発達実践学会 道徳性発達研究副編集委員長		
日本行動科学学会 行動科学編集委員		
福井真裕子	論文	「多世代をつなぐ合唱曲創作の試み」～音楽教育と福祉教育の協働により学生のストレングスを引き出す～聖母女学院短期大学研究紀要 第39集 2010年4月
	演奏活動	聖母女学院短期大学創立記念ミニコンサート 2009年6月 聖母女学院短期大学講堂
		ベガ新人演奏会 八巻志帆(バスクラリネット)伴奏 2009年6月 宝塚ベガホール
		晩秋のコンサート 原田美英子(クラリネット)伴奏 2009年11月 西宮市甲東ホール
		NHK-FM リサイタル名曲コンサート 小玉晃(バリトン)伴奏 公開収録 2009年12月 NHK 大阪ホール
	社会的活動	京都市大塚児童館(山科区)「クリスマスお楽しみプログラム」企画立案・実践 2009年12月
クリスマスコンサート 2009年12月 老人福祉施設アルカディア		
		聖母こどもフェスティバル 2010実行委員(稲荷の家ほっこりとの協働)、2010年2月
渡邊慶一	著書	「専門性とは何か」『実践から学ぶ社会的養護ー児童養護の原理ー』保育出版社、2010年3月 144-145
		「労働条件とチームワーク」『実践から学ぶ社会的養護ー児童養護の原理ー』保育出版社、2010年3月 166-168
	論文	「多世代をつなぐ合唱曲創作の試み～音楽教育と福祉教育の協働により学生のストレングスを引き出す～」(他1名との共著)聖母女学院短期大学研究紀要 第39集 2010年4月
	その他	『保育福祉小六法 2009年版』みらい、2009年4月 編集委員
		日本ソーシャルワーク学会通信No.88「報告15,16」2009年10月、9-10
	社会的活動	京都市児童館・学童保育所職員研修会「児童福祉援助技術総論」講師、2009年6月26日
京都市大塚児童館(山科区)「クリスマスお楽しみプログラム」企画立案・実践 2009年12月18日		
聖母こどもフェスティバル 2010実行委員(稲荷の家ほっこりとの協働)、2010年2月14～15日		
田中真紀	論文	「保育職志望学生のEQテストにみる日常的行動と意識の特性ー新任幼稚園教諭との比較よりー」聖母女学院短期大学研究紀要 第39集 2010年4月、53-61
	社会的活動	マリア祭・聖母講座「サクセスエージング」第3回講演 ストレッチングとレクリエーションダンス 講演講師(聖母女学院短期大学) 2009年6月
稲垣実果	論文	「保育職志望学生のEQテストにみる日常的行動と意識の特性ー新任幼稚園教諭との比較よりー」聖母女学院短期大学研究紀要 第39集 2010年4月、53-61
	学会発表	「思春期・青年期における自己愛的甘えの程度および質についての発達の变化に関する研究」日本パーソナリティ心理学会第18回大会 2009年11月
	その他	「幼児期における社会性の発達～社会性を育む子育てを考える～」 さつき幼稚園保護者家庭教育セミナー(京都市) 講演講師 2009年12月1日
	社会的活動	「子どもの“自分らしさ”の発達」マリア祭聖母講座 「子どもの心」講演講師 2009年6月
山成昭世	論文	「保育士養成における遊具制作の意義についてー31年の取り組みからー」(保育士養成協議会第48回研究大会での発表を、ピアスーパーバイザーにより回答、修正しまとめた) 夙川学院短期大学教育実践紀要第2号【2009】
	学会発表	「保育士養成における遊具制作の意義についてー31年の取り組みからー」全国保育士養成協議会 第48回研究大会 2009年9月 東北福祉大学
		「教員養成校におけるテラコッタ制作についての一考察」関西教育学会 第61回大会 2009年11月 松陰女子大学
	作品発表	第62回 関西新制作展 2009年5月
	その他	京都彫刻家協会作品集 創立40周年記念誌出版 2010年3月

	社会的活動	滋賀県瀬田光線幼稚園教諭夏季研修会講師 「保育現場での粘土造形の展開と応用について」2009年8月 子どものための造形指導 桃山児童館造形指導 2009年6月 深草保育園粘土造形指導 2009年7月、深草保育園粘土造形指導 2010年3月 深草保育園造形指導A 2009年10月、深草保育園造形指導B 2010年11月 京都市大塚児童館「クリスマス会プログラム」において造形指導2009年12月
西田晴美	著書	『Step-up Skills for the TOEIC Test』（共著）朝日出版社 2010年1月
	学会発表	「初級レベル EFL 学習者への WBT 利用シャドーイング練習の影響：学習者達成感と伸長得点の関係」関西英語教育学会 第13回研究大会 2009年6月
		異なる教室環境におけるシャドーイング指導の効果—音声知覚への影響—外国語教育メディア学会 (LET) 第49回全国研究大会 2009年8月
		シャドーイング練習への WBT 利用の影響：EFL 学習者の達成感と伸長得点の関係 第35回全国英語教育学会鳥取大会 2009年8月
安川由貴子	論文	「学校と地域の連携の可能性と課題—『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』の分析を中心に—」『聖母女学院短期大学研究紀要』第39集、2010年4月、pp.102-112。 「教員の生涯学習機会の制度的枠組みについて—文部科学省の方針を中心に—」『人間形成と文化（奈良女子大学文学部教育文化情報学講座年報）』第7号2009、2010年3月、pp.277-289。
	学会発表	「地域と子ども・おとなを結ぶ学習活動—『総合的な学習の時間』の可能性と課題—」日本社会教育学会第56回研究大会、自由研究発表、2009年9月19日、於：大東文化大学

6-1-3 学外からの研究費交付状況

本学教員が研究代表となり、文部科学省研究費の交付を受け、2008年度で終えたもの、引き続いて研究に取り組んでいるもの、および課題は次の通りである。

	2009年度	
	申請	採択
文部科学省研究費	0	1
その他の外部研究資金	0	0

2009年度採択及び継続中のもの

安川由貴子	共同性と個をめぐる生涯学習論的研究 —理論研究とフィールド研究のはざま— 2008年～2009年
-------	--

2009年度 本学特定研究費

生活科学科では、本学の特定研究費により、学科全教員による共同研究「特色ある大学教育支援プログラム」申請課題の推進に関する研究（継続）、を2005年度より行っている。その内容は、入学年次基礎ゼミ（必修科目「生活科学基礎演習」）のためのFD活動に基づき、2005年度に文部科学省の特色GPに応募し、いずれも一次審査を通過した。

児童教育学科では、毎年、大学祭への教科での参加として、地域との連携において、タイトルを「遊びの森」とし、教科目「保育内容・表現A、B」（音楽・図工）のグループ研究として、また学生との共同研究として発表している。

6-2 研究活動の条件整備

6-2-1 研究費・研究旅費

本学では、講師の各教員に個人研究室を用意され、週2日の研究日（うち土曜日1日）が与えられている。

学内に「学術研究委員会」を設け、定期的に研究紀要の発行及び研究発表、学術講演会等を開催するなど、研究公開の機会を設けている。

研究費とその規程

本学では、助手以上の各教員に一般研究費および特定研究費が予算化され、特定研究費については、審査を経ることにより配分され、各専門分野における研究が進められている。

研究費とその規程

研究費規程

	研究費額	備考
教授・准教授・講師	一律 20万円	交通費を含む
助手	一律 10万円	

特定研究費

研究テーマごとに	1件 50万円	グループ研究は人数に関わらない
----------	---------	-----------------

特定研究費規程

- ①学内委員会による審査と報告の義務が定められている。
- ②同一人による3年連続の助成は受けられない。「特定研究費マニュアル」

年度	一般研究費総額	特定研究費総額	件数
2009	2,559,526円	1,156,372円	3

6-2-2 研究成果の公表

紀要・論文集

原則として、年1回研究紀要を発行している。また、年により別冊の発行も行っている。2009年度は第38集として13編の論文を掲載し、研究成果を公表した。

学内講演会

2009年度

- 第一回 9月11日 ① 小寺正洋「英語名詞の加算性オントロジー、概念化、言語」
② 平松紀代子「カナダの子育て支援に学ぶ」

- 第二回 3月12日 ① 草野弘明「特別支援教育いろはカルタ」

専門分野の異なる教員の研究発表は、お互いの刺激となり、好評を得ている。

6-2-3 研究に関わる機器備品・図書

研究に関わる機器、備品、図書などは、一般研究費と教科費及び特定研究費、学外研究費によって各自で整備し、それらの管理は、購入した備品などを登録後、教員各自の研究室で行っている。

6-2-4 研究室・実験室の状況

全教員には、個室(18㎡)が原則として設置されている。担当教科の特性に合わせて研究室の規模と設備は異なり、実験系研究室または助手在籍研究室は、準備室(36㎡)を兼ねて設置されている。

6-2-5 研究日の状況

全専任教員は、原則として1週間に土曜日を含む2日を研究日として与えられており、学外における調査・研究や他の機関での研究、教育指導に当てることも可能としている。現状においては、学生の各種資格、免許取得のための開講時数の増加や一部講義の土曜日開講、各種実習の巡回指導、広報活動、受験生募集のための学校開放(入試説明会)、高等学校への入試説明会等による業務出張などでやむなく研究時間が削減されており、調査・研究等に集中できる日程確保が求められている。

Ⅶ 社会的活動

7-1 社会的活動への取組みについて

7-1-1 社会的活動への取組みの理念や方針

本学は創立以来、建学の精神および教育理念に基づいて社会的活動に従事する、あるいはその心を抱いて自己実現を目指して生き抜く女性の育成を目指している。

その取組みは、教育・研究のみならず、学科目標、授業、行事、研究活動等においても反映されてきている。今後もクリスチャンセンターを始め各学科及び教職員の協力をもって、建学の精神および教育理念を具体化する諸活動が計画されていくことが大切であり、社会的活動もこの延長線上にあると考えている。

生活科学科では、社会的活動は、地域にあって学生が自主的に活動・貢献し、成果を挙げることでありと考えている。そこでは、大学で得られないことを体験し、自身の人間的成長や学習意欲の向上などの成果を挙げることは明らかで、今後も積極的に取り組みたいと考えている。

児童教育学科では、創立の理念と相まって、常に社会情勢に伴って、地域や保護者・卒業生等の要請を具現化するよう努力してきた。つまり、建学の精神に基づく児童教育のあり方を追求する中で、本学科の教育の現状、望ましい児童教育のあるべき姿を、発信するような活動を、その取組みの理念としている。

なお、2008年度国際文化学科の廃学科にともない、国際交流の取組みが大幅に減ったが、今後、建学の精神に述べられている「国際的諸問題に対する連帯性と責任感に目覚め積極的に行動できる、豊かな人格の持ち主を育成する」との理念を具現化するために、またさらに内外に開かれた大学として、この方面での啓発を持続的に行っていくことが期待される。

7-1-2 社会人受け入れ状況

現在も社会人入学は継続的に受け入れ、可能な限りの学習支援、再就職支援を行っている。女性の再学習意欲は、生涯学習の観点からも望ましいところから、社会人入学生については入学時に入学奨学金として100,000円を、授業料については年間240,000円を2009年度より減額することを決定した。

7-1-3 地域社会に向けた公開講座等

過去3ヶ年に短期大学が行った地域に向けた公開講座等の実施状況

主催	種類	実施年月日	講師	来場者数	備考 (主題、他)
クリスチャンセンター	公開シンポジウム 「カトリック大学の使命と若者の未来」	2007.3.3	マタイス・アンセルモ (本学学長) 相良憲昭 (京都ノートルダム女子大学学長) 小田武彦(英知大学学長) 吉沢健吉 (京都新聞報道局次長) 児玉衣子(本学教授)	約120名	京都ノートルダム女子大学カトリック教育センターと共催
	公開講演会	2007.6.28	鎌田論珠(ノートルダム女学院理事長)	約260名	自分にできると信じますか?
	公開講演会	2008.6.26	森田直樹(京都教区 神父)		「私をかえた出会い」
	公開講演会	2009.6.25	マタイス・アンセルモ (本学元学長)		「知識と知恵」

主催	種類	実施年月日	講師	来場者数	備考 (主題、他)
生活科学科	卒業研究展覧会	2007. 3	住居・インテリアコース作品展	約 100 名	
生活科学科	生活科学講座	2007. 8. 23	松井玲子 (本学教授) 井上深幸 (本学准教授)	約 30 名	『新たな生活を創造する家庭科授業』『ユニバーサルデザインの理念のもとに学ぶ』
		2008. 8. 8	船越暉由 (本学教授) 金岡敬子 (本学講師)	約 30 名	『京の町家、今日の町家』『ビジネス実務と情報活用』
		2009. 8. 7	三友雅夫 (本学教授) 横山早美 (本学准教授)	約 30 名	『サクセスフルエイジングとエイジズム』『天然色素による染色—日本の伝統色—』
	生活福祉講演会	2009. 9. 5	木下彩栄 (京都大学医学部教授)	約 100 名	『認知症の病態とケアプラン』

この他、生涯学習授業については特に実施していない。また、正規授業の公開については、2005 年度全学共通科目「伏見・深草学」を大学コンソーシアム京都に提供するとともに公開授業としても開講した。しかし、2007 年度については大学コンソーシアム京都に提供するにとどまった。

地域社会との交流、連携等は学科別活動状況で示す。

生活科学科

- ・ 伏見区まちづくり懇話会
- ・ 京田辺市介護福祉士・ホームヘルパー対象に食の指導
- ・ 近畿農政局主催 (食育)「食と農ふれあいフェスティバル」
- ・ 京都生協 (食育)
- ・ 京都市・京エコロジーセンター主催「リサイクル講座」

児童教育学科

児童教育学科では、昨年に引き続き、「聖母こどもフェスティバル 2009 —みんな集まれ、ライブ in 深草コミュニティ!!—」を 2009 年 2 月 10 日～11 日の 2 日間にわたって開催した。児童教育の可能性を、地域に働きかけることによって具体化していこうとする試行的イベントであるが、聖母学院幼稚園をはじめ、地域の幼稚園、保育園や児童館などの子どもたち、さらには深草学区社会福祉協議会などの協力もあって、近隣のお年寄りなど多数の参加者を得た。塚原成幸氏 (クリニックラウン) による参加体験型の講演のほか、第 31 回卒業作品展、プラスバンド演奏、巨大迷路、プラネタリウム、ミュージカル、人形劇など、卒業間近な 2 回生の学生が、今までの学習の成果を生かして、子どもに向けてさまざまな取り組みを披露した。当日の様子が、KBS でテレビ放映されたこともあって、広範囲からの参加者があり、学生にとっても達成感のあるイベントとなった。地域の子どもたちや高齢者などにたいして、児童教育学科学生の資質を生かしたイベントを継続し発展させていくことは、地域貢献に寄与することになる。それは同時に、学生の意欲ならびに保育・教育スキルの向上にもつながるものである。今後も創意工夫を続けたい。

なお、上記イベントのほか、専攻科学生の社会的実践力向上を目的に、「夏休み子ども造形教室」として、地元児童館の子どもにたいして、造形教室を開催するなどの取り組みをしている。

7-2 学生の社会的活動

7-2-1 学生による地域活動、地域貢献について

生活科学科は、毎年、大学祭の中で学生が地域との交流の場として「健康チェック」「模擬栄養指導」「スカーフ染色」等を実施している。いずれも盛況で、地域での評価も高く、参加者も多い。また、ボランティア活動として2006年度、近畿農政局主催「食と農ふれあいフェスティバル」、京都市・京エコロジーセンター主催「リサイクル講座」、伏見区内幼稚園・保育園への「食育紙芝居」等の活動を行なった。

児童教育学科では、京都市教育委員会、京都府山城教育局、奈良市教育委員会等から「学校支援ボランティア活動」への参加呼びかけがあり、学生課を通じて延べ16名の学生が自主的に参加した。また、京都市児童館学童連盟主催「やんちゃフェスタ」に、学生延べ約90名が参加した。その他、学生は放課後や土・日曜日等に、地域の幼稚園、保育園の課外活動、サークル等の主催する野外活動へのサポーター参加等を行なっている。

Ⅷ 管理運営

8-1 法人組織の管理運営体制について

8-1-1 理事長のリーダーシップ

理事長は、各所属学校を統括する学院長を兼ねており、原則として毎週金曜日に開催する常任理事会（理事長、労務・人事担当理事、教学担当理事、広報担当理事兼学科長、財務担当理事兼法人事務局長の5名で構成）を主宰し、短期大学の運営をはじめ必要な事項を審議し、重要事項については常任理事会の議を経て理事会において最終決定している。決定に際しては、監事の意見についても参考としている。

理事長は適宜、学長等と会談を行うなど、短期大学の意向を聞くとともに、必要に応じて理事会の意向や理事長の方針を伝えている。

8-1-2 理事会の寄附行為上の規定

寄附行為上に、役員の数と理事長選任・解任に関する規定、理事の選任、理事長の職務および代行、理事の代表権の制限、理事会に関する規定、業務の決定の委任、議事録、役員の数、役員の数、役員の数と退任、役員の数について定めている。

表Ⅷ-1 2009年度理事会の開催状況について

回数	開催年月日	主な議題	出席状況 (定数)
1	4月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附行為の変更について ・聖母学院小学校国際コースの学費の値上げについて ・学院小学校体育館耐震工事及びリニューアル工事の業者の選定について ・退職金規程について ・寄附行為の変更について 	10名(10名)
2	5月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附行為の変更について ・遊休資産の売却について 	8名(10名)
3	5月26日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・2008年度事業報告及び決算について ・役員退任慰労金について ・規程・学則の改定について ・総合募金について ・学院幼稚園 園舎耐震補強及び改修工事採択業者について ・私学事業団返済に係る担保抹消と追加担保の設定について 	9名(10名)
4	6月19日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・聖母女学院創立90周年記念事業総合募金趣意書案 ・規程の制定・改定 ・藤森キャンパス整備計画及び工事発注 	9名(10名)
5	7月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師任用規程改定 ・希望退職者制度 ・資産運用 ・評議員の選任 ・正門工事業者選定 ・聖母女学院短期大学学則変更 	10名(10名)
6	9月11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・経理規程と予算規程の一部改正 ・平成21年度私立大学等経常費補助金特別補助「未来経営戦略推進経費」 ・所属長人事 	10名(10名)

7	10月2日(金)	・組織規程改定 ・定時職員任用規程改定	8名(10名)
8	11月6日(金)	・給与規程及び任用規程一部改定案 ・寄附行為の一部改定案	9名(10名)
9	12月18日(金)	・2009年度補正予算案 ・寄附行為の一部改定案 ・短期大学非常勤講師任用規程の改定 ・聖母女学院短期大学学科改組に伴う学則変更 ・組織規程(別表)の改定 ・2010年度学費	9名(10名)
10	1月22日(金)	・2010年度予算編成の展望	9名(10名)
11	2月19日(金)	・地位確認等請求事件の和解条項 ・規程の制定・改定 ・学院長賞 ・学院中高耐震及びリニューアル工事ゼネコン業者候補決定 ・所属長人事 ・寄附行為の変更(2011年校名変更)	9名(10名)
12	3月26日(金)	・2010年度事業計画(案) ・2010年度予算(案) ・学院中高耐震及びリニューアル工事ゼネコン業者決定 ・学則変更 ・2010年度理事・評議員選任 ・理事長職務代行 ・規程の制定・改定	9名(10名)

8-1-3 常任理事会について

常任理事会は、寄附行為実施規程第8条第1項に基づき設置しており、理事会の包括的な委任を受け、法令等により理事会の決定を必要とする事項以外の案件を審議し決定する、経営の要となっている。ただし、理事会を月に1回の原則で開催し、報告と承認を得ている。

8-1-4 監事の業務執行状況について

寄附行為第12条に監事の選任、第13条に監事の職務(私立学校法第37条第3項に規定されている職務)について定めている。

2009年度については、業務監査及び財務監査を実施し、学校法人の業務に関し、不正な行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実がないことを確認。

表Ⅷ-2 2009年度監事の業務執行状況

回数	実施年月日	主な内容	備考
1	4月24日(金)	理事会出席 理事長ヒアリング	
2	5月1日(金)	理事会・評議員会出席 理事長・教学担当理事ヒアリング	
3	5月14日(木)	監査法人監査の視察及びヒアリング	
4	5月18日(月)	決算説明会 監査協議会(2008年度事業報告・決算監査)	
5	5月26日(火)	理事会・評議員会出席 2008年度監査報告	
6	6月19日(金)	理事会出席	
7	7月24日(金)	理事会出席	
8	9月11日(金)	理事会出席	

9	9月15日(火)	監査協議会	
10	10月2日(金)	理事会出席	
11	11月6日(金)	理事会出席 人事・労務担当理事ヒアリング	
12	12月18日(金)	理事会・評議員会出席 教学担当理事ヒアリング	
13	1月22日(金)	理事会出席 財務担当理事ヒアリング	
14	2月19日(金)	理事会出席	
15	3月18日(木)	監査協議会(2010年度事業計画・予算監査) 財務担当理事ヒアリング	
16	3月26日(金)	理事会・評議員会出席 募集担当理事ヒアリング	

8-1-5 評議員会の状況について

寄附行為上に評議員の選任、評議員会に関する規程、議事録、諮問事項、任期、評議員の解任及び退任について定めている。

表Ⅷ-3 2009年度評議員会の開催状況について

回数	開催年月日	主な議題	出席状況 (定数)
1	5月1日(金)	・寄附行為の変更について ・遊休資産の売却について	17名(22名)
2	5月26日(金)	・2008年度事業報告及び決算について ・私学事業団返済に係る担保抹消と追加担保の設定について	20名(22名)
3	12月18日(金)	・2009年度補正予算について	21名(21名)
4	3月26日(金)	・2009年度事業計画案 ・2010年度予算案	16名(21名)

8-1-6 当法人が抱えている問題あるいは課題について

2009年度は、学生在籍数が前年より約100名減となった。人事計画・財政計画・施設設備整備計画のいずれも厳しい財政状況からの一定の回復が前提となり、初めて計画策定が可能との認識である。

8-2 教授会等の運営体制について

8-2-1 学長のリーダーシップ

本学の学長は「学長選考規程」により選考される。学則に定められた学長の職務内容に従ってリーダーシップを発揮して、すべての教育活動を遂行している。学内外状況を取り巻くさまざまな問題について、その一つひとつの状況を判断して対処している。

個人ですべて対応できない現実と自分の限界を意識しているので、各学科長と部長の知識と力と経験を借りるべく、部科長会を原則月1回開催し、教授会を中心に教育と研究にかかわる事項をはじめ、すべての教育活動が組織的かつ公平で円満に決定遂行できるように努力している。

なお、2010年3月26日常任理事会において短期大学副学長設置が決定され、山田幸子教授が任命され、2010年度より、学長・副学長制を敷くことになった。

8-2-2 教授会運営

教授会は、学則第10章教授会第52条～第56条によって運営されている。学則では、教授会の構成、教授会の開催および成立、教授会の議長および議決、教授会の審議事項等を定めているが、別に詳細な教授会運営規程を定めて運営している。学則上の規程は

次のとおりである。

第 52 条（教授会の構成） 本学に教授会をおく。教授会は、学長、副学長及び専任の教授、准教授、講師をもって構成する。

第 53 条（教授会の開催及び成立） 教授会は定期に開催するほか、学長が必要と認めたとき、並びに構成員の 3 分の 1 以上の要請があつたとき、学長がこれを召集、開催する。

2. 教授会は、別に定める場合のほかは、構成員総数の 3 分 2 以上の出席によって成立する。

第 54 条（教授会の議長及び議決） 教授会の議長は、学長がこれに当たる。学長に支障がある場合は、副学長あるいは学長が指名した教授が議長になる。

2. その議事は別に定める場合のほかは、出席者の過半数をもってこれを決定する。

第 55 条（教授会の審議事項）

- (1) 教育及び研究に関する事項
- (2) 教育課程の編成に関する事項
- (3) 学生の入学、退学、休学、復学、転学等及び単位の修得、課程の修了、卒業の認定に関する事項
- (4) 学生厚生補導及び賞罰に関する事項
- (5) 教員の選考及び審査に関する事項
- (6) 学則、その他重要な学内規程の制定、及び改廃に関する事項
- (7) その他学長が重要と認める事項

第 56 条（その他） 本章に定めるもののほか、教授会に関し必要な事項は、別に定める。

表Ⅷ－4 2009 年度教授会開催状況

通算	定・臨	月	日	曜日	出席	欠席	主 な 議 題
1	臨時	4	1	水	28	1	①非常勤講師の委嘱
2	臨時	4	9	木	28	1	①既習得単位の認定②科目読み替え③科目履修生の受入れ④非常勤講師枠⑤非常勤講師の委嘱⑥時間割変更
3	定例	4	29	木	27	2	①科目等履修の取り下げ②履修期間の変更③既修得単位の認定④時間割の変更⑤国際文化学科の改組改編⑥FD 委員会規程⑦FD 研修会⑧学費等取扱基準⑨前項に伴う学則の変更⑩指定校入試⑪同窓会入試
4	臨時	5	21	木	29	0	①学費等取扱基準②インフルエンザ
5	定例	5	28	木	29	0	①学院中高生の本学食堂利用②新型インフルエンザ休校措置に伴う補講③学籍の異動④補修期間変更⑤既習得単位の認定⑥FD 委員会規程⑦学費等取扱基準⑧認定こども園構想
6	定例	6	25	木	29	0	①学籍の異動②既習得単位の認定③非常勤講師委嘱④時間割変更⑤危機管理委員会の新設⑥学費等取扱基準⑦学則変更⑧大学入試センター試験実施委員会の改訂
7	臨時	7	16	木	27	2	①専攻科内部推薦入試合否判定②指定校の追加
8	定例	7	23	木	29	0	①教育課程の改正②非常勤講師の委嘱③その他（学則の変更ほか）
9	臨時	7	30	木	27	2	①入試判定
10	定例	9	24	木	28	1	①学籍の異動②時間割の変更③科目等履修生の受入れ④単位認定の取消⑤学費納付規程と学則変更⑥専任教員人事⑦AO 入試合否判定

11	臨時	9	28	月	26	3	①学費納付規程と学則変更②非常勤講師枠
12	臨時	10	12	月	24	5	①AO・指定校・ファミリー入試合否判定
13	臨時	10	20	火	26	3	①推薦入試A合否判定
14	定例	10	22	木	28	1	①学籍の異動②非常勤講師枠③非常勤講師委嘱 ④オープンキャンパス日程⑤将来構想委員会
15	臨時	10	29	木	25	4	①補正予算②学籍の異動③将来構想委員会
16	臨時	11	2	月	26	3	①推薦入試B・専攻科A・指定校I期合否判定
17	定例	11	26	木	27	2	①学籍の異動②非常勤講師枠③非常勤講師委嘱 ④放送大学本学認定科目⑤行事予定・授業スケジュール⑥転入学・再入学規程⑦オープンキャンパス日程⑧公的研究費運営管理規程⑨入試日程
18	臨時	12	7	木	29	0	①推薦入試C合否判定②その他（学則変更、生活科学科改組、大学名称変更）
19	臨時	12	10	木	28	1	①大学名称変更
20	定例	12	17	木	29	0	①非常勤講師枠②非常勤講師委嘱③授業スケジュール④入試日程⑤行事予定⑥開講諸行事⑦FD研修会⑧大学名称変更⑨大学名称英語名⑩開講科目⑪教授会運営
21	定例	1	28	木	28	1	①学籍の異動②非常勤講師枠③非常勤講師委嘱 ④行事予定⑤開講諸行事⑥児童教育学科人事⑦専攻科改組⑧2011年度入試基本方針⑨科学研究費補助金取扱基準
22	臨時	2	8	月	26	3	①一般入試A合否判定②その他
23	臨時	2	15	月	27	2	①社会人IV期合否判定②専攻科推薦II期合否判定
24	臨時	2	23	火	29	0	①卒業判定
25	定例	2	25	木	28	1	①学籍の異動②非常勤講師枠③非常勤講師委嘱 ④生活科学科名称変更⑤年間行事予定⑥開講諸行事⑦卒業式役割分担⑧2010年度予算⑨教員人事⑩図書館長、広報部長の選出
26	臨時	3	4	木	27	2	①一般入試B合否判定②学則変更
27	臨時	3	11	水	27	2	①非常勤講師枠②時間割③学則変更④その他（京都橘大学単位互換）
28	臨時	3	18	木	28	1	①センター試験利用入試判定②非常勤講師の委嘱 ③教育嘱託の委嘱
29	臨時	3	24	水	28	1	①自己推薦・社会人入試判定②専攻科入試C入試判定
30	定時	3	25	木	29	(2)	①学籍の異動②時間割③2010年度学則変更④ 2011年度学則変更⑤非常勤講師枠⑥非常勤講師委嘱⑦入学式役割分担⑧行事予定⑨各種委員会 ⑩2010年度予算⑪指定校⑫将来構想委員会⑬昇格人事
31	臨時	3	30①	水	21	6	①副学長設置②2010年度予算
32	臨時	3	30②	水	21	6	①広報部長選出

8-2-3 委員会の設置

本学委員会は、「聖母女学院短期大学運営組織要項」に基づいて、常置委員会と特別委員会を設置している。

〈常置委員会〉

根拠規程はすべて「聖母女学院短期大学運営組織要項」「常置委員会通則」。委員長については「学科長・館長・部長選考規程」による館長・部長が兼任できる。主な業務は「常置委員会通則」別表記載。

委員会名	構成メンバー	内容	2009年度開催回数
クリスチャンセンター委員会	センター長（現在は学長兼任）、委員長、聖歌隊指揮者、学科毎に選出された委員、必要に応じセンター長から推薦された委員、事務1名	建学の精神を学内に発信し、浸透させるためのキリスト教的環境の整備に関することである。	12
学生委員会	委員長、学科毎に選出された教員、事務1名	学生に関わる行事、学友会、学生交流を目的とするアッセンブリー・アワーの企画・運営、奨学金、学外団体からのボランティア参加の紹介等、学生生活に関することである。	11
キャリアセンター委員会	委員長（学生部長が兼任できる）、学科毎に選出された委員、事務1名	学生の進路状況把握、進路ガイダンスの検討、卒業後の進路全般に関する把握等である。	11
教務委員会	委員長、学科毎に選ばれた委員、事務1名	教育課程の編成、履修指導、卒業、学籍等についての審議、教授会提案、学生へのガイダンス等である。	22
図書委員会	委員長、学科毎に選出された委員、事務1名	図書購入・廃棄等図書・視聴覚教材の選定、図書館催事および図書館独自の刊行物等の検討・決定、予算の検討・決定、図書館施設の機器維持・改修等に関する事項の検討・決定等、図書館の管理運営全般に関する事項の検討および決定である。	13
広報委員会	委員長、学科毎に選出された委員、委員長が必要と認めた入試広報センター事務職員	広報の年間計画、広報活動のために必要な刊行物の作成、オープンキャンパスの企画運営、高校訪問、進学説明会、ホームページの管理運営、広報予算の作成等である。これらは担当者が原案を作成、委員会で審議・検討し決定している。	14

〈特別委員会〉

「聖母女学院短期大学運営組織要項」に基づく以下の12特別委員会は委員会毎の規程に従って運営されている。

委員会名	構成メンバー	内容	2009年度開催回数
情報処理教育センター	学科毎に1名以上選出された専門委員および事務職員	根拠規程「情報処理教育センター規程」。主な業務は本学の情報処理施設を保守・管理し、教育への円滑な利用を促進することである。	0
諸規程作成委員会	委員会は学科毎に選出された各若干名の委員から構成	根拠規程「諸規定作成委員会規程」。主な業務は教授会から委託された規程案を作成し、教授会に提出することである。	1
学術研究委員会	学科毎に若干名選出された委員から構成	根拠規程「学術委員会規程」。主な業務は本学研究紀要の編集・発刊、学術研究に関することがらの審議である。	11
予算委員会	学長、学科長、図書館長、クリスチャンセンター長、学生、教務、広報各部長、事務長	根拠規程「予算委員会規程」。主な業務は、短期大学教育研究関係予算案の編成、予算の執行状況に関する経過と執行結果の確認、予算に関するその他の事項の審議である。	5

入試対策委員会	学長、学科長、学生部長、教務部長、広報部長からなり必要に応じて事務長が加わる。	根拠規程「入試対策委員会規程」。主な業務は入学者選抜に関する企画・立案とその実施に関する基本的事項の審議である。2006年度から大学センター入試関連事項が加わった。	6
セクシャルハラスメント防止委員会	学長、学科長、学生部長、学長指名による教職員若干名、事務長、総務課長からなる。	根拠規程「セクシャル・ハラスメント防止委員会規程」。主な業務はセクシャル・ハラスメントに関する相談に対する調査及び対応、相談窓口への指示、防止に関する情報収集、研修及び啓発活動の促進、相談窓口における相談状況の把握等の審議である。	0
自己点検・評価委員会	学長、学科長、図書館長、クリスチャンセンター長、学生部長、教務部長、広報部長、学科毎に選出された2年任期の委員各2名、事務長からなる。	根拠規程「聖母女学院短期大学自己点検・評価委員会規程」。主な業務は本学教育・研究・経理・職務等全般の活動に涉り、その点検および評価を行うために自己点検・評価項目の設定、実施計画の策定、自己点検・評価の分析等を行い、報告書を年度毎に作成する。	8
外部評価委員会	学長、学科長、図書館長、クリスチャンセンター長、学生部長、教務部長、広報部長、事務長	根拠規程「外部評価委員会規程」。主な業務は相互評価を含め外部から評価を受ける際の自己点検・評価に準じる諸事項の検討、審議を行う。	7
国際交流委員会	学長、学科長、教務部長、国際文化学科専任教員全員	委員会規程を設けていない。主な業務は本学における国際交流の質の充実を図ることである。	0
人権委員会	学長を委員長とし、学科長、図書館長、クリスチャンセンター長、学生部長、教務部長、広報部長、事務長および学科毎に選出された若干名の委員からなる。	根拠規程「人権問題委員会規程」。主な業務は部落問題、民族問題、人権問題、障害児者問題、女性問題などの人権にかかわる諸差別について研究・調査し、基本的人権擁護のための教育・研究の向上にかかわる事項を審議することである。	0
留学生委員会	学長、学科毎に選出された若干名の委員からなる。	根拠規程は設けていない。留学生の円滑な学生生活のために学業面および生活面での諸問題に関する検討、相談、サポートである。当初は国外で現地募集を行ったので日本語能力の低い留学生がおり委員会は積極的に役割を果たしていたが最近是国内募集に限っているため、委員会は積極的な活動を行っていない。	0
トロワリス編集委員会	学科毎に選出された6名	根拠規程「トロワリス編集委員会規程」。主な業務は本学機関紙「トロワリス」の編集・発行に関することである。発刊を含め休止中である。	0

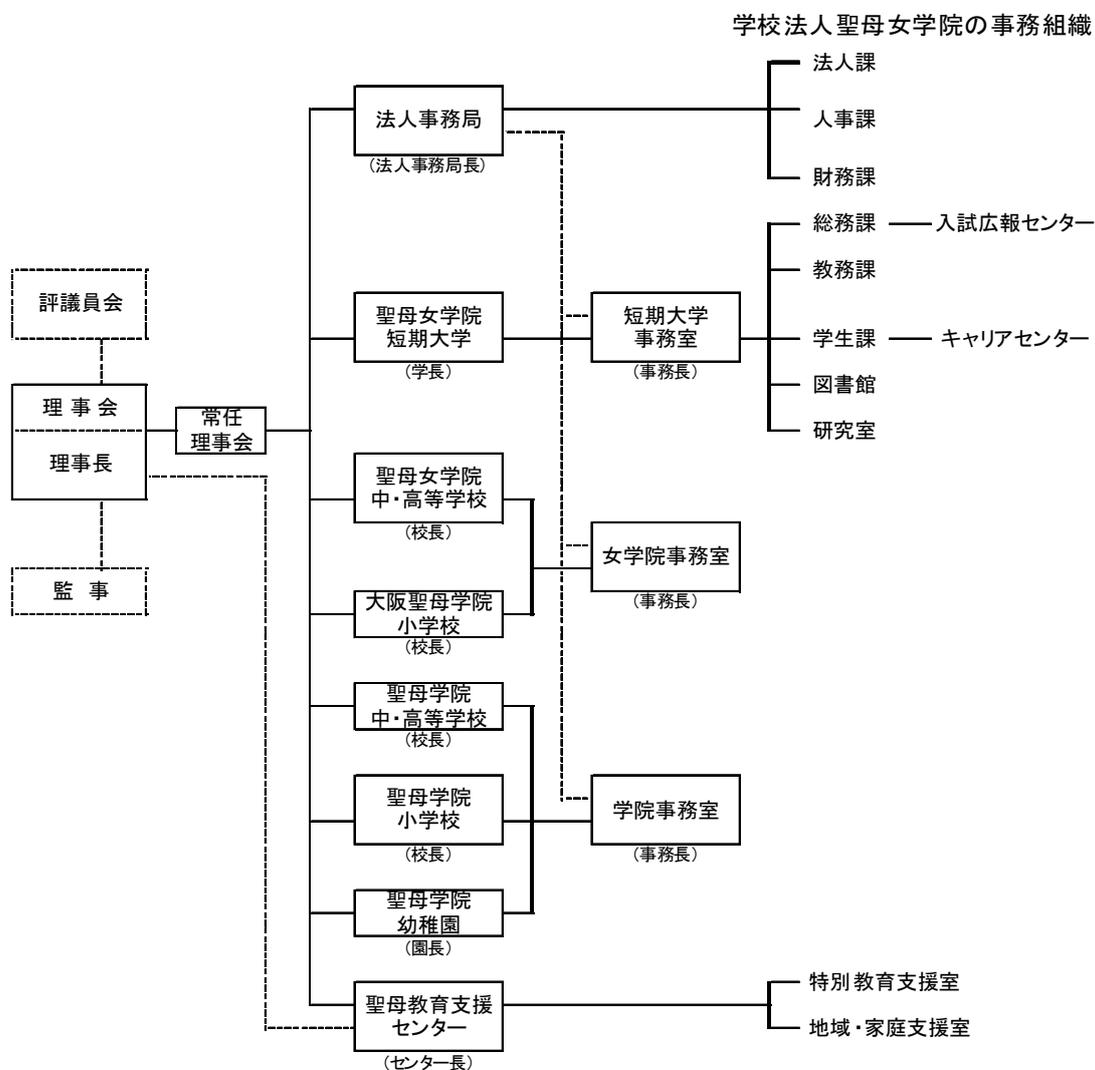
8-2-4 運営全般について抱えている問題あるいは課題

短期大学を取り巻く状況が極めて厳しくなる中で、学内業務は繁多を極め、教職員共々余裕のない中での仕事となってきている。そのような状況下で、学生のみならず教職員にとっても、本学の精神でもある一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し合うために、愛を持った人間環境を醸成し合えるさまざまな努力を払っているところである。仕事量の増加が時間的余裕を奪い、精神的余裕までも奪ってしまうこともある。業務量が増加になれば、研究時間を奪い、学生への良質な教育が損なわれる惧れなしとしない。学長を中心に全教職員が、高等教育機関としての教育内容の質の向上と大学運営の改善のため、さらなる努力を傾注すべきものとする。

8-3 事務組織について

8-3-1 事務組織

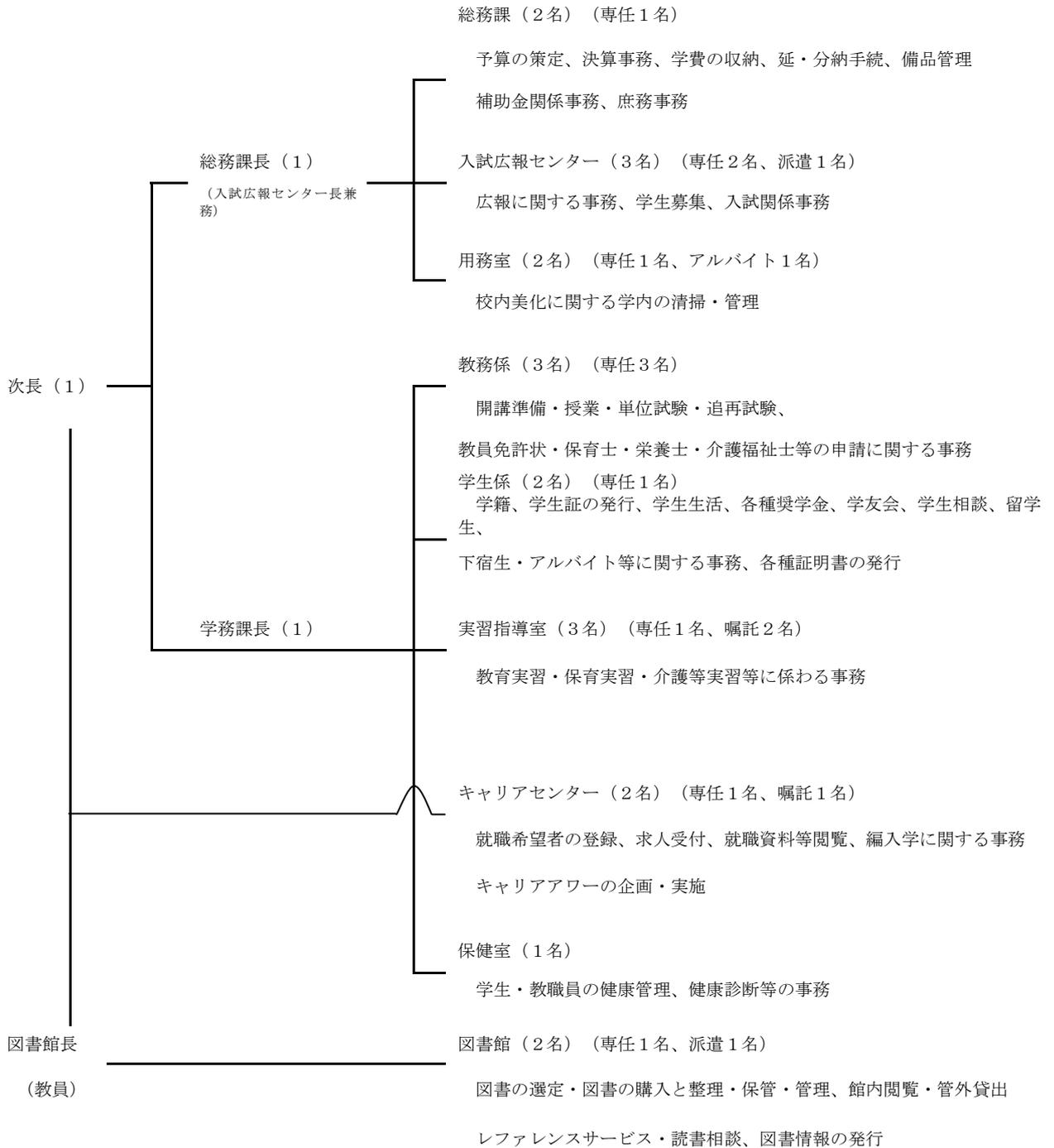
本学が属する学校法人聖母女学院全体の事務組織は、学院全体の組織を明確に定め、その管理運営の適正を期することを目的としている「学校法人聖母女学院組織規程」において、次のように組織図を定めている。



<短期大学事務組織>

短期大学の事務部門の組織および人員と主な業務内容は次のとおりである。

表Ⅷ－6 短期大学事務組織および業務



8-3-2 事務職員の任用

事務職員の任用については、「学校法人聖母女学院組織規程」に則り、適切に行われている。事務長については、所属長の推薦により理事会にて審議され理事長が命じ、各課長については、事務職員の内から理事長が命じ、事務職員についても理事長が命じ任用している。

8-3-3 事務組織諸規程

事務組織に関連して整備している規程などは、次のとおりである。

- a) 学校法人聖母女学院組織規程
- b) 学校法人聖母女学院文書取扱規程
- c) 学校法人聖母女学院文書保存規程
- d) 学校法人聖母女学院公印取扱規程
- e) 聖母女学院短期大学諸規程
- f) 個人情報保護に関する基本方針

これらの規程に基づいて、事務長は、法人事務局長の指導を受け、法人事務局と連携をとりながら学長の補佐をはじめとして、事務全般の円滑な遂行、事務職員を指揮監督、事務室の方針など、各部門で決定・承認された計画に従いその職務を遂行している。

8-3-4 事務処理状況、情報システムの安全対策、防災対策

① 決裁処理の概要と流れ

日常の一般的な事務決済処理については、各担当部署より文書で提出され、関連課長、事務長を経て学長の決裁を受けて法人事務局へ提出している。また、各科からの決裁文書や支出申請については、担当者、担当教員（部科長）、担当課長、事務長、学長の順に決裁される。なお、支払額が100万円を超えるものについては、法人事務局の稟議決裁を受けている。

② 公印や重要書類(学籍簿等)の管理

「文書取扱規程」「個人情報保護に関する規程」などに基づいて、各所属において適性に保管、管理している。

なお、学籍簿等重要書類は、事務室耐火金庫四基に施錠保管している。

③ 防災対策

校舎における防火扉・煙感知器・誘導灯の設置、避難誘導のための避難階段の設置、3階・4階教室からの避難器具の設置、各階の消火器と消化栓設備、非常放送スピーカーなど、防災設備は完備している。地区消防署の立入り検査と防火管理業者による設備点検を毎年実施している。学生を対象とした避難訓練等をも実施している。なお、事務室、学長室等にはセコムの機械警備装置を導入しており、また、7時～9時、18時～21時（土曜日は7時～9時、15時～18時）の間、有人警備を導入して、万全を期している。

④ 情報システムの安全対策

本学の学内ネットワークは、1996年9月の導入以降、短期大学内で管理・運営を行ってきたが、2005年5月に学校法人聖母女学院の全所属（幼・小・中高・短大）を統合する単一ドメイン環境（以下「SEIBO_NET」という）に移行された。移行後の管理・運営は学校法人事務局で行っている。また、各々のセグメントにおいては、利用目的に応じたセキュリティ・ポリシーの下できめ細かなアクセス権が設定されており、厳重なセキュリティ対策が施されている。なお、こうしたシステム環境上の安全対策に加えて、人的環境における情報倫理や教育に努めている。

8-3-5 事務職員に対する学生からの評価

学生から、より信頼され支持される事務職員であろうという認識をもって、日々業務に当たっている。具体的には、「V 学生支援」に記述しているが、その結果を検証するために、2007年3月、2008年3月、2009年3月卒業生全員を対象とした「学生満足度アンケート」のタイトルのもとに、事務部門（事務室、キャリアセンター、実習相談室、保健室、図書館）と教育部門（教員、授業、カリキュラムについて）について、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の項目でアンケート評価を受けた。本アンケートの結果は3回とも、事務職員全体で「満足」「やや満足」を合わせるとそれぞれ、53%、60%、61%の学生が満足、反面「やや不満」「不満」を合わせると、それぞれ6%、5%、4%の学生が不満との評価をしている。また、前年度と比較してみると、満足が7%増加、不満が1%低下しており、良好な評価を得ている。このアンケート結果を、各事

務職員が認識して、今後それぞれの立場で学生満足度をさらに高める努力をしていきたい。

また、2007年6月、2008年11月に実施した事務室来室者のアンケート結果については、対象者が101人と少ないが、スタッフの対応については、2007年度は「良い」50%、「普通」49%、「悪い」1%、不満があるかどうかについては、「特にない」93%、「ある」5%と良好な評価を得ていた。2008年度では、「良い」70%、「普通」29%、「その他」1%と対応については大幅に向上している。なお、不満があるかどうかについては、「特にない」87%、「ある」12%と少し悪化しているが相対的には満足している。今後も毎年アンケートを継続するが、本学がモットーとして推進している「一人ひとりを大切に」を事務職員が率先して実行していき、さらに、日常業務の見直しや事務の改善、学生対応の改善を行って学生の満足度を向上させていきたい。

事務職員に対する教員によるアンケート評価等は実施していない。しかし、業務は日常的かつ全面的に事務職員と教員との連携により成り立っており、事務職員に対する教員の支持と信頼は厚い。

8-3-6 事務職員におけるSD活動など

学内においては、法人事務局が実施する「新任教職員研修会」「事務職員研修会」「管理職研修会」「職員マナー研修会」を行なっている。学外においては、主に大学コンソーシアム京都主催の「CS(顧客満足度)研修」「カウンセリングマインド研修」などに参加し、朝礼などで発表し共有化を図っている。

また、2008年度の改組・改編時に事務組織の改組を図るべく、2007年4月より各部門の代表者による、事務担当者改組準備委員会を立ち上げ、業務の見直し、アンケートの実施、月2回程度の会議を経て改組提案がなされ、事務管理職による検討の結果、「副手規程」の改正を行い、2008年度から、事務職員4名(事務嘱託職員1名、パート事務職員1名、派遣職員2名)を減少させた。今後も業務の見直し、事務処理の改善等を積極的に推進していきたい。

8-3-7 事務組織が抱えている問題あるいは課題

① 事務室について

2009年4月から、事務長、教務課長、総務課長兼広報センター長と事務室の主要責任者が前任者の退職によって新任管理職が配置された。必然的に課員のレベルアップが要求された。今後は更に、短期大学のみならず法人全体のローテーション人事交流を行い、スキルアップを図りたい。

② 副手について

授業のIT化など時代の変化と共に、副手制度そのものの見直しが必要となってきた。

8-4 人事管理

8-4-1 教職員の就業に関する問題あるいは課題

事務職員については、通常業務と募集対策業務が重なり、休日出勤が増えてきており、2006年度から年間変型労働時間制を導入している。これは、年間を通して事業者がそれぞれの職員の所定休日を定めるもので、これに基づき土曜日の午前中、計6~8日間出勤日を設定するものである。また、振替休日制度も活用している。これからも業務の共有を推進し、助け合いができる組織づくりに努める。

8-4-2 法人と短期大学教職員の連携

理事長は短期大学の主体性を尊重し、その運営も多くの部分において、短期大学に委ねている。短期大学の学長は理事を、学科長のうち1名が常任理事を兼務しているので、理事長の意向を直接、教授会や学科会議などを通じて伝えることができ、さまざまな情報をお互いに共有できていると考える。しかし、年々、短期大学を取り巻く環境は厳しくなる状況の中で、教職員の危機意識が欠如しているように感じる。学生確保が難しく

なる中で、教職員一人ひとりが短期大学の維持継続を目指して、さまざまな提案を出し合い、理事会とともにこの難局を乗り越えていかなければならないと考えている。

学長は理事を兼務していることもあって、理事長や理事会の意向を短期大学の運営に反映しており、また短期大学の重要事項は教授会にて審議された後、常任理事会や理事会に審議を依頼し決裁を得ている。したがって、理事会と短期大学は常時連携しており、現在のところ運営に支障はない。

8-4-3 教員と事務職員の連携

生活科学科長

毎月開催する学科会議には、事務職員1名が出席し情報交換をして、意思の疎通を図ると共に、各部署における事務職員との関係も教員が事務室に足を運び、業務運営が円滑に進むよう努めている。

児童教育学科長

児童教育学科では学科の性格上、学生に対し純粋に事務的な業務のみならず、教育的な指導、配慮が必要な場合がある。例えば、「実習指導」における学生の言動に対して、即、その場で指摘し注意を促すことが必要な現状において、事務職員の学生へのかかわりは極めて重要である。この点については、教員の事務職への依存度の高さについて、反省しなければならない点があると思われる。

事務長

校務の円滑な推進をはかるため、部制を設けて教員と事務職員が協力し合って主要な校務を担当しており、それぞれの立場で知識・技術を合わせて活用し、校務の処理推進を図るため、教員と事務職員が一体となって校務に当たっている。

教授会には、各課長がオブザーバーとして出席をし、教授会決定事項等を週1回の朝礼にて事務職員全員に徹底する等で連携強化しており、教員と事務職員の相互協力・連携をより強固なものにしている。

8-4-4 教職員の健康管理、就業環境、就業時間など

教職員の健康管理については、年1回健康診断を行っている。就業環境は、最寄り駅から徒歩5分と通勤の便はよく、また緑に囲まれた静かな教育環境、就業環境といえる。

本館学舎は、建築後30年を経過しており、冷暖房設備、教育用施設などの老朽化に伴うメンテナンスが早急に必要であったが、2006年度には、4階の冷暖房設備の改修、教室の教育設備についてもほぼ整備が完了し、ピアノの更新や一部教室の教育設備については、2007年度初期に整備完了した。2008年度には、冷暖房設備をより効率的に運用するため、本館3階についてもマルチ方式を導入した。

就業時間については、土曜日の授業、行事(入試、オープンキャンパスなど)のため、2006年度より、事務職員については「1年単位の変形労働時間制」を採用し、事務職員全員が平等な就業時間になるよう配慮している。

専任教員の持ちコマ数は、前後期平均して週6コマ(1コマ=90分)までを原則とする申し合わせ事項があるが(1981年9月24日教授会承認)、現状ではこの原則通りに実施される状況になく、担当領域によっては原則6コマを大幅に上回る持ちコマ数を負担する教員の増加が顕著である。教育内容の充実のためにも、教務委員会あるいは部科長会議等で今後十分検討する必要がある。

8-5 管理運営の特記事項

2005年度から12月末に、事務職員全員(課長以下でアルバイトも含む)に自らの職務について「来年度の目標・抱負」を提出させ、事務長が面接し学長に提出している。

事務長は、面接などを通じて職員の意欲、能力、課題などを把握し、気持ちよく働ける職場づくりに役立たせている。近い将来には目標管理を導入し、職員の能力向上と他部門への人事異動によって職員の育成を図りたい。

IX 財務

9-1 財務運営について

9-1-1 中・長期の財務計画

年々厳しくなる財務状況にあつて、財政再建に向けた取り組みを強化している。さらに、財務担当理事のリーダーシップのもと、法人全体の財政再建に向けた計画を立案している。

9-1-2 学校法人および短期大学の毎年度の事業計画および予算決定に至る過程

年度予算作成に当っては、常任理事会が立案する「年度予算編成方針」により編成している。10月中旬に各所属から次年度の事業計画書を法人へ提出後、財務担当・教学担当・人事担当の常任理事が中心となって所属長からヒアリングや実地検証を行う。その後、予算や全体の実施計画の調整を行ったうえで予算を決定している。決定された予算の内、所属を跨る予算については、法人部門で資金の集中管理を行い、支払いの段階で各部門の勘定に計上する。

短期大学では、事業計画以外の予算について、毎年11月中旬に各部署から「予算要求明細書」の提出を求め、総務課で取り纏め、法人に提出している。法人にて審議、査定を経て1月に査定額が通知されるが、その後、復活折衝を行い、2月中旬に予算原案が確定する。その結果を常任理事会、評議員会、理事会の承認を得て当初予算の決定に至る。

9-1-3 予算の各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務

毎年3月に開催する理事会において、次年度予算案の審議・承認をしている。理事会において予算案が承認され次第、速やかに「財務担当理事通達」によって短期大学宛伝達される。伝達された通達に基づいて、短期大学総務課にて、前年11月に各部署から提出された「予算要求明細書」に査定額を記載し担当者へ配布を行っている。

予算の執行状況については、各部署から「予算執行依頼書（経費支払依頼書）」で処理するが、予算執行依頼書は伺いを兼ねており、執行前の段階から学長の承認を必要としている。1件が10万円以上は物品調達規程に基づき、見積書の添付や3社以上の見積、100万円超過については、財務担当理事の承認が必要である。

なお整備している規程は、「経理規程」「予算規程」「物件管理規程」「物件調達規程」「資産運用管理規程」「稟議規程」である。

短期大学では、現金を管理しておらず、全ての出納を法人にて行っている。出金については、「予算執行依頼書（経費支払依頼書）」以外に「仮払金申請書・精算書」「謝金支払申請書」を使用している。立替金は「予算執行依頼書（経費支払依頼書）」を使用し、毎月月末に法人にて振込精算を行っている。

9-1-4 公認会計士監査状況の概要、監事との連携

毎会計年度の計算書類、財産目録等は、学校法人会計基準に則り行っている。毎年、監査法人の監査は10月・3月に年度の中間監査が数日間行われ、4月には現預金残高の実査が行われ、5月には決算監査が2週間程度実施される。監査法人の監査報告は、監事も同席し監査終了後に実施されている。

監事による監査は、事業・財務の分野はもとより、各担当理事に対する聞き取り調査や固定資産の管理状況など多岐にわたっている。監査報告は詳細に記録され、理事会・常任理事会・評議員会に報告している。

2009年度 公認会計士監査状況

回数	実施年月日	主な監査内容
1	2009年 10月13日(火)～15日(木)	期中(内部統制)監査 ・会計帳票の精査 ・理事会等議事録の調査
2	2010年 2月26日(金) 3月1日(月)～4日(木)	下期期中監査 ・学生納付金管理業務について ・固定資産管理業務について ・人件費管理業務について
3	4月1日(木)	現預金残高の実査
4	4月6日(火)～8日(木) 12日(月)～13日(火)	期末前倒し監査 ・固定資産について ・有価証券について ・人件費について
5	5月10日(月)～17日(土)	決算監査
6	5月20日(木)	2009年度決算報告

*公認会計士から受けた重要な指摘事項
特になし

9-1-5 財務情報の公開

予算、決算等は、学外・学内ホームページに掲載している。ホームページには、主要な会計比率まで記載し解説も行っている。また、閲覧の要請に対しては積極的に応えるべく財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、および監査報告書を備え付け、閲覧または写しの交付を行っている。

9-1-6 資産および資金の管理と運用

資金管理は、法人事務局で全体を管理している。資金の運用は、ここ数年は厳しい財政状況であるが、運用に当たっては運用管理規程に基づき実施している。

9-2 財務体質の健全性と教育研究経費について

9-2-1 過去3ヶ年の資金収支計算書・消費収支計算書、2009年度貸借対照表

過去3ヶ年にわたり資金収支は、学校法人、短期大学とも少子化の影響による学生数の減少に伴い、学生生徒納付金収入は減少の傾向となっている。収支の均衡を確実に図らなければならない。

また、消費収支については、2008年度までは支出超過の状態であったが、2009年度は人員の削減による経費抑制を図り、若干ではあるが収入超過を達成し、収支均衡することが出来た。

9-2-2 財務体質と定員充足率

財務体質と定員充足率は密接な関係にあり比例しているが、2009年度の財務改革により黒字化した。過去3ヶ年の短期大学の定員充足率は下記の通りで、残念ながら定員割れの状況が続いて

いる。

表IX-2 定員充足率 (各年度5月1日現在)

充足率		2007年度	2008年度	2009年度
	学則定員	780	730	640
	在籍数	727	641	581
	充足率	93.2%	87.8%	90.8%

9-2-3 短期大学の過去3ヶ年の教育研究費

教育研究経費比率 (2007年度～2009年度) (単位 千円)

	2007年度	2008年度	2009年度
教育研究経費支出 (a)	243,591	211,644	211,590
帰属収入 (b)	909,422	797,162	797,775
教育研究経費比率 (a) / (b)	26.8%	26.5%	26.5%

9-3 施設設備の管理について

9-3-1 固定資産および物品の管理

9-3-2 災害対策等危機管理

①火災等の災害対策

Ⅷ-3-4に記述のとおり、防災について体制を整えて万全を期している。地震対策については、2005年度に耐震診断を実施済であるが、耐震補強工事については2009年度幼稚園・小学校の耐震工事实施を皮切りに、法人全体で五ヵ年計画を立案し着実に実施している。

②防犯対策

Ⅷ-3-4に記述のとおり、警備会社の機械警備装置を導入しており、夜間の警備員による巡回等万全を期している。

③学生、教職員の避難訓練等の対策

Ⅷ-3-4に記述のとおり、火災等災害対策については、年に1回、アッセンブリー・アワーの時間に外部講師(消防署)を招いて講演、講習会などを開催し、学生、教職員へ徹底しており、定期的に避難訓練などを実施している。

④コンピュータのセキュリティ対策

Ⅷ-3-4に記述のとおり、本学では法人事務局が中心となって、「人的環境におけるセキュリティレベルの向上」について、情報倫理やネチケット教育に努めている。

⑤省エネ及び地球環境保全対策

2005年度から、省エネ対策として電力料金の節減に努めており、具体的には空調及び照明、コンピュータの電源をこまめに切る、補助暖房機などの電源などもこまめに切ることを実行している。

X 改革・改善

10-1 自己点検・評価について

10-1-1 自己点検・評価の組織、規程について

2006年度より、自己点検・評価を毎年実施し、全学、学科、各分掌別に評価項目を定め、年度末に点検報告をしてまとめ、次年度の改善目標として生かしている。これにより組織としての現状把握、課題等がより鮮明になり、またそれを短期大学運営により速やかに反映できるようになった。組織について、自己点検・評価委員会は特別委員会の一つとして設けられており、「聖母女学院短期大学規程」の中の「委員会規程」に規定され、それに基づいて運営されている。今後、自己点検・評価をどのように実施するかについては、単年毎に全評価項目を点検・評価するという現行方針を継続する予定である。

10-1-2 報告書の公表

本学の自己点検・評価は、当初3年毎の実施であったので、過去の変化を確認する性格が強かった。2005年度に、第三者評価実施開始を控えて2003～2005年の3ヶ年を纏めるのを最後に、2006年度から単年度評価に切り替えることにした。

配布先については、学院関係として本学教職員全員、理事長および理事全員、法人事務局、幼稚園1園、小学校2校、中学高校2校、修道院、名誉教授に配布している。また、外部では官公庁、他短期大学、短期大学基準協会、京都ノートルダム女子大学に送付している。

10-2 自己点検・評価の教職員の関与と活用について

自己点検・評価に関わった教職員は、学長、各部科長、財務担当者である。記述の基になるデータについては、各分掌であり、各分掌は教職員によって構成されていることから、全学的な協力を得ることになる。しかし、執筆者と執筆しない者とでは関わる程度に差があり、担当箇所を知るだけで全体を読まずに済ませることも生じ、自己点検・評価を行いながら十分に機能していない場合があり、自己点検・評価報告書の組織的活用のしくみを構築することが緊急の課題である。

2006年度には2005年度の課題意識を踏まえて、事務系においては入試広報センターの新設、教室設備の抜本的改良等が行われた。また、学科においては、2006年末の教授会において2008年度から3学科を2学科に統合する決定をしたことを受けて、自己点検・評価における各学科の評価点および課題点が再確認され、学科新構成員間の意思の疎通、学科内新コースの設置に伴う新教育課程の編成、学科および専攻科新教育課程編成等の基礎確認事項にされた。また、自己点検・評価の一環として行われた教務委員会による複数教員担当教科における成績評価分析は、該当教科教員間の意思疎通に益した。

今後の自己点検・評価結果の活用については、当事者による最も具体的な点検・評価である利点を自覚して、細かな課題であっても積極的に取り上げて改良を加えることにより、当事者意識、すなわち自分たちがつくっていく短期大学という連帯と将来を構想する意識、仕事への意欲等をより活性化することへつなぎたい。

10-3 相互評価

10-3-1 相互評価の概要、評価結果の活用

2005年度、帯広大谷短期大学との間で相互評価を行った。両校とも委員は学長以下9名。夏および秋に相互訪問各1回、その後複数回の質疑応答のやりとりを経て2006年に『帯広大谷短期大学と聖母女学院短期大学との相互評価報告書』にまとめた。

評価結果につき、それまで外部評価経験がなかったことから、今回の経験で一気に相互評価及び自己点検・評価を活用する態勢が整い、入試広報センターの新設、学舎施設の改善等に生かされた。

10-3-2 相互評価のための規定および組織

組織としては、2005年度に自己点検・評価委員会の他に外部評価委員会の設置を教授会で承認した。また、規程についても、2006年4月から施行を認めた。今後、相互評価については第三者評価の中間年度に行うことが望ましいと考えている。

10-4 第三者評価について

学内組織としては、外部評価委員会が存在している。最高責任者である学長は、理事長に協力を要請し、同時に学内においてはALOを任命、教授会の承認を得る。ALOは、第三者評価を受けるために事務長に補助任務に当たってもらう承認を外部評価委員会において得て、それを教授会に報告する。これにより、法人、教員、事務職員の全体で第三者評価に取り組む体制が作られる。第三者評価を受けるための3ヵ年分の「自己点検・評価報告書」作成については、外部評価委員会から各委員会および事務職員へ依頼が出されて作成される。第三者評価受診に関することがらの全教職員への周知については、教員にはALOから教授会で都度進行状況が報告され、また事務職員には事務長から都度依頼、進行状況の報告等が行われている。

10-5 改革・改善に関する特記事項

なし

2009年度 教育課程

資料1

2009年度 全学共通科目 開講科目

科目の種類	授業科目	単位	資格科目													授業形態			教員配置			2009年度履修人員	2009年度開講クラス数	クラス当り履修人員	備考	
			必	選	情報処理士	ビジネス実務士	秘書士	二級建築士・木造建築士	インテリアプランナー	社会福祉士受験基礎資格	介護福祉士	栄養教諭	小学校教諭	幼稚園教諭	保育士	一般講義	講義実技	演習	実験実習	専任	兼任					非常勤
			修	択	士	士	士	資格	資格	資格	資格	資格	資格	資格	資格	資格	資格	資格	資格	資格	資格					資格
	キリスト教学Ⅰ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○			279	7	39.9		
	キリスト教学Ⅱ	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○			258	8	32.3		
	キリスト教史	2												○								—	—	—	本年度不開講	
一般教養科目	人間学	2												○				○				12	1	12.0		
	社会学	2						●						○					○			23	1	23.0		
	こころの科学(基礎)	2						●						○				○				172	2	86.0		
	こころの科学(一般)	2						●						○				○				194	2	97.0		
	物質の科学	2												○					○			18	1	18.0		
	宇宙の歴史	2												○					○			30	1	30.0		
	自然のシステム	2												○					○			43	1	43.0		
	自然環境と人間	2												○					○			33	1	33.0		
	環境学	2												○					○			67	1	67.0		
	文学と女性	2												○					○			18	1	18.0		
	文学と戦争	2												○					○			120	1	120.0		
	音楽(合唱)	2												○					○			31	1	31.0		
	美術史	2					△							○					○			42	1	42.0		
	アジアの社会と文化	2												○					○			60	1	60.0		
	経済学(国内編)	2												○					○			106	1	106.0		
	経済学(国際編)	2												○					○			54	1	54.0		
	くらしと法	2												○					○			160	1	160.0		
	日本国憲法	2							●	●	●	△							○			195	4	48.8		
	国際事情	2		●										○					○			44	1	44.0		
	体育学A	2									△	△	●		○				○			143	4	35.8	児童向け	
	体育学B	2								△				○					○			63	3	21.0	生活向け	
スポーツフィットネス	2								△				○					○			16	1	16.0			
パソコン入門	2	●	△	●					△	●	●	△		○				○			276	8	34.5			
語学教養科目	総合英語AⅠ	1							△	△	△	△		○				○			49	2	24.5			
	総合英語AⅡ	1							△	△	△			○				○			16	2	8.0			
	総合英語BⅠ	1								△	△			○				○			14	1	14.0			
	総合英語BⅡ	1								△	△			○				○			21	1	21.0			
	英語会話Ⅰ	1							△	△	△	△		○				○			100	3	33.3			
	英語会話Ⅱ	1							△	△	△	△		○				○			28	1	28.0			
	フランス語Ⅰ	1							△	△	△	△		○				○			17	1	17.0			
	フランス語Ⅱ	1							△	△	△	△		○				○			7	1	7.0			
	中国語Ⅰ	1							△	△	△	△		○				○			79	3	26.3			
	中国語Ⅱ	1							△	△	△	△		○				○			29	3	9.7			
	日本語会話Ⅰ	1												○							—	—	—	本年度不開講		
	日本語会話Ⅱ	1												○							—	—	—	本年度不開講		
	日本語会話Ⅲ	1												○							—	—	—	本年度不開講		
	日本語会話Ⅳ	1												○							—	—	—	本年度不開講		
日本語表現法Ⅰ	1			●									○					○			22	1	22.0			
日本語表現法Ⅱ	1			●									○					○			7	1	7.0			
テーマ科目	伏見・深草学	2											○					○			—	—	—	本年度不開講		
	特別講義Ⅰ	2												○							—	—	—	本年度不開講		
	特別講義Ⅱ	2												○							—	—	—	本年度不開講		

2009年度 生活科学科 生活科学専攻 開講科目

科目の種類	授業科目	単位		資格科目							授業形態			教員配置			2009年度の履修人員	2009年度開講クラス数	クラス当り履修人員	備考
		必修	選択	木	金	土	日	月	火	水	一般講義	講義実技	演習	実験実習	専任	兼任				
学科共通科目	生活科学基礎演習Ⅰ	1										○	○				135	10	13.5	
	生活科学基礎演習Ⅱ	1										○	○				133	10	13.3	
	インターンシップⅡ(生活)	2										○	○				2	1	2.0	
	PC文書作成演習Ⅰ(生活)	2										○				○	117	3	39.0	
	PCデータ活用演習Ⅰ(生活)	2										○				○	110	3	36.7	
	PC文書作成演習Ⅱ(生活)	2										○				○	108	3	36.0	
	PCデータ活用演習Ⅱ(生活)	2										○				○	100	3	33.3	
専攻共通科目	生活科学概論	2							●		○		○				67	1	67.0	
	生活科学演習	2							△		○		○		○		57	10	5.7	
	卒業研究	2							△		○		○		○		57	10	5.7	
	色彩論	2							△		○		○		○		18	1	18.0	
	デザイン基礎演習	2									○		○				25	1	25.0	
	人間関係の心理学	2						△	△		○		○				5	1	5.0	
	中国の生活文化	2									○		○				31	1	31.0	
	キャリア・フォーメーション	2									○					○	55	1	55.0	
	くらしの統計	2							△		○		○				30	1	30.0	
	社会福祉概論(生活)	2	●								○		○				11	1	11.0	
	介護に関する知識と方法Ⅰ	2	●								○		○				14	1	14.0	
	介護に関する知識と方法Ⅱ	2	●								○		○		○		9	1	9.0	
	医学一般	2	●								○				○		21	1	21.0	
	介護技術講習	2	●										○		○		5	1	5.0	
	介護実習(施設)	1	●										○	○			5	1	5.0	
	中国語コミュニケーションⅠ(生活)	2									○		○				19	1	19.0	
	中国語コミュニケーションⅡ(生活)	2									○		○				13	1	13.0	
	日本の生活と文化	2									○						—	—	—	本年度不開講
	日本語コミュニケーションⅠ	2										○					—	—	—	本年度不開講
	日本語コミュニケーションⅡ	2										○					—	—	—	本年度不開講
情報ビジネスコース	情報科学(生活)	2							△	△		○	○				53	1	53.0	本年度不開講
	コンピュータ演習Ⅰ	2							△	△	△		○	○			44	1	44.0	本年度不開講
	コンピュータ演習Ⅱ	2							△	△	△		○	○			39	1	39.0	本年度不開講
	コンピュータ演習Ⅲ	2							△				○	○			28	1	28.0	
	簿記演習	2							△	△	△		○			○	63	1	63.0	
	経営学概論	2							△	△	△		○			○	59	1	59.0	
	ビジネス実務論	2							△	△	●		○				26	1	26.0	
	ビジネス実務演習	2							△	●			○	○			22	1	22.0	
	秘書学概論	2								●			○				40	1	40.0	
	秘書実務演習	2								●			○				29	1	29.0	
	マーケティング論(生活)	2							△	△	△		○			○	83	1	83.0	
	プレゼンテーション演習	2							△	△			○	○			28	1	28.0	
	コンピュータ・グラフィックス演習Ⅰ	2							△	△			○			○	39	1	39.0	
京都ブランド	2								△			○			○	47	1	47.0		
服飾アパレルコース	クリエイティブデザイン	2										○				○	9	1	9.0	
	パターンメイキングⅠ	2										○				○	8	1	8.0	
	テキスタイル論・実験Ⅰ	2										○	○				7	1	7.0	
	テキスタイル論・実験Ⅱ	2										○	○				8	1	8.0	
	ファッションビジネス概論	2									○					○	12	1	12.0	
	アパレルマーチャンダイジング演習	2										○				○	11	1	11.0	
	パターンメイキングⅡ	2										○				○	8	1	8.0	
	染色論・実習Ⅰ	2										○			○		7	1	7.0	
	染色論・実習Ⅱ	2										○			○		4	1	4.0	
	パターンメイキングⅢ	2										○				○	9	1	9.0	
	服飾文化論	2										○				○	13	1	13.0	
	繊維製品品質管理論	2										○				○	12	1	12.0	
	被服整理学・実験	2										○	○				4	1	4.0	
染色加工学	2										○				○	12	1	12.0		
アパレル消費科学	2										○				○	16	1	16.0		

2009年度 生活科学科 生活福祉専攻 開講科目

科目の種類	授業科目	単位		資格		授業形態				教員配置			2009年度履修人員	2009年度開講クラス数	クラス当り履修人員	備考
		必修	選択	社	介	一般講義	講義実技	演習	実験実習	専任	兼任	非常勤				
専攻共通科目	生活科学概論(福祉)	2			●	○				○			24	1	24.0	
	キャリア・フォーメーション(福祉)		2			○						○	5	1	5.0	
	音楽表現法Ⅰ		1					○				○	3	1	3.0	
	音楽表現法Ⅱ		1					○				○	4	1	4.0	
	音楽運動療法		2					○				○	8	1	8.0	
	音楽運動療法演習		1					○				○	7	1	7.0	
	ケアマネジメント		2				○			○			12	1	12.0	
	社会保障論Ⅰ		2				○					○	7	1	7.0	
	社会保障論Ⅱ		2				○					○	4	1	4.0	
	公的扶助論		2				○					○	4	1	4.0	
	地域福祉論		2				○			○			4	1	4.0	
	児童福祉論Ⅱ		2				○			○			5	1	5.0	
	生活と福祉		2			●	○			○			37	2	18.5	
	ユニバーサルデザイン論		2				○				○		18	1	18.0	
	健康と生活		2			●	○			○			17	1	17.0	
	障がい者の基礎知識		2			●	○			○			37	1	37.0	
	こころとからだⅠ		2			●	○			○			18	1	18.0	
	こころとからだⅡ		2			●	○				○		17	1	17.0	
	脳とこころ		2			●	○			○			15	1	15.0	
	人間関係の心理学(福祉)		2			●	○			○			16	1	16.0	
	医学一般(福祉)		2	●	●	○						○	23	1	23.0	
	保健医療サービス		2	●	○	○				○			6	1	6.0	
	社会保障論		2	●	●	○				○			20	1	20.0	
	高齢者に対する支援と介護保険制度		2	●	○	○				○			9	1	9.0	
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		2	●	○	○				○			5	1	5.0	
	低所得者に対する支援と生活保護制度		2	●	○	○				○			5	1	5.0	
生活福祉コース	衣生活と福祉	2				○					○	15	1	15.0		
	食生活と福祉	2				○					○	20	1	20.0		
	住生活と福祉	2				○					○	15	1	15.0		
	ユニバーサルデザイン論	2			●	○					○	3	1	3.0		
	ソーシャルワークⅠ	2	●		○						○	6	1	6.0		
	ソーシャルワークⅡ	2	●		○						○	5	1	5.0		
	ソーシャルワークⅢ	2	●		○						○	4	1	4.0		
	ソーシャルワークⅣ	2	●		○						○	5	1	5.0		
	社会福祉援助技術演習Ⅲ	1	●					○		○		5	1	5.0		
	社会福祉援助技術演習Ⅳ	1	●					○		○		5	1	5.0		
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	1	●					○		○		3	1	3.0		
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ	1	●					○		○		3	1	3.0		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	1	●					○		○		3	1	3.0		
	現代社会と福祉	2			●	○				○			7	1		
	相談援助演習Ⅰ	1	●					○		○			7	1		
	相談援助演習Ⅱ	2	●					○		○			5	1		
	相談援助実習指導Ⅰ	1	●					○		○			5	1		
	相談援助実習Ⅰ	2	●						○	○			5	1		
	セラピューティック・レクリエーション	2			●	○						○	20	1		
介護福祉コース	ユニバーサルデザイン演習Ⅰ	2			●			○		○		19	1	19.0		
	ケアの思想と対人援助	2			●	○				○		16	1	16.0		
	人間の尊厳と自立	2			●	○				○		20	1	20.0		
	生活と介護	2			●	○				○		18	1	18.0		
	コミュニティサポートⅠ	2			●	○				○		16	2	8.0		
	ライフサポートスキルⅠ	2			●	○				○		9	1	9.0		
	ライフサポートスキルⅡ	2			●	○				○		16	1	16.0		
	ケアマネジメントⅠ	1			●	○				○		19	1	19.0		
	ライフサポート演習Ⅰ	1			●	○				○		15	1	15.0		
	ライフサポート実習Ⅰ	4			●					○		15	1	15.0		
	介護概論Ⅰ	1			●	○				○		15	1	15.0		
	介護概論Ⅱ	2			●	○				○		1	1	1.0		
	社会福祉援助技術(福祉)	2			●	○				○		1	1	1.0		
	社会福祉援助技術演習	1			●			○		○		5	1	5.0		
	家政学概論Ⅰ	2			●	○				○		8	1	8.0		
	家政学実習Ⅱ	2			●				○	○		15	1	15.0		
	医学一般Ⅲ	2			●	○					○	1	1	1.0		
	精神保健(福祉)	2			●	○					○	15	1	15.0		
	老人・障害者の心理Ⅰ	2			●	○					○	5	1	5.0		
老人・障害者の心理Ⅱ	2			●	○					○	15	1	15.0			
レクリエーション活動援助法Ⅰ	1			●				○			1	1	1.0			

介護福祉コース	介護技術Ⅰ	2		●			○			○		5	1	5.0	
	介護技術Ⅱ	2		●			○			○		1	1	1.0	
	介護技術Ⅲ		2	●			○			○		15	1	15.0	
	形態別介護技術Ⅰ	1		●			○			○		19	1	19.0	
	形態別介護技術Ⅱ	1		●			○			○		5	1	5.0	
	形態別介護技術Ⅲ		1	●			○			○		15	1	15.0	
	形態別介護技術Ⅳ(手話)		1	●			○				○	15	1	15.0	
	形態別介護技術Ⅴ(点訳)		1	●			○				○	15	1	15.0	
	介護実習Ⅱ		4	●					○		○	1	1	1.0	
	介護実習Ⅲ		3	●					○		○	15	1	15.0	
	訪問介護実習		1	●					○		○	15	1	15.0	
	介護実習指導Ⅱ		1	●					○		○	15	1	15.0	
	介護実習指導Ⅲ		1	●					○		○	15	1	15.0	
											●・・・必修科目	社・・・社会福祉士受験基礎資格	1クラス平均	11.4人	
											△・・・選択必修科目	介・・・介護福祉士			

2009年度 生活科学科 食物栄養専攻 開講科目																
科目の種類	授業科目	単位		資格		授業形態			教員配置			2009年度の履修人員	2009年度開講クラス数	クラス当り履修人員	備考	
		必修	選択	栄養士	栄養教諭	一般講義	講義実技	演習	実験実習	専任	兼任					非常勤
	インターンシップⅡ(食栄)		2					○			○		8	1	8.0	
栄養士必修科目	公衆衛生学		2	●	○						○		46	1	46.0	
	社会福祉概論	2		●	○						○		46	1	46.0	
	解剖学		2	●	○							○	46	1	46.0	
	生理学	2		●	○							○	46	1	46.0	
	解剖生理学実験		1	●				○				○	35	1	35.0	
	生化学	2		●	○							○	46	1	46.0	
	生化学実験		1	●				○				○	35	1	35.0	
	病理学		2	●	○							○	35	1	35.0	
	食品学Ⅰ	2		●	○						○		46	1	46.0	
	食品学Ⅱ	2		●	○						○		49	1	49.0	
	食品学実験実習	1		●				○			○		48	1	48.0	
	食品衛生学	2		●	○							○	46	1	46.0	
	食品衛生学実験実習	1		●				○	○				35	1	35.0	
	基礎栄養学	2		●	○						○		52	1	52.0	
	応用栄養学実習		1	●				○	○				34	1	34.0	
	臨床栄養学概論	2		●	○							○	46	1	46.0	
	臨床栄養学概論Ⅰ	1		●	○							○	35	1	35.0	
	臨床栄養学演習		2	●				○				○	35	1	35.0	
	臨床栄養学実習		2	●					○	○			35	1	35.0	
	健康管理概論	2		●	○							○	35	1	35.0	
	栄養指導論Ⅰ	2		●	○						○		50	1	50.0	
	栄養指導論Ⅱ		2	●	○						○		35	1	35.0	
	栄養指導実習		1	●				○	○				35	1	35.0	
	公衆栄養学概論		2	●	○							○	34	1	34.0	
	調理学	2		●	○							○	46	1	46.0	
	調理実習Ⅰ	1		●					○	○			46	1	46.0	
	調理実習Ⅱ	1		●					○	○			46	1	46.0	
調理実習Ⅲ	1		●					○			○	35	1	35.0		
給食計画論	1		●	○					○			50	1	50.0		
給食実務論		1	●	○					○			49	2	24.5		
給食実務実習		3	●					○	○			35	1	35.0		
校外実習		2	●					○	○			36	1	36.0		
校外実習事前事後指導		1			○					○		35	1	35.0		
選択科目	食の基礎化学	2			○						○	46	1	46.0		
	食と微生物	2			○						○	17	1	17.0		
	おしゃれ食事考	2			○						○	8	1	8.0		
	小児保健	2			○						○	21	1	21.0		
	応用栄養学	2			○					○		34	1	34.0		
栄養教諭科目	マーケティング論(食栄)	2					○				○	2	1	2.0		
	学校栄養指導論	2		●	○					○		13	1	13.0		
	教職論(食栄)	2		●	○						○	14	1	14.0		
	教育原理(食栄)	2		●	○					○		14	1	14.0		
	教育心理学(食栄)	2		●	○					○		13	1	13.0		
	教育制度論(食栄)	2		●	○						○	13	1	13.0		
	教育課程論(食栄)	2		●	○						○	13	1	13.0		
	道徳教育・特別活動論	2		●	○					○		8	1	8.0		
	教育方法論(食栄)	2		●	○						○	13	1	13.0		
教育相談	2		●	○						○	9	1	9.0			
総合演習	2		●				○		○		9	3	3.0			
											1クラス平均		32.2人			

◎卒業必修 ●資格必修 △選択必修

2009年度 児童教育学科 開講科目

◎卒業必修 ●資格必修 △選択必修

科目の種類	授業科目	単位		資格科目					授業形態				教員配置			2009年度の履修人員	2009年度開講クラス数	クラス当り履修人員	備考	
		必修	選択	小	幼	保	厚	一般講義	講義実技	演習	実験実習	専任	兼任	非常勤						
教科に関する科目	国語		2	△	△	△		○					○				34	1	34.0	
	社会		2	△				○					○				31	1	31.0	
	算数		2	△	△			○					○				10	1	10.0	
	理科		2	△				○					○				9	1	9.0	
	生活		2	△	△	△		○							○		33	1	33.0	
	家庭		2	△				○							○		34	1	34.0	
	音楽1		1	△	△	●	△				○		○				147	4	36.8	
	音楽2		1	△	△	△					○		○				137	4	34.3	
	図画工作1		1	△	△	△	△				○		○				145	4	36.3	
	図画工作2		1	△	△	●					○		○				26	4	6.5	
	体育1		1	△	△	●	△				○		○				139	4	34.8	
	体育2			△	△	●	△				○		○				138	4	34.5	
教職に関する科目	教職論(児童)		1	●				○					○				35	1	35.0	
	保育者論		2		●			○					○				138	4	34.5	
	教育原理(児童)		2	◎	◎	◎		○					○				138	3	46.0	
	教育史	2		△	△			○					○				105	2	52.5	
	発達心理学	2		◎	◎	◎		○					○				147	2	73.5	
	教育心理学	2		△	△	●		○					○				144	2	72.0	
	教育制度論(児童)	2		●				○					○				35	1	35.0	
	人権教育	2		●	●			○					○				286	4	71.5	
	教育方法学	1		●				○					○				33	1	33.0	
	教育課程論(児童)	1		●				○					○				35	1	35.0	
	国語科教育法	1		△				○					○				31	1	31.0	
	社会科教育法	2		△				○							○		16	1	16.0	
	算数科教育法	2		△				○							○		4	1	4.0	
	理科教育法	2		△				○							○		26	1	26.0	
	生活科教育法	2		△				○							○		32	1	32.0	
	家庭科教育法	2		△				○							○		30	1	30.0	
	音楽科教育法	2		△				○					○				23	1	23.0	
	図工科教育法	2		△				○					○				25	1	25.0	
	体育科教育法	1		△				○					○				36	1	36.0	
	道徳教育の研究	2		●				○					○				80	2	40.0	
	特別活動の指導法	1		●				○					○				34	1	34.0	
	保育内容・方法論	1			●	●	△				○		○				143	4	35.8	
	保育内容・健康1	1			●	●	△				○		○				142	4	35.5	
	保育内容・健康2	1			△	△					○		○				81	2	40.5	
	保育内容・人間関係1	1			●	●	△				○		○				150	4	37.5	
	保育内容・人間関係2	1			●	△					○		○				151	4	37.8	
	保育内容・環境1	1			●	●	△				○		○				145	4	36.3	
	保育内容・環境2	1			●	△					○		○				145	4	36.3	
	保育内容・言葉1	1			●	●	△				○		○				143	4	35.8	
	保育内容・言葉2	2			●	△					○		○				143	4	35.8	
	保育内容・表現A1	2			●	●	△				○		○				139	4	34.8	
	保育内容・表現A2	5			△	△					○	○	○				139	4	34.8	
	保育内容・表現B1	1			●	●	△				○	○	○				139	4	34.8	
	保育内容・表現B2	2			△	△					○		○		○		74	4	18.5	
	生徒指導論	2		●					○				○				43	1	43.0	
	教育相談(児童)	2		●							○				○		35	1	35.0	
	保育相談	2			●	△					○		○				148	4	37.0	
	総合演習(児童)	2		●	●	●					○		○				141	19	7.4	
	教育実習	2		●	●						○		○				141	3	47.0	
	介護実習	2		●							○		○				38	1	38.0	
	保育に関する科目	社会福祉概論(児童)	2			●			○								144	4	36.0	
		社会福祉援助技術(児童)	1			●	△				○		○				147	4	36.8	
		児童福祉論(児童)	2			●	△		○				○				148	2	74.0	
		保育原理A	2		◎	◎	◎		○				○				143	2	71.5	
		保育原理B	2			●	●		○				○				141	2	70.5	
		養護原理	2			●			○						○		139	4	34.8	
		小児保健Ⅰ	2			●			○						○		146	2	73.0	
小児保健Ⅱ		2			●			○						○		147	2	73.5		
小児保健実習		5			●						○			○		146	4	36.5		
小児栄養		2			●			○					○			157	4	39.3		
精神保健(児童)		2			●			○						○		144	2	72.0		
家族援助論		2			●	△		○					○			148	4	37.0		

保育に関する科目	乳児保育	2			●				○		○			146	4	36.5	
	障害児保育	2			●				○				○	140	4	35.0	
	養護内容	2			●				○				○	149	4	37.3	
	保育実習	2			●	●				○	○			134	3	44.7	
	保育課題研究	2	●	●	△					○	○			147	19	7.7	
	乳幼児心理学	1			△					○		○		42	2	21.0	
	地域福祉	1			△	●		○					○	84	2	42.0	
	児童文化	1			△									○	31	2	15.5
	乳児保育援助法	1			△					○				○	69	2	34.5
	音楽運動療法	2			△			○						○	26	1	26.0
	音楽3	2			△				○		○			130	4	32.5	
	音楽4	2			△				○		○			92	4	23.0	
	造形美術1	2			△				○		○		○	141	4	35.3	
	造形美術2	2			△				○		○		○	124	4	31.0	
	児童館の機能と運営	2				●	○							○	83	1	83.0
	児童の健全育成と福祉	2				●								○	152	2	76.0
	保育実習 II	2				●					○				145	1	145.0
保育実習 III	2					●				○				73	1	73.0	
す教養に関する科目	国際社会と日本	2								○				1	1	1.0	
	地球時代の国際理解	2								○				3	1	3.0	
	基礎英語 I	2								○				126	4	31.5	
														1クラス平均		38.5 人	

2009年度 専攻科児童教育専攻 開講科目

◎ 修了必修 ● 資格必修 △ 選択必修

科目の種類	授業科目	単位		資格科目		授業形態				教員配置			2009年度の修人員	2009年度開講クラス数	クラス当り履修人員	備考	
		必修	選択	小	幼	一般講義	講義実技	演習	実験実習	専任	兼任	非常勤					
教養科目	キリスト教的人間論Ⅰ	2		◎	◎	○				○			18	1	18.0		
	キリスト教的人間論Ⅱ		2			○				○			2	1	2.0		
	法学特論(日本国憲法)		2	△	△	○						○	12	1	12.0		
	情報と統計Ⅰ		2	△	△				○			○	15	1	15.0		
	情報と統計Ⅱ		2						○			○	12	1	12.0		
	英語オーラル・コミュニケーションⅠ		2	△	△				○				3	1	3.0		
	英語オーラル・コミュニケーションⅡ		2	△	△				○				7	1	7.0		
教員に 関する 科目	国語特論		2	△	△	○				○			18	1	18.0		
	社会特論		2	△		○				○			16	1	16.0		
	生活科特論		2	△	△	○						○	5	1	5.0		
	家庭文化特論		2	△	△	○				○			12	1	12.0		
	音楽研究		2	△	△		○			○			15	1	15.0		
	体育学研究		2	△	△		○			○			18	1	18.0		
	教職特論		2	△	△	○				○			11	1	11.0		
教職に 関する 科目	教育思想特論		2	△	△	○				○			16	1	16.0		
	教育学特論		2	△	△	○				○			11	1	11.0		
	教育史特論		2	△	△	○				○			3	1	3.0		
	発達心理学特論	2		◎	◎	○				○			18	1	18.0		
	臨床発達心理学特論		2	△	△	○				○			4	1	4.0		
	教育制度特論		2	△	△	○				○			18	1	18.0		
	国語科教育研究		2	△	△	○				○			16	1	16.0		
	社会科教育研究		2	△	△	○						○	13	1	13.0		
	算数科教育研究		2	△	△	○						○	12	1	12.0		
	理科教育研究		2	△	△	○						○	17	1	17.0		
	生活科教育研究		2	△	△	○						○	15	1	15.0		
	音楽科教育研究		2	△	△		○			○			14	1	14.0		
	家庭科教育研究		2	△	△	○						○	14	1	14.0		
	図工科教育研究		2	△	△		○			○			14	1	14.0		
	体育科教育研究		2	△	△		○			○			18	1	18.0		
	道徳教育研究		2	△	△	○				○			18	1	18.0		
	教育方法特論		2	△	△	○				○			17	1	17.0		
	幼児教育研究	2		◎	◎	○				○			24	1	24.0		
	保育内容研究(児童文化)		2	△	△	○						○	15	1	15.0		
	保育内容研究(表現Ⅰ)		2	△	△		○			○			11	1	11.0		
	保育内容研究(表現Ⅱ)		2	△	△		○			○			16	1	16.0		
	保育方法特論		2	△	△	○				○			13	1	13.0		
	教育相談特論		2	△	△	○				○			15	1	15.0		
	人と環境特論		2						○			○	9	1	9.0		
	児童福祉特論		2			○				○			22	1	22.0		
	教員に 関する 科目	近現代の歴史		2			○				○			4	1	4.0	
		環境学特論		2			○				○			1	1	1.0	
日英言語比較(専攻科)			2					○		○			12	1	12.0		
対話法			2					○		○			8	1	8.0		
異文化コミュニケーションⅠ			2	△	△			○		○			8	1	8.0		
修了研究Ⅰ		4		◎	◎			○		○			18	15	1.2		
修了研究Ⅱ		4		◎	◎			○		○			15	14	1.1		
													1クラス平均		12.2人		

資料2

授業評価アンケート（2009年度前期）

このアンケートは、本学の授業をよりよくするために学生の皆さんの意見をお聞きするものです。回答は、各自がパソコンのLive Campus教務支援システム(Web)を利用して、無記名で選択式の質問には5段階のうち最も適当な番号を、記述式の質問には自由な回答を入力してください。

授業科目名()	クラス名()
担当教員名()	
あなたの所属学科・専攻・学年を選択してください。	
(生活科 ・ 児童教育) 学科 ・ 専攻科	
(生活学科 ・ 生活福祉 ・ 食物栄養 ・ 児童教育) 専攻	
(1・2) 回生	

強く思う	そう思う	普通	余りそう 思わない	全くそう 思わない
5	4	3	2	1

- | | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1 授業内容に興味が持てましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 授業内容は将来に役立つあるいは有意義だったと思いますか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 総合して授業内容は満足であったと思いますか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 授業の進め方について、教員は工夫していましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 総合して授業方法は満足であったと思いますか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 この科目の講義概要を読みましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 この授業に意欲的に参加したと思いますか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

10 この授業を受けてよかった点を記述してください。

11 この授業について改善すべきと考える点を記述してください。

12 その他クラスの人数や設備・機器についての要望があれば記述してください。

【専任教員担当科目のみ、回答してください】

13 中間期の授業アンケートは、後半の授業に活かされましたか？あなたの感想を記述してください。

アンケートにご協力ありがとうございました。

授業評価アンケート（2009年度後期）

このアンケートは、本学の授業をよりよくするために学生の皆さんの意見をお聞きするものです。
回答は、各自がパソコンのLive Campus教務支援システム(Web)を利用して、無記名で
選択式の質問には5段階のうち最も適当な番号を、記述式の質問には自由な回答を入力してください。

授業科目名()	クラス名()
担当教員名()	
あなたの所属学科・専攻・学年を選択してください。	
(生活科・児童教育)学科・専攻科	
(生活学科・生活福祉・食物栄養・児童教育)専攻	
(1・2) 回生	

強くそう 思 う	そう思 う	普 通	余りそう 思 わ な い	全 く そ う 思 わ な い
5	4	3	2	1

- | | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1 授業内容に興味が持てましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 授業内容は知識や技能の取得に有意義だったと思いますか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 総合して授業内容は理解できましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 授業の進め方について、教員の工夫が感じられましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 担当教員の話し方は、聞き取りやすかったですか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 総合して授業方法は満足でしたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 授業には、遅刻・欠席せずに受講しましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 授業を受ける前に、Webシラバスで授業内容を確認しましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 予習・復習をして授業に臨みましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 この授業に意欲的に参加したと思いますか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 この授業を受けてよかった点を記述してください。 | | | | | |

- この授業について改善すべきと考える点を記述してください。
14 (批判ではなく、授業改善のために役立つと思う意見を書いてください。)

- 15 その他、意見があれば記述してください。

アンケートにご協力ありがとうございました。

資料3

2009年度 前期授業アンケート集計結果 (学科・専攻別)

学生回答期間: 2009年7月13日(月)~7月29

学科/専攻名	No.	アンケート項目	回答5	回答4	回答3	回答2	回答1	平均値
生活科学科 生活科学専攻	1	授業内容に興味が持てましたか。	153	239	227	37	15	3.71
	2	授業内容は将来に役立つあるいは有意義だったと思いますか。	173	237	221	29	11	3.79
	3	総合して授業内容は満足であったと思いますか。	148	233	252	29	9	3.72
	4	授業の進め方について、教員は工夫していましたか。	113	249	273	31	5	3.65
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	176	190	260	36	9	3.73
	6	総合して授業方法は満足であったと思いますか。	135	227	275	27	7	3.68
	7	この科目の講義概要を読みましたか。	103	187	323	40	18	3.47
	8	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	164	238	251	13	5	3.81
	9	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	166	180	287	31	7	3.70
生活科学科 生活科学専攻	集計		1331	1980	2369	273	86	3.69
生活科学科 食物栄養専攻	1	授業内容に興味が持てましたか。	86	218	426	50	26	3.36
	2	授業内容は将来に役立つあるいは有意義だったと思いますか。	94	240	415	30	27	3.43
	3	総合して授業内容は満足であったと思いますか。	68	187	491	33	27	3.29
	4	授業の進め方について、教員は工夫していましたか。	58	170	495	59	24	3.22
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	78	183	486	38	21	3.32
	6	総合して授業方法は満足であったと思いますか。	66	161	516	40	23	3.26
	7	この科目の講義概要を読みましたか。	57	74	571	38	66	3.02
	8	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	122	199	448	27	10	3.49
	9	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	118	171	470	30	17	3.43
生活科学科 食物栄養専攻	集計		747	1603	4318	345	241	3.31
生活科学科 生活福祉専攻	1	授業内容に興味が持てましたか。	83	105	166	19	6	3.63
	2	授業内容は将来に役立つあるいは有意義だったと思いますか。	80	102	178	16	3	3.63
	3	総合して授業内容は満足であったと思いますか。	76	90	199	9	5	3.59
	4	授業の進め方について、教員は工夫していましたか。	66	101	199	10	3	3.57
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	78	101	185	10	5	3.63
	6	総合して授業方法は満足であったと思いますか。	72	87	204	13	3	3.56
	7	この科目の講義概要を読みましたか。	36	48	261	23	11	3.20
	8	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	77	89	207	4	2	3.62
	9	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	57	85	229	5	3	3.50
生活科学科 生活福祉専攻	集計		625	808	1828	109	41	3.55
児童教育学科	1	授業内容に興味が持てましたか。	1028	1234	1781	144	58	3.71
	2	授業内容は将来に役立つあるいは有意義だったと思いますか。	1137	1149	1810	100	49	3.76
	3	総合して授業内容は満足であったと思いますか。	1045	1045	1970	121	64	3.68
	4	授業の進め方について、教員は工夫していましたか。	864	1048	2086	173	74	3.58
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	891	1063	2047	174	70	3.60
	6	総合して授業方法は満足であったと思いますか。	924	965	2158	132	66	3.60
	7	この科目の講義概要を読みましたか。	636	756	2527	205	121	3.37
	8	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	1002	1156	1986	69	32	3.71
	9	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	1060	974	2086	87	38	3.69
児童教育学科	集計		8587	9390	18451	1205	572	3.63
本科総計			11290	13781	26966	1932	940	3.59

学科/専攻名	No.	アンケート項目	回答5	回答4	回答3	回答2	回答1	平均値
専攻科 児童教育専攻	1	授業内容に興味が持てましたか。	0	5	5	0	1	3.27
	2	授業内容は将来に役立つあるいは有意義だったと思いますか。	0	8	2	0	1	3.55
	3	総合して授業内容は満足であったと思いますか。	0	6	4	0	1	3.36
	4	授業の進め方について、教員は工夫していましたか。	0	7	2	1	1	3.36
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	0	4	6	1	0	3.27
	6	総合して授業方法は満足であったと思いますか。	0	5	5	0	1	3.27
	7	この科目の講義概要を読みましたか。	0	0	1	10	0	2.09
	8	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	0	7	3	0	1	3.45
	9	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	0	7	3	0	1	3.45
専攻科 児童教育専攻	集計		0	49	31	12	7	3.23
本科/専攻科 総計			11290	13830	26997	1944	947	3.59

2009年度 後期授業アンケート集計結果（学科・専攻別）

学生回答期間

Aパターン:2010年1月12日(火)~1月22日(金)

BCDパターン:2010年1月25日(月)~2月5日(金)

学科/専攻名	No.	アンケート項目	回答5	回答4	回答3	回答2	回答1	平均値
生活科学科 生活科学専攻	1	授業内容に興味が持てましたか。	111	200	263	25	3	3.65
	2	授業内容は知識や技能の取得に有意義だったと思いますか。	112	216	249	24	1	3.69
	3	総合して授業内容は理解できましたか。	94	189	285	31	3	3.56
	4	授業の進め方について、教員の工夫が感じられましたか。	96	204	272	29	1	3.61
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	124	190	257	30	1	3.67
	6	担当教員の話し方は、聞き取りやすかったですか。	116	164	274	46	2	3.57
	7	総合して授業方法は満足でしたか。	108	179	288	24	3	3.61
	8	授業には、遅刻・欠席をせずに受講しましたか。	212	127	228	35	0	3.86
	9	授業を受ける前に、Webシラバスで授業内容を確認しましたか。	98	121	316	45	22	3.38
	10	予習・復習をして授業に臨みましたか。	40	80	368	82	32	3.02
	11	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	131	156	298	17	0	3.67
	12	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	126	175	286	13	2	3.68
生活科学科 生活科学専攻 集計			1368	2001	3384	401	70	3.58
生活科学科 食物栄養専攻	1	授業内容に興味が持てましたか。	74	196	276	46	30	3.38
	2	授業内容は知識や技能の取得に有意義だったと思いますか。	70	184	315	31	22	3.40
	3	総合して授業内容は理解できましたか。	45	174	315	63	25	3.24
	4	授業の進め方について、教員の工夫が感じられましたか。	56	176	323	50	17	3.33
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	67	166	341	35	13	3.38
	6	担当教員の話し方は、聞き取りやすかったですか。	73	145	329	57	18	3.32
	7	総合して授業方法は満足でしたか。	52	150	372	31	17	3.30
	8	授業には、遅刻・欠席をせずに受講しましたか。	176	142	246	45	13	3.68
	9	授業を受ける前に、Webシラバスで授業内容を確認しましたか。	58	85	292	128	59	2.93
	10	予習・復習をして授業に臨みましたか。	25	78	373	105	41	2.91
	11	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	99	149	330	35	9	3.47
	12	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	71	149	365	25	12	3.39
生活科学科 食物栄養専攻 集計			866	1794	3877	651	276	3.31
生活科学科 生活福祉専攻	1	授業内容に興味が持てましたか。	88	146	198	10	3	3.69
	2	授業内容は知識や技能の取得に有意義だったと思いますか。	86	107	241	8	3	3.60
	3	総合して授業内容は理解できましたか。	77	123	234	9	2	3.59
	4	授業の進め方について、教員の工夫が感じられましたか。	79	121	239	4	2	3.61
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	98	88	240	17	2	3.59
	6	担当教員の話し方は、聞き取りやすかったですか。	96	81	259	8	1	3.59
	7	総合して授業方法は満足でしたか。	80	107	254	3	1	3.59
	8	授業には、遅刻・欠席をせずに受講しましたか。	110	74	231	19	11	3.57
	9	授業を受ける前に、Webシラバスで授業内容を確認しましたか。	39	50	293	51	12	3.12
	10	予習・復習をして授業に臨みましたか。	18	39	325	45	18	2.99
	11	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	86	77	271	8	3	3.53
	12	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	76	74	291	3	1	3.50
生活科学科 生活福祉専攻 集計			933	1087	3076	185	59	3.50
児童教育学科	1	授業内容に興味が持てましたか。	558	575	1777	77	28	3.52
	2	授業内容は知識や技能の取得に有意義だったと思いますか。	569	481	1881	64	20	3.50
	3	総合して授業内容は理解できましたか。	498	523	1899	65	30	3.46
	4	授業の進め方について、教員の工夫が感じられましたか。	471	432	1989	98	25	3.41
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	466	424	2016	85	24	3.41
	6	担当教員の話し方は、聞き取りやすかったですか。	526	402	1970	83	34	3.43
	7	総合して授業方法は満足でしたか。	494	439	1991	62	29	3.43
	8	授業には、遅刻・欠席をせずに受講しましたか。	655	380	1893	74	13	3.53
	9	授業を受ける前に、Webシラバスで授業内容を確認しましたか。	525	249	2045	94	102	3.33
	10	予習・復習をして授業に臨みましたか。	317	278	2231	111	78	3.21
	11	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	492	436	2037	42	8	3.45
	12	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	536	437	1988	44	10	3.48
児童教育学科 集計			6107	5056	23717	899	401	3.43

学科/専攻名	No.	アンケート項目	回答5	回答4	回答3	回答2	回答1	平均値
専攻科 児童教育専攻	1	授業内容に興味が持てましたか。	15	16	26	0	2	3.71
	2	授業内容は知識や技能の取得に有意義だったと思いますか。	16	20	18	2	3	3.75
	3	総合して授業内容は理解できましたか。	11	24	19	2	3	3.64
	4	授業の進め方について、教員の工夫が感じられましたか。	15	8	27	4	5	3.41
	5	私語に対して注意するなど、授業に集中できる雰囲気でしたか。	18	6	25	7	3	3.49
	6	担当教員の話し方は、聞き取りやすかったですか。	16	10	24	6	3	3.51
	7	総合して授業方法は満足でしたか。	14	16	25	1	3	3.63
	8	授業には、遅刻・欠席をせずに受講しましたか。	27	9	12	7	4	3.81
	9	授業を受ける前に、Webシラバスで授業内容を確認しましたか。	22	5	11	4	17	3.19
	10	予習・復習をして授業に臨みましたか。	10	2	34	4	9	3.00
	11	授業中、私語を控え、学習に集中したと思いますか。	12	13	29	3	2	3.51
	12	この授業に意欲的に参加したと思いますか。	16	16	19	6	2	3.64
専攻科 児童教育専攻 集計			192	145	269	46	56	3.52

本科/専攻科 総計	回答5	回答4	回答3	回答2	回答1	平均値
	9466	10083	34323	2182	862	3.44

資料5

図書館利用者（学生）アンケート

アンケート設問は以下の通りである。

i) アンケート設問（該当事項に○をつけて下さい。）

何回生ですか？

（1回生・2回生・専攻科1回生・専攻科2回生）

学科・専攻は？

（生活科学科 — 生活科学・生活福祉・食物栄養 / 児童教育学科）

今年度になって図書館を利用するのは何回目ですか？

（初めて・2回～5回・6回～10回・それ以上利用している）

今日の図書館利用の目的は何ですか？（複数回答可）

（視聴覚利用・資料探し・雑誌を読みこ・自習・その他）

どのようにして資料を探していますか？（複数回答可）

（OPAC（検索機）を使って・スタッフに聞く・友だちに聞く・適当に
探す・その他（ ））

図書館の資料の印象はどうか？

（欲しい資料が揃っている・資料が古い・資料が少ない・ふつう・
その他（ ））

図書館のスタッフの対応はどうか？

（良い・ふつう・悪い・その他（ ））

今年度に入ってWebメールはどの程度利用していますか？

（利用したことがない・1回～5回・6回～10回・それ以上利用している）

図書館のホームページを見たことがありますか？

（ある・ない）

図書館に何か希望があればお書き下さい。

（ ）

ii) 実施期間と対象

各々の実施期間に来館した学生利用者を対象に任意で行った。

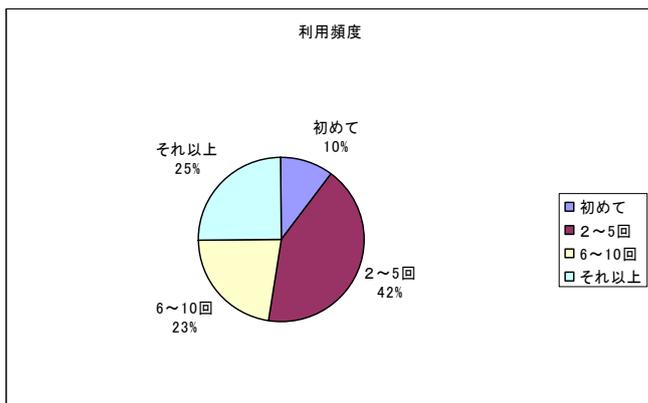
アンケート実施期間	回収数
2009年7月6日～2009年7月10日	163名
2009年7月13日～2009年7月17日	
2009年7月20日～2009年7月24日	

iii) 結果抜粋

今年度になって図書館を利用するのは、何回目ですか？

	初めての利用	2回～5回目	6回～10回目	それ以上利用
回答数	17	68	37	41

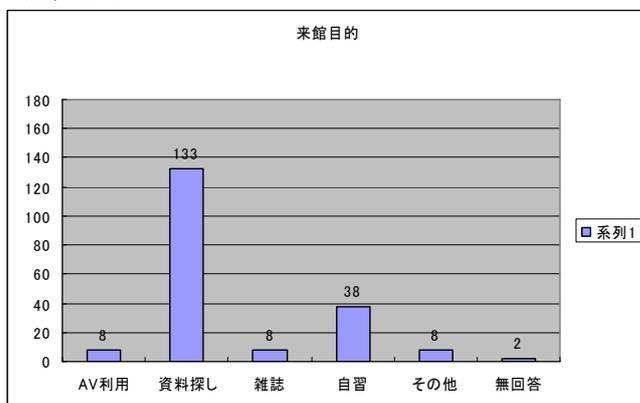
利用頻度



今日の図書館利用の目的は何ですか？（複数回答可）

	AV 利用	資料探し	雑誌	自習	その他	無回答
回答数	8	133	8	38	8	2

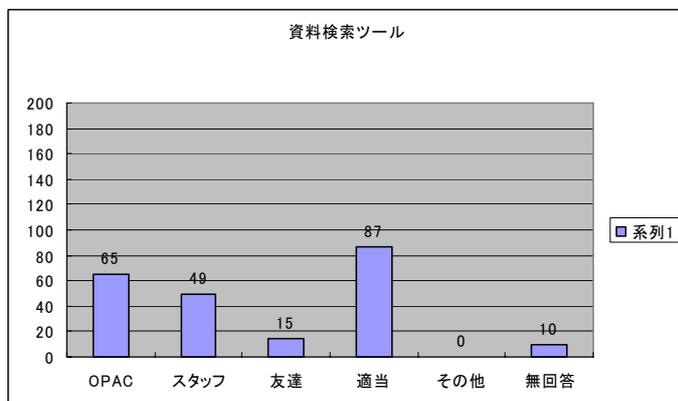
来館目的



どのようにして資料を探していますか？（複数回答可）

	OPAC を使 う	スタッフ に聞く	友だちに 聞く	適当に 探す	その他	無回答
回答数	65	49	15	87	0	10

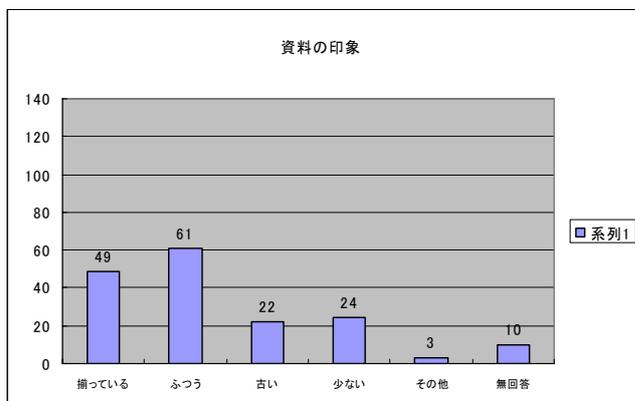
検索ツール



図書館の資料の印象は？ (複数回答有)

	揃っている	ふつう	古い	少ない	その他	無回答
回答数	49	61	22	24	3	10

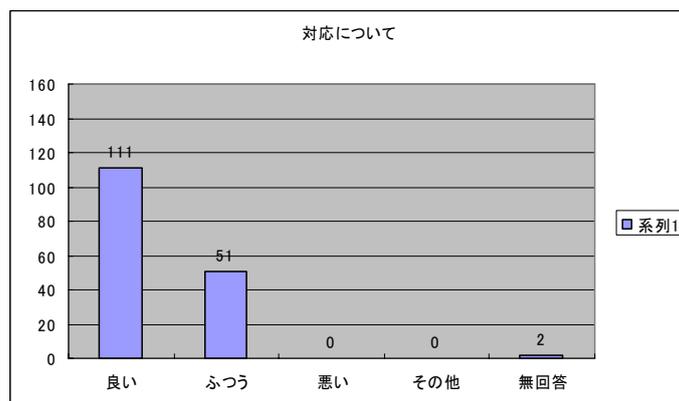
資料の印象



図書館員のスタッフの対応はどうか？ (複数回答有)

	良い	ふつう	悪い	その他	無回答
回答数	111	51	0	0	2

スタッフの対応



※検索ツール、資料の印象、スタッフの対応のその他欄外コメント省略。

(以下設問及びアンケート結果省略)

資料6

2009年度開講科目における単位認定状況表
全学共通科目(2009年度単位認定状況)

種別	期別	科目名称	授業形態	履修人員	クラス数	主 な 単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価					備考 担当者数
							本試	再試	計	優	良	可	認定	不可	
一般 教養 科目	前	キリスト教学 I	一般講義	279	7	期末の筆記試験・その他	97%	0%	97%	33%	41%	23%	0%	3%	4
	後	キリスト教学 II	一般講義	258	8	期末の筆記試験・その他	98%	0%	98%	29%	49%	20%	0%	2%	4
	後	人間学	一般講義	12	1	期末の筆記試験・その他	83%	0%	83%	42%	33%	0%	8%	17%	1
	後	社会学	一般講義	23	1	期末の筆記試験・その他	83%	0%	83%	35%	39%	9%	0%	17%	1
	前	こころの科学(基礎)	一般講義	36	1	期末の筆記試験	89%	0%	89%	56%	19%	11%	3%	11%	1
	後	こころの科学(基礎)	一般講義	63	1	期末の筆記試験	84%	0%	84%	51%	24%	10%	0%	16%	1
	前	こころの科学(一般)	一般講義	109	1	期末の筆記試験	89%	0%	89%	62%	17%	9%	0%	11%	1
	後	こころの科学(一般)	一般講義	85	1	期末の筆記試験	81%	1%	82%	54%	16%	12%	0%	18%	1
	後	物質の科学	一般講義	18	1	期末の筆記試験・その他	50%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	50%	1
	後	宇宙の歴史	一般講義	30	1	期末の筆記試験・その他	73%	3%	77%	37%	20%	17%	3%	23%	1
	前	自然のシステム	一般講義	43	1	レポート試験・その他	70%	0%	70%	63%	5%	2%	0%	30%	1
	後	自然環境と人間	一般講義	33	1	期末の筆記試験	55%	0%	55%	12%	15%	27%	0%	45%	1
	後	環境学	一般講義	67	1	期末の筆記試験・その他	76%	0%	76%	31%	25%	19%	0%	24%	1
	前	文学と女性	一般講義	18	1	レポート試験・その他	67%	0%	67%	61%	0%	0%	6%	33%	1
	後	文学と戦争	一般講義	120	1	レポート試験・その他	91%	1%	92%	67%	23%	3%	0%	8%	1
	前	音楽(合唱)	講義実技	31	1	その他	84%	0%	84%	29%	48%	6%	0%	16%	1
	前	美術史	一般講義	42	1	その他	71%	0%	71%	40%	12%	19%	0%	29%	1
	前	アジアの社会と文化	一般講義	60	1	レポート試験・その他	82%	0%	82%	47%	33%	2%	0%	18%	1
	前	経済学(国内編)	一般講義	106	1	レポート試験・その他	87%	4%	91%	50%	28%	12%	0%	9%	1
	後	経済学(国際編)	一般講義	54	1	レポート試験・その他	69%	0%	69%	54%	15%	0%	0%	31%	1
	前	くらしと法	一般講義	160	1	レポート試験・その他	81%	3%	83%	51%	24%	8%	0%	17%	1
	前	日本国憲法	一般講義	44	2	レポート試験・その他	82%	0%	82%	80%	2%	0%	0%	18%	1
	後	日本国憲法	一般講義	151	2	レポート試験・その他	98%	0%	98%	84%	7%	5%	3%	2%	1
	後	国際事情	一般講義	44	1	期末の筆記試験・その他	98%	0%	98%	23%	41%	34%	0%	2%	1
	前	パソコン入門	演習	276	8	実技試験・その他	93%	3%	95%	74%	12%	8%	3%	5%	2
	前	体育学A	講義実技	143	4	その他	95%	0%	95%	82%	10%	3%	0%	5%	2
	前	体育学B	講義実技	63	3	その他	98%	0%	98%	79%	16%	2%	2%	2%	2
	後	スポーツフィットネス	講義実技	16	1	その他	69%	6%	75%	38%	25%	6%	6%	25%	1
語学 教養 科目	前	総合英語A I	演習	49	2	期末の筆記試験・その他	88%	4%	92%	12%	18%	49%	12%	8%	1
	後	総合英語A II	演習	16	2	期末の筆記試験・その他	88%	6%	94%	13%	25%	31%	25%	6%	1
	前	総合英語B I	演習	14	1	期末の筆記試験・その他	57%	0%	57%	50%	0%	7%	0%	43%	1
	後	総合英語B II	演習	21	1	期末の筆記試験・その他	62%	10%	71%	33%	5%	33%	0%	29%	1
	前	英語会話 I	演習	100	3	その他	81%	2%	83%	59%	10%	11%	3%	17%	2
	後	英語会話 II	演習	28	1	その他	89%	0%	89%	57%	29%	4%	0%	11%	2
	前	フランス語 I	演習	17	1	その他	59%	0%	59%	18%	12%	18%	12%	41%	1
	後	フランス語 II	演習	7	1	その他	71%	0%	71%	14%	14%	14%	29%	29%	1
	前	中国語 I	演習	79	3	期末の筆記試験・その他	63%	13%	76%	25%	25%	24%	1%	24%	1
	後	中国語 II	演習	29	3	期末の筆記試験・その他	72%	3%	76%	31%	24%	21%	0%	24%	1
	前	日本語表現法 I	演習	22	1	レポート試験・その他	91%	0%	91%	77%	14%	0%	0%	9%	1
	後	日本語表現法 II	演習	7	1	レポート試験・その他	43%	0%	43%	29%	14%	0%	0%	57%	1

生活科学科生活専攻(2009年度単位認定状況)

種別	期別	科目名称	授業形態	履修人員	クラス数	主 な 単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価					備考	
							本試	再試	計	優	良	可	認定	不可		
学科共通科目	前	生活科学基礎演習 I (学科共通)	演 習	135	10	その他	93%	4%	98%	74%	13%	10%	0%	2%	10	
	後	生活科学基礎演習 II (学科共通)	演 習	133	10	その他	92%	0%	92%	74%	16%	3%	0%	8%	10	
	前	PC文書作成演習 I (学科共通)	演 習	117	3	実技試験	92%	0%	92%	79%	10%	3%	0%	8%	1	
	前	PCデータ活用演習 I (学科共通)	演 習	110	3	実技試験	89%	0%	89%	53%	21%	15%	0%	11%	1	
	後	PC文書作成演習 II (学科共通)	演 習	108	3	実技試験	94%	0%	94%	63%	25%	6%	0%	6%	1	
	後	PCデータ活用演習 II (学科共通)	演 習	100	3	実技試験	93%	1%	94%	52%	18%	24%	0%	6%	1	
	通年	●インターンシップII (生活)	演 習	2	1	その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	1	
専攻共通科目	前	生活科学概論 (生活)	一般講義	67	1	レポート試験・その他	88%	10%	99%	49%	25%	24%	0%	1%	1	
	通年	生活科学演習	演 習	57	10	その他	98%	0%	98%	81%	12%	5%	0%	2%	10	
	通年	卒業研究	演 習	57	10	その他	98%	0%	98%	75%	19%	4%	0%	2%	10	
	前	色彩論	一般講義	18	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	94%	6%	0%	0%	0%	1	
	前	デザイン基礎演習	演 習	25	1	作品提出・その他	96%	0%	96%	52%	36%	8%	0%	4%	1	
	後	人間関係の心理学 (生活)	一般講義	5	1	期末の筆記試験・その他	80%	0%	80%	40%	20%	20%	0%	20%	1	
	後	中国の生活文化	一般講義	31	1	レポート試験・その他	74%	0%	74%	61%	10%	3%	0%	26%	1	
	後	キャリア・フォーメーション (生活)	一般講義	55	1	その他	44%	0%	44%	29%	7%	7%	0%	56%	1	
	前	くらしの統計	一般講義	30	1	レポート試験・その他	70%	0%	70%	47%	17%	7%	0%	30%	1	
	前	社会福祉概論 (生活)	一般講義	11	1	レポート試験・その他	55%	0%	55%	36%	18%	0%	0%	45%	1	
	前	介護に関する知識と方法 I	一般講義	14	1	筆記試験・その他	57%	0%	57%	50%	7%	0%	0%	43%	1	
	前	介護に関する知識と方法 II	一般講義	9	1	レポート試験・その他	67%	0%	67%	11%	56%	0%	0%	33%	1	
	前	医学一般 (生活)	一般講義	21	1	期末の筆記試験・その他	76%	0%	76%	43%	14%	19%	0%	24%	1	
	前	介護技術講習	演 習	5	1	その他	60%	0%	60%	20%	20%	20%	0%	40%	1	
	通年	介護実習【施設】 (生活)	実験実習	5	1	その他	60%	0%	60%	0%	0%	0%	60%	40%	1	
	前	中国語コミュニケーション I (生活)	演 習	19	1	期末の筆記試験・その他	53%	16%	68%	42%	5%	21%	0%	32%	1	
	後	中国語コミュニケーション II (生活)	演 習	13	1	期末の筆記試験・その他	69%	0%	69%	46%	0%	23%	0%	31%	1	
	情報ビジネスコース	前	情報科学 (生活)	演 習	53	1	その他	91%	0%	91%	34%	38%	19%	0%	9%	1
		前	コンピュータ演習I	演 習	44	1	その他	91%	0%	91%	50%	32%	9%	0%	9%	1
		後	コンピュータ演習II	演 習	39	1	その他	90%	0%	90%	62%	21%	8%	0%	10%	1
後		コンピュータ演習III	演 習	28	1	その他	100%	0%	100%	36%	39%	25%	0%	0%	1	
前		簿記演習	演 習	63	1	期末の筆記試験・その他	92%	0%	92%	78%	10%	5%	0%	8%	1	
後		経営学概論	一般講義	59	1	期末の筆記試験・その他	86%	0%	86%	56%	27%	3%	0%	14%	1	
前		ビジネス実務論	一般講義	26	1	期末の筆記試験・その他	92%	0%	92%	12%	46%	35%	0%	8%	1	
後		ビジネス実務演習	一般講義	22	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	41%	32%	27%	0%	0%	1	
前		秘書学概論	一般講義	40	1	期末の筆記試験・その他	85%	0%	85%	40%	35%	10%	0%	15%	1	
後		秘書実務演習	演 習	29	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	59%	28%	14%	0%	0%	1	
後		マーケティング論 (生活)	一般講義	83	1	期末の筆記試験・その他	88%	1%	89%	40%	31%	18%	0%	11%	1	
前		プレゼンテーション演習	演 習	28	1	期末の筆記試験・その他	82%	0%	82%	14%	46%	21%	0%	18%	1	
前		京都ブランド	一般講義	47	1	その他	83%	0%	83%	19%	30%	34%	0%	17%	1	
後		コンピュータ・グラフィックス演習 I	演 習	39	1	作品提出・その他	87%	0%	87%	28%	26%	33%	0%	13%	1	
服飾アパレルコース		前	クリエイティブデザイン	一般講義	9	1	作品提出・その他	100%	0%	100%	89%	0%	11%	0%	0%	1
	前	パターンメイキング I	演 習	8	1	作品提出・その他	100%	0%	100%	50%	38%	13%	0%	0%	1	
	前	テキスタイル論・実験 I	実験実習	7	1	その他	100%	0%	100%	86%	14%	0%	0%	0%	1	
	後	テキスタイル論・実験 II	実験実習	8	1	その他	100%	0%	100%	88%	0%	13%	0%	0%	1	
	後	ファッションビジネス概論	一般講義	12	1	期末の筆記試験・その他	92%	0%	92%	67%	25%	0%	0%	8%	1	
	後	アパレルマーチャンダイジング演習	演 習	11	1	その他	73%	0%	73%	73%	0%	0%	0%	27%	1	
	後	パターンメイキング II	演 習	8	1	作品提出・その他	88%	0%	88%	38%	13%	38%	0%	13%	1	
	後	染色論・実習 I	実験実習	7	1	作品提出・その他	86%	0%	86%	86%	0%	0%	0%	14%	1	
	前	染色論・実習 II	実験実習	4	1	作品提出・その他	50%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	50%	1	
	前	パターンメイキング III	演 習	9	1	作品提出・その他	100%	0%	100%	44%	22%	33%	0%	0%	1	
	前	服飾文化論	一般講義	13	1	期末の筆記試験・その他	62%	0%	62%	23%	15%	0%	0%	38%	1	
	前	繊維製品品質管理論	一般講義	12	1	期末の筆記試験・その他	58%	8%	67%	8%	25%	33%	0%	33%	1	
	後	被服整理学・実験	実験実習	4	1	その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1	

住居インテリアコース	前	住生活論	一般講義	14	1	期末の筆記試験・その他	93%	0%	93%	71%	7%	14%	0%	7%	1
	前	住居一般構造	一般講義	9	1	期末の筆記試験・その他	78%	0%	78%	22%	33%	22%	0%	22%	1
	前	住居設計実習 I	実験実習	7	1	作品提出・その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
	後	住居設計実習 II	実験実習	7	1	作品提出・その他	100%	0%	100%	57%	43%	0%	0%	0%	1
	後	インテリアデザイン	一般講義	9	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	67%	33%	0%	0%	0%	1
	後	空間デザイン論	一般講義	11	1	期末の筆記試験・その他	82%	0%	82%	45%	9%	27%	0%	18%	1
	後	インテリア計画演習	演習	9	1	作品提出・その他	78%	0%	78%	78%	0%	0%	0%	22%	1
	後	建築CAD実習 I	実験実習	7	1	作品提出・その他	100%	0%	100%	86%	14%	0%	0%	0%	1
	前	建築CAD実習 II	実験実習	7	1	作品提出・その他	71%	0%	71%	71%	0%	0%	0%	29%	1
	前	住環境論	一般講義	10	1	期末の筆記試験・その他	80%	10%	90%	40%	40%	10%	0%	10%	1
	前	環境デザイン演習	演習	7	1	その他	43%	0%	43%	43%	0%	0%	0%	57%	1
	前	インテリア設計	演習	7	1	その他	71%	0%	71%	71%	0%	0%	0%	29%	1
	後	住宅施工・材料学	演習	5	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	80%	20%	0%	0%	0%	1
	後	構造力学	一般講義	8	1	期末の筆記試験・その他	88%	0%	88%	38%	25%	25%	0%	13%	1
	後	住宅法規	一般講義	7	1	期末の筆記試験・その他	86%	0%	86%	43%	29%	14%	0%	14%	1
	後	住宅法規	一般講義	9	1	期末の筆記試験・その他	89%	0%	89%	33%	22%	33%	0%	11%	1
後	住宅施工	一般講義	7	1	期末の筆記試験	100%	0%	100%	86%	0%	14%	0%	0%	1	
食デザインコース	前	食の基礎演習	演習	16	1	その他	88%	0%	88%	44%	44%	0%	0%	13%	1
	前	食と健康	一般講義	16	1	期末の筆記試験・その他	56%	19%	75%	25%	19%	31%	0%	25%	1
	前	調理科学・実習 I	実験実習	29	1	筆記・実技試験・その他	100%	0%	100%	86%	7%	7%	0%	0%	1
	後	調理科学・実習 II	実験実習	15	1	筆記・実技試験・その他	80%	0%	80%	80%	0%	0%	0%	20%	1
	後	食文化と科学	一般講義	16	1	期末の筆記試験・その他	13%	19%	31%	6%	0%	25%	0%	69%	1
	後	食と機能	一般講義	17	1	期末の筆記試験・その他	6%	24%	29%	6%	0%	24%	0%	71%	1
	後	身近な食品学実験	実験実習	16	1	期末の筆記試験・その他	75%	0%	75%	6%	13%	56%	0%	25%	1
	前	フードスペシャリスト論	一般講義	14	1	期末の筆記試験・その他	57%	7%	64%	43%	7%	14%	0%	36%	1
	前	食品官能評価・鑑別演習	演習	8	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	38%	50%	13%	0%	0%	1
	後	テーブルコーディネート演習	演習	14	1	期末の筆記試験・作品提出・その他	86%	0%	86%	29%	50%	7%	0%	14%	1
	後	食生活情報論	一般講義	20	1	その他	95%	0%	95%	45%	15%	35%	0%	5%	1
	後	生活文化論	一般講義	19	1	その他	79%	0%	79%	53%	0%	26%	0%	21%	1
	後	食生活デザイン演習	演習	12	1	期末の筆記試験・その他	83%	0%	83%	50%	33%	0%	0%	17%	1
	後	食と環境	一般講義	21	1	期末の筆記試験・その他	52%	5%	57%	5%	29%	24%	0%	43%	1

2009年度開講科目における単位認定状況表
生活科学科食物栄養専攻(2009年度単位認定状況)

種別	期別	科目名称	授業形態	履修人員	クラス数	主な単位認定の方法	単位の取得状況					最終の評価			備考 担当者数
							本試	再試	計	優	良	可	認定	不可	
学科共通	通年	インターンシップII(食栄)	演習	8	1	筆記試験・その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	1
	後	マーケティング論(食栄)	一般講義	2	1	その他	50%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	50%	1
	前	公衆衛生学	一般講義	46	1	筆記試験・その他	46%	9%	54%	46%	30%	24%	0%	0%	1
栄養士必修科目	前	社会福祉概論(食栄)	一般講義	46	1	期末の筆記試験	59%	0%	59%	59%	33%	9%	0%	0%	1
	後	解剖学	一般講義	46	1	レポート試験	15%	9%	24%	15%	17%	43%	0%	24%	1
	前	生理学	一般講義	46	1	期末の筆記試験	2%	61%	63%	2%	11%	87%	0%	0%	1
	前	解剖生理学実験	実験実習	35	1	期末の筆記試験	40%	0%	40%	40%	34%	20%	0%	6%	1
	後	生化学	一般講義	46	1	期末の筆記試験	39%	20%	59%	39%	26%	26%	0%	9%	1
	前	生化学実験	実験実習	35	1	期末の筆記試験	31%	31%	63%	31%	14%	37%	0%	17%	1
	後	病理学	一般講義	35	1	期末の筆記試験	51%	3%	54%	51%	31%	14%	0%	3%	1
	前	食品学 I	一般講義	46	1	期末の筆記試験	24%	54%	78%	24%	22%	54%	0%	0%	1
	後	食品学 II	一般講義	49	1	その他	8%	43%	51%	8%	18%	57%	0%	16%	1
	後	食品学実験実習	実験実習	48	1	期末の筆記試験	17%	40%	56%	17%	15%	58%	0%	10%	1
	後	食品衛生学(食栄)	一般講義	46	1	レポート試験	22%	13%	35%	22%	37%	39%	0%	2%	1
	後	食品衛生学実験実習	実験実習	35	1	レポート試験	20%	6%	26%	20%	31%	49%	0%	0%	1
	前	基礎栄養学	一般講義	52	2	期末の筆記試験	10%	69%	79%	10%	8%	83%	0%	0%	1
	後	応用栄養学実習	実験実習	34	1	期末の筆記試験	29%	0%	29%	29%	38%	18%	0%	15%	1
	後	臨床栄養学概論 I	一般講義	46	1	期末の筆記試験	4%	57%	61%	4%	7%	87%	0%	2%	1
	前	臨床栄養学概論 II	一般講義	35	1	期末の筆記試験	6%	57%	63%	6%	11%	80%	0%	3%	1
	前	臨床栄養学演習	演習	35	1	期末の筆記試験	14%	43%	57%	14%	9%	69%	0%	9%	1
	通年	臨床栄養学実習	実験実習	35	1	期末の筆記試験	0%	83%	83%	0%	3%	83%	0%	14%	1
	前	健康管理概論	一般講義	35	2	期末の筆記試験	63%	6%	69%	63%	26%	11%	0%	0%	1
	前	栄養教育論 I	一般講義	50	1	実技試験	14%	26%	40%	14%	36%	42%	0%	8%	1
	前	栄養指導論 II	一般講義	35	1	レポート試験	34%	14%	49%	34%	31%	23%	0%	11%	1
	前	栄養指導実習	実験実習	35	1	レポート試験	23%	6%	29%	23%	14%	60%	0%	3%	1
	後	公衆栄養学概論	一般講義	34	1	期末の筆記試験	32%	21%	53%	32%	18%	44%	0%	6%	1
	前	調理学	一般講義	46	1	レポート試験	43%	0%	43%	43%	57%	0%	0%	0%	1
	前	調理実習 I	実験実習	46	1	レポート試験	17%	0%	17%	17%	76%	7%	0%	0%	1
	後	調理実習 II	実験実習	46	1	期末の筆記試験	50%	0%	50%	50%	43%	7%	0%	0%	1
	前	調理実習 III	実験実習	35	1	期末の筆記試験	40%	0%	40%	40%	26%	34%	0%	0%	1
	前	給食計画論	一般講義	50	1	期末の筆記試験	10%	52%	62%	10%	20%	70%	0%	0%	1
	後	給食実務論	一般講義	49	1	期末の筆記試験	18%	22%	41%	18%	22%	47%	0%	12%	1
	通年	給食実務実習	実験実習	35	1	期末の筆記試験	40%	0%	40%	40%	46%	9%	0%	6%	1
通年	校外実習	実験実習	36	2	その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	75%	25%	1	
通年	校外実習事前事後指導	実験実習	35	1	筆記試験・実技試験	6%	0%	6%	6%	66%	9%	0%	20%	1	
前	食の基礎化学	一般講義	46	1	その他	9%	35%	43%	9%	15%	39%	0%	37%	1	

専攻選択科目	後	食と微生物	一般講義	17	1	その他	47%	0%	47%	47%	6%	29%	0%	18%	1
	後	おしゃべり食事考	一般講義	8	1	実技試験・その他	25%	0%	25%	25%	38%	0%	0%	38%	1
	後	小児保健	一般講義	21	1	その他	43%	0%	43%	43%	10%	10%	0%	38%	1
	前	応用栄養学	一般講義	34	1	期末の筆記試験	56%	3%	59%	56%	18%	6%	0%	21%	1
	後	学校栄養指導論	一般講義	13	1	その他	38%	0%	38%	38%	46%	15%	0%	0%	1
	前	教職論(食栄)	一般講義	14	1	その他	71%	0%	71%	71%	21%	7%	0%	0%	1
	前	教育原理(食栄)	一般講義	14	1	その他	43%	0%	43%	43%	36%	14%	0%	7%	1
	後	教育心理学(食栄)	一般講義	13	1	その他	31%	0%	31%	31%	15%	54%	0%	0%	1
	後	教育制度論(食栄)	一般講義	13	1	実技	62%	31%	92%	62%	8%	31%	0%	0%	1
	後	教育課程論(食栄)	一般講義	13	1	その他	92%	0%	92%	92%	8%	0%	0%	0%	1
栄養教諭科目	前	道徳教育・特別活動論	一般講義	8	1	その他	50%	0%	50%	50%	50%	0%	0%	0%	1
	後	教育方法論	一般講義	13	1	期末の筆記試験	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
	前	教育相談(食栄)	演習	9	1	レポート試験	78%	0%	78%	78%	22%	0%	0%	0%	1
	前	総合演習(食栄)	演習	9	1	期末の筆記試験	67%	0%	67%	67%	33%	0%	0%	0%	3

生活科学科生活福祉専攻(2009年度単位認定状況)

種別	期別	科目名称	授業形態	履修人員	クラス数	主 なる 単位認定の方法	単位の取得状況					最終の評価			備考
							本試	再試	計	優	良	可	認定	不可	
専攻共通科目	前	生活科学概論(福祉)	一般講義	24	1	期末の筆記試験・その他	88%	4%	92%	54%	29%	8%	0%	8%	1
	後	キャリア・フォォメーション(福祉)	一般講義	5	1	その他	60%	0%	60%	40%	20%	0%	0%	40%	1
	前	音楽運動療法	演習	8	1	レポート試験・その他	75%	0%	75%	63%	13%	0%	0%	25%	1
	後	音楽運動療法演習	演習	7	1	実技、レポート試験・その他	71%	0%	71%	29%	29%	14%	0%	29%	2
	後	ケアマネジメント	一般講義	12	1	その他	58%	0%	58%	25%	8%	25%	0%	42%	1
	前	社会保障論 I	一般講義	7	1	その他	43%	14%	57%	29%	14%	14%	0%	43%	1
	後	社会保障論 II	一般講義	4	1	その他	50%	25%	75%	25%	0%	50%	0%	25%	1
	前	公的扶助論	一般講義	4	1	その他	100%	0%	100%	25%	50%	25%	0%	0%	1
	後	地域福祉論	一般講義	4	1	その他	75%	0%	75%	50%	0%	25%	0%	25%	1
	前	児童福祉論 II	一般講義	5	1	期末の筆記試験・その他	80%	0%	80%	60%	0%	20%	0%	20%	1
専攻共通科目	前	生活と福祉	一般講義	22	1	その他	95%	5%	100%	32%	14%	55%	0%	0%	1
	後	生活と福祉	一般講義	15	1	その他	100%	0%	100%	73%	27%	0%	0%	0%	1
	後	ユニバーサルデザイン論	一般講義	18	1	その他	94%	0%	94%	39%	44%	11%	0%	6%	3
	前	健康と生活	一般講義	17	1	筆記、実技試験・その他	100%	0%	100%	41%	24%	35%	0%	0%	1
	前	障がい者の基礎知識	一般講義	16	1	筆記、レポート試験・その他	100%	0%	100%	50%	13%	38%	0%	0%	1
	前	こころとからだ I	一般講義	16	1	筆記、レポート試験・その他	94%	0%	94%	44%	50%	0%	0%	6%	1
	後	こころとからだ II	一般講義	15	1	レポート試験・その他	80%	0%	80%	40%	13%	27%	0%	20%	2
	後	脳とこころ	一般講義	15	1	その他	93%	0%	93%	60%	13%	20%	0%	7%	1
	後	人間関係の心理学(福祉)	一般講義	16	1	期末の筆記試験・その他	88%	0%	88%	63%	19%	6%	0%	13%	1
	前	医学一般(福祉)	一般講義	23	1	その他	91%	0%	91%	48%	22%	22%	0%	9%	1
専攻共通科目	前	保健医療サービス	一般講義	6	1	その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
	後	社会保障論	一般講義	20	1	その他	95%	0%	95%	75%	20%	0%	0%	5%	1
	前	高齢者に対する支援と介護保険制度	一般講義	9	1	その他	89%	0%	89%	78%	11%	0%	0%	11%	1
	後	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	一般講義	5	1	その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
	後	低所得者に対する支援と生活保護制度	一般講義	6	1	その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
	前	音楽表現法 I	演習	3	1	実技、レポート試験・その他	100%	0%	100%	67%	33%	0%	0%	0%	2
	後	音楽表現法 II	演習	4	1	実技、レポート試験・その他	75%	0%	75%	50%	25%	0%	0%	25%	2
	後	衣生活と福祉	一般講義	15	1	期末の筆記試験・その他	93%	7%	100%	20%	53%	27%	0%	0%	1
	前	食生活と福祉	一般講義	20	1	期末の筆記試験・その他	90%	0%	90%	45%	35%	10%	0%	10%	1
	後	住生活と福祉	一般講義	15	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	47%	47%	7%	0%	0%	1
介護福祉コース	後	ユニバーサルデザイン論	一般講義	3	1	その他	33%	67%	100%	33%	0%	67%	0%	0%	3
	前	ソーシャルワーク I	一般講義	6	1	その他	83%	0%	83%	67%	17%	0%	0%	17%	1
	前	ソーシャルワーク III	一般講義	4	1	その他	50%	25%	75%	50%	0%	25%	0%	25%	1
	後	ソーシャルワーク IV	一般講義	5	1	その他	60%	0%	60%	40%	0%	20%	0%	40%	1
	前	社会福祉援助技術演習 III	演習	5	1	その他	100%	0%	100%	60%	20%	20%	0%	0%	1
	後	社会福祉援助技術演習 IV	演習	5	1	レポート試験・その他	60%	40%	100%	20%	40%	40%	0%	0%	1
	前	社会福祉援助技術現場実習指導 II	演習	3	1	その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
	後	社会福祉援助技術現場実習指導 III	演習	3	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%	1
	前	社会福祉援助技術現場実習 II	実験実習	3	1	その他	100%	0%	100%	67%	33%	0%	0%	0%	1
	前	ユニバーサルデザイン演習 I	演習	19	1	その他	100%	0%	100%	68%	26%	5%	0%	0%	1
介護福祉コース	前	ケアの思想と対人援助	一般講義	16	1	その他	100%	0%	100%	38%	38%	25%	0%	0%	1
	後	人間の尊厳と自立	一般講義	20	1	その他	75%	20%	95%	50%	20%	25%	0%	5%	1
	後	生活と介護	一般講義	18	1	その他	100%	0%	100%	67%	17%	17%	0%	0%	1
	前	コミュニティサポート I	一般講義	7	2	レポート試験・その他	100%	0%	100%	43%	57%	0%	0%	0%	2
	後	コミュニティサポート I	一般講義	9	2	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	56%	33%	11%	0%	0%	2
	前	ライフサポートスキル I	一般講義	16	1	その他	100%	0%	100%	38%	44%	19%	0%	0%	2
	後	ライフサポートスキル II	一般講義	19	1	その他	74%	21%	95%	5%	26%	63%	0%	5%	2
	後	ケアマネジメント I	一般講義	15	1	その他	100%	0%	100%	47%	33%	20%	0%	0%	1
	後	ライフサポート演習 I	演習	15	2	レポート試験・その他	93%	7%	100%	80%	7%	13%	0%	0%	3
	後	ライフサポート実習 I	実験実習	15	1	その他	93%	0%	93%	13%	53%	27%	0%	7%	3
介護福祉コース	前	介護概論 I	一般講義	1	1	その他	100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	0%	1
	後	介護概論 II	一般講義	1	1	その他	100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	0%	1

前	社会福祉援助技術 (福祉)	一般講義	5	1	その他	100%	0%	100%	60%	20%	0%	20%	0%	1
前	社会福祉援助技術演習	演習	15	1	その他	100%	0%	100%	93%	7%	0%	0%	0%	1
後	家政学概論 I	一般講義	7	2	期末の筆記試験・その他	71%	29%	100%	14%	14%	71%	0%	0%	1
前	家政学概論 II	一般講義	1	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	0%	1
前	家政学実習 II	実験実習	15	2	その他	93%	7%	100%	53%	33%	13%	0%	0%	2
前	医学一般 III	一般講義	15	1	筆記、レポート試験・その他	100%	0%	100%	87%	7%	7%	0%	0%	1
後	精神保健 (福祉)	一般講義	15	1	筆記、レポート試験・その他	100%	0%	100%	93%	7%	0%	0%	0%	1
前	老人・障害者の心理 I	一般講義	5	1	筆記、レポート試験・その他	100%	0%	100%	60%	20%	0%	20%	0%	1
前	老人・障害者の心理 II	一般講義	15	1	筆記、レポート試験・その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
前	レクリエーション活動援助法 I	演習	1	2	その他	100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	0%	1
前	介護技術 I	演習	5	1	その他	100%	0%	100%	40%	20%	20%	20%	0%	1
後	介護技術 II	演習	1	1	その他	100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	0%	1
前	介護技術 III	演習	15	2	その他	100%	0%	100%	13%	33%	53%	0%	0%	2
後	形態別介護技術 I	演習	4	1	その他	100%	0%	100%	50%	50%	0%	0%	0%	1
前	形態別介護技術 I	演習	1	1	その他	100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	0%	1
後	形態別介護技術 II	演習	4	1	その他	100%	0%	100%	50%	25%	25%	0%	0%	1
後	形態別介護技術 II	演習	1	1	その他	100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	0%	1
前	形態別介護技術 III	演習	15	1	その他	93%	7%	100%	40%	40%	20%	0%	0%	1
前	形態別介護技術 IV (手話)	演習	15	1	末位、期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	20%	80%	0%	0%	0%	2
後	形態別介護技術 V (点訳)	演習	15	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	67%	27%	7%	0%	0%	1
前	介護実習 II	実験実習	15	1	その他	93%	7%	100%	27%	33%	40%	0%	0%	3
後	介護実習 III	実験実習	15	1	その他	100%	0%	100%	27%	33%	40%	0%	0%	3
後	訪問介護実習	実験実習	15	1	その他	100%	0%	100%	13%	20%	67%	0%	0%	3
前	介護実習指導 II	演習	15	1	その他	87%	13%	100%	13%	47%	40%	0%	0%	3
後	介護実習指導 III	演習	15	1	その他	67%	33%	100%	7%	33%	60%	0%	0%	3
前	現代社会と福祉	一般講義	6	1	その他	83%	0%	83%	83%	0%	0%	0%	17%	1
後	ソーシャルワーク II	一般講義	5	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	80%	20%	0%	0%	0%	1
前	相談援助演習 I	演習	7	1	筆記、レポート試験・その他	86%	0%	86%	86%	0%	0%	0%	14%	1
後	相談援助演習 II	演習	5	1	筆記、レポート試験・その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
後	相談援助実習指導 I	演習	5	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
後	相談援助実習 I	実験実習	5	1	その他	80%	0%	80%	0%	80%	0%	0%	20%	1
前	セクシュアリティック・レクリエーション	一般講義	20	1	その他	80%	5%	85%	55%	0%	30%	0%	15%	1

児童教育学科(2009年度単位認定状況)

種別	期別	科目名称	授業形態	履修人員	クラス数	主 単位の取得状況	最終の評価					備考			
							単位の取得状況	優	良	可	認定		不可		
教科に関する科目	前	国語	一般講義	34	1	その他	94%	0%	94%	91%	3%	0%	0%	6%	1
	後	社会	一般講義	31	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	39%	42%	19%	0%	0%	1
	前	算数	一般講義	10	1	期末の筆記試験・その他	90%	0%	90%	80%	10%	0%	0%	10%	1
	後	理科	一般講義	9	1	その他	89%	0%	89%	89%	0%	0%	0%	11%	1
	前	生活	一般講義	33	1	期末の筆記試験・その他	97%	0%	97%	21%	27%	48%	0%	3%	1
	前	家庭	一般講義	34	1	期末の筆記試験・その他	88%	6%	94%	38%	35%	21%	0%	6%	1
	前	音楽1	演習	147	4	実技試験・その他	95%	0%	95%	3%	50%	42%	0%	5%	2
	後	音楽2	演習	137	4	実技試験・その他	97%	0%	97%	11%	54%	32%	0%	3%	2
	前	図画工作1	演習	145	4	作品提出・その他	97%	0%	97%	72%	19%	7%	0%	3%	4
	後	図画工作2	演習	26	4	作品提出・その他	73%	0%	73%	65%	4%	4%	0%	27%	4
	後	体育1	演習	139	4	レポート試験・その他	97%	1%	98%	83%	10%	5%	0%	2%	2
	後	体育2	演習	138	4	レポート試験・その他	96%	1%	97%	83%	9%	5%	0%	3%	2
	前	教職論 (児童)	一般講義	35	1	レポート試験・その他	91%	0%	91%	63%	11%	17%	0%	9%	1
	前	保育者論	演習	138	4	期末の筆記試験・その他	96%	3%	99%	32%	53%	14%	0%	7%	1
	前	教育原理 (児童)	一般講義	138	3	期末の筆記試験・その他	96%	1%	97%	35%	46%	19%	1%	4%	1
	前	教育史	一般講義	26	1	その他	77%	4%	81%	19%	46%	15%	0%	19%	1
	後	教育史	一般講義	7	1	その他	86%	0%	86%	43%	43%	0%	0%	14%	1
前	発達心理学	一般講義	147	2	期末の筆記試験・その他	93%	1%	95%	64%	22%	8%	0%	5%	1	
前	教育心理学	一般講義	144	2	期末の筆記試験・その他	83%	13%	96%	51%	23%	22%	0%	4%	1	
前	教育制度論 (児童)	一般講義	35	1	期末の筆記試験・その他	89%	0%	89%	43%	43%	3%	0%	11%	1	
前	人権教育	一般講義	143	2	その他	79%	14%	93%	34%	24%	36%	0%	7%	1	
後	人権教育	一般講義	143	2	その他	84%	14%	98%	39%	27%	32%	0%	2%	1	
後	教育方法学	一般講義	33	1	その他	91%	3%	94%	91%	0%	3%	0%	6%	1	
前	教育課程論 (児童)	一般講義	35	1	期末の筆記試験・その他	89%	0%	89%	43%	43%	3%	0%	11%	1	
後	国語科教育法	一般講義	31	1	その他	100%	0%	100%	71%	29%	0%	0%	0%	1	
後	社会科教育法	一般講義	16	1	その他	75%	0%	75%	25%	38%	13%	0%	25%	1	
後	算数科教育法	一般講義	4	1	レポート試験・その他	75%	0%	75%	25%	25%	25%	0%	25%	1	
後	理科教育法	一般講義	26	1	その他	88%	0%	88%	81%	8%	0%	0%	12%	1	
後	生活科教育法	一般講義	32	1	その他	100%	0%	100%	50%	28%	22%	0%	0%	1	
後	家庭科教育法	一般講義	30	1	期末の筆記試験・その他	93%	3%	97%	27%	63%	7%	0%	3%	1	
後	音楽科教育法	一般講義	23	1	期末の筆記試験・その他	87%	0%	87%	13%	74%	0%	0%	13%	1	
後	図工科教育法	一般講義	25	1	その他	80%	0%	80%	60%	20%	0%	0%	20%	1	
後	体育科教育法	一般講義	36	1	その他	94%	0%	94%	58%	22%	14%	0%	6%	1	
前	道德教育の研究	一般講義	34	1	その他	56%	38%	94%	29%	15%	50%	0%	6%	1	
後	道德教育の研究	一般講義	46	1	その他	61%	2%	63%	33%	22%	9%	0%	37%	1	
後	特別活動の指導法	一般講義	34	1	その他	91%	0%	91%	62%	29%	0%	0%	9%	1	
後	保育内容・方法論	演習	143	4	期末の筆記試験・その他	94%	1%	95%	31%	47%	17%	0%	5%	1	
後	保育内容・健康1	演習	142	4	期末の筆記試験・その他	99%	0%	99%	67%	22%	10%	0%	1%	1	
前	保育内容・健康2	演習	81	2	期末の筆記試験・その他	96%	0%	96%	80%	11%	5%	0%	4%	1	
後	保育内容・人間関係1	演習	150	4	期末の筆記試験・その他	97%	2%	99%	71%	22%	5%	0%	1%	1	
後	保育内容・人間関係2	演習	151	4	期末の筆記試験・その他	97%	1%	99%	72%	22%	5%	0%	1%	1	

教職に関する科目	前	保育内容・環境1	演習	73	2	期末の筆記試験・その他	89%	3%	92%	37%	30%	25%	0%	8%	1	
	前	保育内容・環境2	演習	73	2	レポート試験・その他	89%	3%	92%	37%	30%	25%	0%	8%	1	
	後	保育内容・環境1	演習	72	2	期末の筆記試験・その他	99%	0%	99%	42%	32%	25%	0%	1%	1	
	後	保育内容・環境2	演習	72	2	レポート試験・その他	99%	0%	99%	42%	32%	25%	0%	1%	1	
	前	保育内容・言葉1	演習	73	2	その他	96%	1%	97%	85%	11%	1%	0%	3%	1	
	前	保育内容・言葉2	演習	73	2	その他	96%	1%	97%	85%	11%	1%	0%	3%	1	
	後	保育内容・言葉1	演習	70	2	その他	96%	0%	96%	50%	40%	6%	0%	4%	1	
	後	保育内容・言葉2	演習	70	2	その他	96%	0%	96%	50%	40%	6%	0%	4%	1	
	後	保育内容・表現A1	演習	139	4	その他	98%	0%	98%	6%	38%	53%	0%	3%	2	
	前	保育内容・表現A2	演習	139	4	その他	96%	1%	97%	6%	38%	53%	0%	3%	2	
	前	保育内容・表現B1	演習	139	4	作品提出・その他	98%	0%	98%	85%	12%	1%	0%	2%	2	
	前	保育内容・表現B2	演習	74	4	作品提出・その他	93%	0%	93%	80%	8%	5%	0%	7%	2	
	前	生徒指導論	一般講義	43	1	その他	88%	0%	88%	65%	12%	12%	0%	12%	1	
	後	教育相談(児童)	演習	35	1	期末の筆記試験・その他	89%	0%	89%	31%	31%	26%	0%	11%	1	
	前	保育相談	演習	72	2	期末の筆記試験・その他	97%	0%	97%	71%	24%	3%	0%	3%	1	
	後	保育相談	演習	76	2	期末の筆記試験・その他	99%	0%	99%	64%	25%	9%	0%	1%	1	
	通年	総合演習(児童)	演習	141	19	その他	99%	0%	99%	65%	26%	8%	0%	1%	19	
	通年	教育実習	演習	141	3	その他	104%	0%	104%	65%	26%	8%	0%	1%	19	
	通年	介護実習	実験実習	38	1	その他	100%	0%	100%	97%	3%	0%	0%	0%	19	
	保育に関する科目	前	社会福祉概論(児童)	一般講義	144	4	その他	94%	2%	96%	24%	41%	31%	0%	4%	1
		前	社会福祉援助技術(児童)	演習	74	2	その他	95%	0%	95%	66%	15%	14%	0%	5%	1
		後	社会福祉援助技術(児童)	演習	73	2	その他	99%	0%	99%	52%	38%	8%	0%	1%	1
		前	児童福祉論(児童)	一般講義	148	2	期末の筆記試験・その他	84%	10%	94%	47%	17%	30%	0%	6%	1
		前	保育原理A	一般講義	143	2	期末の筆記試験・その他	94%	2%	96%	65%	23%	8%	0%	4%	1
後		保育原理B	一般講義	141	2	期末の筆記試験・その他	90%	4%	94%	4%	26%	65%	0%	6%	1	
後		養護原理	一般講義	139	4	期末の筆記試験・その他	97%	0%	97%	68%	26%	4%	0%	3%	1	
前		小児保健I	一般講義	146	2	期末の筆記試験・その他	99%	0%	99%	82%	14%	3%	0%	1%	1	
後		小児保健II	一般講義	147	2	期末の筆記試験・その他	97%	2%	99%	68%	19%	12%	0%	1%	1	
前		小児保健実習	実験実習	74	2	期末の筆記試験・その他	97%	0%	97%	91%	5%	1%	0%	3%	2	
後		小児保健実習	実験実習	72	2	期末の筆記試験・その他	99%	1%	100%	51%	29%	19%	0%	0%	2	
前		小児栄養	一般講義	86	2	期末の筆記試験・その他	58%	13%	71%	13%	8%	50%	0%	29%	1	
後		小児栄養	演習	71	2	期末の筆記試験・その他	69%	14%	83%	8%	11%	63%	0%	17%	1	
前		精神保健(児童)	一般講義	71	1	期末の筆記試験・その他	89%	7%	96%	31%	32%	32%	0%	4%	1	
後		精神保健(児童)	一般講義	73	1	期末の筆記試験・その他	99%	1%	100%	25%	53%	22%	0%	0%	1	
後		家族援助論	一般講義	72	2	その他	94%	1%	96%	10%	33%	53%	0%	4%	1	
前		家族援助論	一般講義	76	2	その他	96%	3%	99%	33%	25%	41%	0%	1%	1	
前		乳児保育	演習	146	4	期末の筆記試験・その他	95%	0%	95%	69%	14%	12%	0%	5%	1	
前		障害児保育	演習	67	2	期末の筆記試験・その他	96%	0%	96%	25%	43%	27%	0%	4%	2	
後		障害児保育	演習	73	2	期末の筆記試験・その他	96%	0%	96%	96%	0%	0%	0%	4%	2	
前		養護内容	演習	74	2	期末の筆記試験・その他	97%	0%	97%	53%	31%	14%	0%	3%	1	
後		養護内容	演習	75	2	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	73%	24%	3%	0%	0%	1	
通年		保育実習	実験実習	131	1	その他	98%	0%	98%	70%	27%	1%	0%	2%	19	
前		保育実習	実験実習	3	3	その他	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	19	
通年		保育課題研究	実験実習	147	19	その他	99%	0%	99%	71%	17%	10%	0%	1%	19	
前		乳幼児心理学	演習	19	1	期末の筆記試験・その他	95%	0%	95%	79%	11%	5%	0%	5%	1	
後		乳幼児心理学	演習	23	1	期末の筆記試験・その他	61%	0%	61%	61%	0%	0%	0%	39%	1	
後		地域福祉	一般講義	84	2	その他	95%	0%	95%	49%	32%	14%	0%	5%	1	
後		児童文化	一般講義	31	2	その他	35%	0%	35%	29%	6%	0%	0%	65%	1	
前		乳児保育援助法	演習	46	1	その他	87%	0%	87%	17%	41%	28%	0%	13%	1	
後		乳児保育援助法	演習	23	1	その他	48%	0%	48%	43%	4%	0%	0%	52%	1	
後		音楽運動療法学	一般講義	26	1	レポート試験・その他	58%	0%	58%	31%	27%	0%	0%	42%	1	
前		音楽3	演習	130	4	その他	88%	1%	88%	8%	49%	31%	0%	12%	2	
前		音楽4	演習	92	4	その他	82%	1%	83%	20%	42%	21%	0%	17%	2	
前		造形美術1	演習	141	4	作品提出・その他	96%	0%	96%	57%	31%	8%	0%	4%	3	
後		造形美術2	演習	124	4	作品提出・その他	92%	0%	92%	79%	13%	0%	0%	8%	3	
前		児童館の機能と運営	一般講義	83	4	その他	69%	24%	93%	28%	17%	48%	0%	7%	1	
前		児童の健全育成と福祉	一般講義	152	2	その他	95%	3%	98%	22%	44%	32%	0%	2%	1	
前		保育実習II	実験実習	145	1	その他	99%	0%	99%	29%	58%	12%	0%	1%	19	
後		保育実習III	実験実習	73	1	その他	96%	0%	96%	38%	49%	8%	0%	4%	19	
教養に関する科目		前	国際社会と日本	一般講義	1	1	期末の筆記試験・その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	1
		後	地球時代の国際理解	一般講義	3	1	レポート試験・その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	1
		前	基礎英語I	一般講義	68	2	期末の筆記試験・その他	79%	10%	90%	24%	24%	43%	0%	10%	1
		後	基礎英語I	一般講義	58	2	期末の筆記試験・その他	79%	9%	88%	19%	28%	41%	0%	12%	1

専攻科 児童教育専攻(2009年度単位認定状況)

種別	期別	科目名称	授業形態	履修人員	クラス数	主 な 単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価					備考 担当者数
							本試	再試	計	優	良	可	認定	不可	
教科 に関する 科目	通年	修了研究 I	演習	18	15	その他	100%	0%	100%	72%	28%	0%	0%	0%	15
	通年	修了研究 II	演習	15	14	その他	100%	0%	100%	87%	7%	7%	0%	0%	14
	前	キリスト教的人間論 I	一般講義	18	1	その他	100%	0%	100%	39%	33%	28%	0%	0%	1
	後	キリスト教的人間論 II	一般講義	2	1	その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
	後	法学特論 (日本国憲法)	一般講義	12	1	その他	67%	0%	67%	67%	13%	0%	0%	33%	1
	後	情報と統計 I	演習	15	1	その他	93%	0%	93%	80%	0%	0%	0%	7%	1
	前	情報と統計 II	演習	12	1	レポート試験・その他	67%	0%	67%	58%	0%	8%	0%	33%	1
	前	英語オーラル・コミュニケーション I	演習	3	1	その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
	後	英語オーラル・コミュニケーション II	演習	7	1	その他	100%	0%	100%	43%	57%	0%	0%	0%	1
	教職 に関する 科目	前	国語特論	一般講義	18	1	筆記試験・その他	94%	0%	94%	56%	39%	0%	0%	6%
前		社会特論	一般講義	16	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
前		生活科特論	一般講義	5	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	80%	20%	0%	0%	0%	1
前		家庭文化特論	一般講義	12	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	33%	25%	42%	0%	0%	1
後		音楽研究	講義実技	15	1	実技試験・その他	93%	0%	93%	33%	60%	0%	0%	7%	1
前		体育学研究	講義実技	18	1	筆記試験・その他	100%	0%	100%	67%	22%	11%	0%	0%	1
前		教職特論	一般講義	11	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
後		教育思想特論	一般講義	16	1	レポート試験・その他	94%	0%	94%	38%	44%	13%	0%	6%	1
前		教育学特論	一般講義	11	1	その他	100%	0%	100%	45%	36%	18%	0%	0%	1
後		教育史特論	一般講義	3	1	その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
前		発達心理学特論	一般講義	18	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	39%	39%	22%	0%	0%	1
後		臨床発達心理学特論	一般講義	4	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
前		教育制度特論	一般講義	18	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	89%	11%	0%	0%	0%	1
後		国語科教育研究	一般講義	16	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
後		社会科教育研究	一般講義	13	1	期末の筆記試験・その他	92%	8%	100%	23%	38%	38%	0%	0%	1
後		算数科教育研究	一般講義	12	1	レポート試験・その他	83%	8%	92%	58%	25%	8%	0%	8%	1
前		理科教育研究	一般講義	17	1	その他	100%	0%	100%	76%	18%	6%	0%	0%	1
後		生活科教育研究	一般講義	15	1	その他	100%	0%	100%	33%	60%	7%	0%	0%	1
前		家庭科教育研究	一般講義	14	1	筆記試験・その他	86%	0%	86%	79%	7%	0%	0%	14%	1
前		音楽科教育研究	講義実技	14	1	その他	86%	0%	86%	7%	79%	0%	0%	14%	1
前		図工科教育研究	講義実技	14	1	その他	100%	0%	100%	57%	43%	0%	0%	0%	1
後		体育科教育研究	講義実技	18	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	33%	28%	39%	0%	0%	1
後		道德教育研究	一般講義	18	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	50%	39%	11%	0%	0%	1
後		教育方法特論	一般講義	17	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	94%	6%	0%	0%	0%	1
後		幼児教育研究	一般講義	24	1	期末の筆記試験・その他	88%	4%	92%	54%	25%	13%	0%	8%	1
前		保育内容研究 (児童文化)	一般講義	15	1	その他	100%	0%	100%	53%	27%	20%	0%	0%	1
後	保育内容研究 (表現 I)	講義実技	11	1	その他	91%	0%	91%	18%	64%	9%	0%	9%	1	
後	保育内容研究 (表現 II)	講義実技	16	1	その他	100%	0%	100%	63%	25%	13%	0%	0%	1	
後	保育方法特論	一般講義	13	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	92%	8%	0%	0%	0%	1	
後	教育相談特論	一般講義	15	1	その他	100%	0%	100%	53%	27%	20%	0%	0%	1	
前	人と環境特論	演習	9	1	レポート試験・その他	100%	0%	100%	67%	33%	0%	0%	0%	1	
教養 に関する 科目	前	児童福祉特論	一般講義	22	1	その他	100%	0%	100%	68%	32%	0%	0%	0%	1
	前	近現代の歴史	一般講義	4	1	期末の筆記試験・その他	75%	0%	75%	75%	0%	0%	0%	25%	1
	前	環境学特論	一般講義	1	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	1
	前	日英言語比較 (専攻科)	演習	12	1	期末の筆記試験・その他	92%	8%	100%	67%	8%	25%	0%	0%	1
	前	対話法	演習	8	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	88%	13%	0%	0%	0%	1
前	異文化コミュニケーション I	演習	8	1	期末の筆記試験・その他	100%	0%	100%	38%	38%	25%	0%	0%	1	

2009年度学科別進路状況

資料7-1

生活科学科	
企業	48
栄養士・栄養教諭	14
介護福祉士	14
公務員・その他	0
内定者合計 (A)	76
卒業生合計 (B)	108
就職希望者 (C)	83
就職希望率 (C/B)	76.9
就職率 (A/C)	91.6

進学希望者 (D)	11
進学合格者 (E)	11
卒業生合計 (B)	108
就職&進学希望者	94
進路決定者	87
進路決定者率	92.6

専攻科	
企業	0
小学校教諭	5
幼稚園教諭	5
保育士	3
公務員・その他	0
内定者合計 (A)	13
修了生合計 (B)	15
就職希望者 (C)	14
就職希望率 (C/B)	93.3
就職率 (A/C)	92.9

進学希望者 (D)	0
進学合格者 (E)	0
終了生合計 (B)	15
就職&進学希望者	14
進路決定者	13
進路決定者率	92.9

児童教育学科	
企業	0
小学校教諭	2
幼稚園教諭	45
保育士	54
公務員・その他	4
内定者合計 (A)	105
卒業生合計 (B)	147
就職希望者 (C)	108
就職希望率 (C/B)	73.5
就職率 (A/C)	97.2
進学希望者 (D)	25
進学合格者 (E)	25
卒業生合計 (B)	147
就職&進学希望者	133
進路決定者	130
進路決定者率	97.7

本科生全体	
企業	48
栄養士・栄養教諭	14
小学校教諭	2
幼稚園教諭	45
保育士	54
介護福祉士	14
公務員・その他	4
内定者合計 (A)	181
卒業生合計 (B)	255
就職希望者 (C)	191
就職希望率 (C/B)	74.9
就職率 (A/C)	94.3
進学希望者 (D)	36
進学合格者 (E)	36
卒業生合計 (B)	255
就職&進学希望者	227
進路決定者	217
進路決定者率	95.6

生活科学科	
進学者合計	11
内訳	
4大編入	6
専攻科	1
専門学校	4
留学	0

児童教育学科	
進学者合計	25
内訳	
4大編入	4
専攻科	19
専門学校	1
留学	1

専攻科	
進学者合計	0
内訳	
4大編入	0
専攻科	0
専門学校	0
留学	0

本科生全体	
進学者合計	36
内訳	
4大編入	10
専攻科	20
専門学校	5
留学	1

資料8

2009年度後期キャリアアワー及び就職ガイダンス 日程表

日時	内容／講師	対象
2009年 9月24日	後期キャリアアワーについて等 ※進路登録カード配布	生活科学科
10月1日	業種・職種別就職情報の検索について	一般企業（栄養士含む）就職 希望者
10月8日	後期キャリアアワーについて	児童教育学科・専攻科
	就職情報サイトガイダンス	一般企業（栄養士含む）就職 希望者
10月15日	就職情報サイトガイダンスと職務適正テスト/ 外部講師	一般企業（栄養士含む）就職 希望者
10月22日	本学就職支援システム登録と説明 ※進路登録カード提出	生活福祉専攻・食物栄養専攻 と及び児童教育学科の一般企 業就職希望者
10月29日	4年制大学指定校編入学希望者ガイダンス	進学希望者
11月12日	4年制大学一般編入学希望者向けガイダンス	4年生大学編入学希望者
11月26日	自己分析と自己PR ガイダンス PART2	一般企業（栄養士含む）就職 希望者
12月3日	栄養士関係希望者向けガイダンス	生活科学科食物栄養専攻
	児童関係希望者向けガイダンス 2回生の進路体験・進路のてびき配布	児童教育学科・児童教育専攻
	本学就職支援システム登録と説明 ※進路登録カード提出	生活科学科生活福祉専攻
12月17日	2回生の進路体験談／2回生の内定者及び進学決 定者	一般企業（栄養士含む）就職 希望者及び進学者
12月24日	企業研究・志望者動機の書き方ガイダンス	一般企業（栄養士含む）就職 希望者
2010年 1月14日	就職活動用メイクアップガイダンス／外部講師	一般企業（栄養士含む）就職 希望者
1月21日	生活福祉関係希望向けガイダンス	生活科学科生活福祉専攻
	児童関係の就職について等 ※進路登録カードの配布	児童教育学科
2月26日	企業人事担当者セミナー／外部講師 ロートレアモン（アパレル関係） 京都銀行（金融関係）	1回生
4月1日	マナーと面接の受け方ガイダンス 専門職希望者（児童関係,介護福祉士,ホームヘル パー,栄養士等）向け	免許資格職就職希望2回生
4月2日	就職活動の最終チェック	一般企業就職希望者
4月29日	採用者側から見た就職活動の視点	全員（児童教育学科1回生除 く）

資料9

2007年度～2009年度の収支計算書の概要

(単位 千円)

【資金収支計算書 / 資金収入の部】						
	2009年度		2008年度		2007年度	
	法人全体分	内短期大学分	法人全体分	内短期大学分	法人全体分	内短期大学分
学生生徒納付金収入	2,390,350	634,234	2,452,819	679,628	2,625,253	777,950
手数料収入	28,296	10,739	29,478	10,674	34,164	15,084
寄付金収入	127,812	10,643	118,423	4,500	65,088	2,000
補助金収入	1,004,660	91,555	981,223	73,745	1,068,184	93,362
資産運用収入	24,834	452	27,467	416	22,522	4,644
資産売却収入	288,202	288,202	0	0	1,934	0
事業収入	16,711	932	8,799	0	5,611	0
雑収入	162,245	14,659	346,665	26,244	205,520	60,812
借入金等収入	300,000	0	400,000	0	0	0
前受金収入	239,933	155,358	159,925	63,600	155,470	63,510
その他の収入	5,505,837	30,196	613,855	183,590	659,010	99,912
資金収入調整勘定	△ 334,009	△ 80,729	△ 499,941	△ 91,624	△ 367,968	△ 134,720
前年度繰越支払資金	489,856	3,427	1,100,572	4,811	1,064,576	2,996
収入の部合計	10,244,725	1,159,667	5,739,285	955,584	5,539,364	985,550
【資金収支計算書 / 資金支出の部】						
人件費支出	2,439,030	512,433	3,444,985	654,329	3,004,477	685,168
教育研究経費支出	500,273	135,995	396,847	132,610	452,701	148,861
管理経費支出	281,427	43,978	222,217	67,794	214,233	82,152
借入金等利息支出	15,296	378	17,264	2,200	22,006	2,400
借入金等返済支出	548,870	111,100	548,880	11,110	148,880	11,110
施設関係支出	393,230	6,383	134,056	31,500	28,808	4,305
設備関係支出	57,168	11,329	16,651	5,089	18,251	3,467
資産運用支出	4,488,882	17,239	744,759	0	298,618	0
その他の支出	1,175,418	364,222	486,604	113,668	518,026	109,985
資金支出調整勘定	△ 299,282	△ 47,109	△ 762,834	△ 66,143	△ 267,208	△ 66,710
次年度繰越支払資金	644,413	3,720	489,856	3,427	1,100,572	4,812
支出の部合計	10,244,725	1,159,667	5,739,285	955,584	5,539,364	985,550
【消費収支計算書 / 消費収入の部】						
	2009年度		2008年度		2007年度	
	法人全体分	内短期大学分	法人全体分	内短期大学分	法人全体分	内短期大学分
学生生徒納付金	2,390,350	634,234	2,452,819	679,628	2,625,253	777,950
手数料	28,296	10,739	29,478	10,674	34,164	15,084
寄付金	131,734	10,918	126,744	6,455	79,204	6,381
補助金	1,004,660	91,555	981,223	73,745	1,068,184	93,362
資産運用収入	24,834	452	27,467	416	22,522	4,644
資産売却差額	805	0	0	0	1,934	0
事業収入	17,669	932	8,525	0	5,507	0
雑収入	410,947	48,945	352,263	26,244	21,866	12,001
帰属収入合計	4,009,293	797,775	3,978,519	797,162	3,858,634	909,422
基本金組入額合計	△ 525,512	0	△ 237,312	△ 26,999	△ 172,814	△ 10,432
消費収入の部合計	3,483,781	797,775	3,741,207	770,163	3,685,820	898,990
【消費収支計算書 / 消費支出の部】						
人件費	2,573,564	505,369	3,418,974	665,963	2,811,171	614,564
教育研究経費	743,700	211,590	650,297	211,644	745,479	243,591
(内減価償却額)	(240,915)	(75,596)	(253,450)	(79,033)	(292,777)	(94,730)
管理経費	290,903	44,220	237,387	68,694	229,083	83,052
(内減価償却額)	(10,877)	(243)	(15,170)	(900)	(14,850)	(900)
借入金等利息	15,296	378	17,264	2,200	22,006	2,400
資産処分差額	28,367	22,368	12	0	46	0
徴収不能額	542	542	0	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	2,879	762	3,252	2,378	11,457	1,151
消費支出の部合計	3,655,252	785,229	4,327,186	950,879	3,819,242	944,758
当年度消費収支超過額	△ 171,472	12,546	△ 585,979	△ 180,716	△ 133,422	△ 45,768
基本金取崩額	186,351	186,351	67,530	0	0	-
翌年度繰越消費収支超過額	△ 2,583,303	-	△ 2,598,182	-	△ 2,079,733	-

資料10

2009年度末貸借対照表

2010年3月31日現在

(単位 千円)

【資産の部】			
	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	12,076,801	12,692,757	△ 615,956
有形固定資産	9,565,087	9,681,674	△ 116,587
その他の固定資産	2,511,713	3,011,083	△ 499,370
流動資産	891,007	914,773	△ 23,766
資産の部合計	12,967,808	13,607,530	△ 639,722
【負債の部】			
固定負債	1,166,843	1,437,888	△ 271,045
流動負債	745,597	1,468,315	△ 722,718
負債の部合計	1,912,440	2,906,203	△ 993,763
【基本金の部】			
基本金合計	13,638,671	13,299,509	339,162
【消費収支差額の部】			
翌年度繰越消費収支超過額	△ 2,583,303	△ 2,598,182	14,879

自己点検・評価委員会

委員長 コリンズ・ダニエル

委員 久保 妙子

委員 多羅間 拓也

委員 塚本 宏子

委員 中村 一郎

委員 福井 真裕子

委員 船越 暉由

委員 松本 好隆

委員 森 啓充

委員 山田 幸子

(50音順)